

授業科目		哲学		担当者	非常勤講師	
単位数(時間)		1単位(30時間)		講義時期	第2学年 後期	
【科目のねらい】 哲学的思考について理解し、人間の尊厳(人間の生きる意味・価値)を考え、主体的に判断し行動する基礎を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	哲学と学校の関係	「哲学」の語源について調べてみる。	非常勤講師
第2回		講義	教室	ロゴスとドクサ	ロゴスとドクサという言葉について調べてみる。	非常勤講師
第3回		講義	教室	「本当に存在するもの」とは何？ 哲学における真理への問い。	「本当に存在するもの」とただ そう見えるものの違いについて 考えてみる	非常勤講師
第4回		講義	教室	「哲学」への異議としての現代哲学	ニーチェについて調べてみる。	非常勤講師
第5回		講義	教室	悲劇的思考について (ソポクレス『アンティゴネー』を参照に)	『アンティゴネー』のストーリー を調べてみる。	非常勤講師
第6回		講義	教室	「真理」の意味の変化	プラトンの「洞窟の比喩」につ いて調べてみる。	非常勤講師
第7回		講義	教室	ニヒリズムと自由	ニヒリズムという言葉について 調べてみる。	非常勤講師
第8回		講義	教室	ニーチェの「超人」思想	超人思想について調べてみ る。	非常勤講師
第9回		講義	教室	動物の世界と人間の世界のちが	動物から世界がどう見えてい るか考えてみる。	非常勤講師
第10回		講義	教室	幼年期と言葉	「赤ちゃん」について考えてみ る	非常勤講師
第11回		講義	教室	私とは「誰」か？オイディプス王の悲劇から 考える。	自分が「誰」であるか考えてみ る	非常勤講師
第12回		講義	教室	ハイデガーの思想(1)	ハイデガーという哲学者につ いて調べてみる。	非常勤講師
第13回		講義	教室	ハイデガーの思想(2)と離人症	離人症という病について調べ てみる。	非常勤講師
第14回		講義	教室	道具と贈り物の違い	ひとはなぜ贈り物をするか考 えてみる。	非常勤講師
第15回		講義	教室	まとめ(第1回～第14回) —地球で共に生きるために	アレントについて調べてみる。	非常勤講師
【必須文献・参考文献】必要に応じて授業内でプリントを配ります。						
【評価の方法】 毎授業後にやる確認テストの総合点で評価します。						
【受講生へのメッセージ】授業を聴いてテーマについて、自分でさらに深く調べたり考えたりすることが大切です。						
【担当教員の実務経験】						
【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	教育学	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 教育の理論と方法を学ぶことにより、自己の成長をはかり、看護に適応させる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	教育学とは何か(講義内容の説明)		非常勤講師
第2回		講義	教室	「教育」とは何か(教育の意義、教育思想 他)		非常勤講師
第3回		講義	教室	「教育」とは何か(教育の不易と流行)		非常勤講師
第4回		講義	教室	「教育」とは何か(子どもや教育をめぐる現状と課題) 「学校」とは何か(学校の種類、他)		非常勤講師
第5回		講義	教室	「学校」とは何か(学校における教育の歩み)		非常勤講師
第6回		講義	教室	「学校」とは何か(学習指導の実際例、指導計画の書き方、他)		非常勤講師
第7回		講義	教室	「学校」とは何か(道徳、特別活動の指導原理と方法)		非常勤講師
第8回		講義	教室	「学校」とは何か(総合的な学習の時間の指導と実際)		非常勤講師
第9回		講義	教室	「学校」とは何か(コミュニティ・スクールの実際、これからの学校)		非常勤講師
第10回		講義	教室	「教師」とは何か(教える仕事の実際)		非常勤講師
第11回		講義	教室	「教師」とは何か(教える仕事に求められる資質)		非常勤講師
第12回		講義	教室	ワークショップ(模擬授業「認知症の予防」、「月経の仕組みと対処法」)		非常勤講師
第13回		講義	教室	ワークショップ(模擬授業「虫歯予防」、「歯磨き」)		非常勤講師
第14回		講義	教室	ワークショップ(模擬授業「感染症予防」、「正しい手洗いの仕方」)		非常勤講師
第15回		講義	教室	「子ども」とは何か(子どもの発達と子どもの現状)、まとめ、テスト		非常勤講師
【必須文献・参考文献】 教育力(著者:齋藤 孝、発行所:岩波新書)						
【評価の方法】 授業の中で行う模擬授業、レポート、参加度などで総合的に評価する。						
【受講生へのメッセージ】 「教育とは何か」という課題から問いを見だし、対話と熟議を通して合意形成を図りましょう。						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	細胞生物学	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年前期

【科目のねらい】
生命の基本構造・機能を理解し、生命の成り立ちに対する理解を深める。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	1章 生物学の基礎		非常勤講師
第2回		講義	教室	2章 細胞:1. 細胞を構成する物質		非常勤講師
第3回		講義	教室	2章 細胞:2. 細胞は生物の基本単位		非常勤講師
第4回		講義	教室	2章 細胞:3. 真核細胞の構造(細胞膜、核など)		非常勤講師
第5回		講義	教室	2章 細胞:4. 真核細胞の構造(小胞体、ゴルジ体など)		非常勤講師
第6回		講義	教室	2章 細胞:5. 真核細胞の構造(細胞骨格と細胞の運動)		非常勤講師
第7回		講義	教室	3章 遺伝とDNA:1. 遺伝現象		非常勤講師
第8回		講義	教室	3章 遺伝とDNA:2. 遺伝物質の探求、ゲノムと染色体		非常勤講師
第9回		講義	教室	3章 遺伝とDNA:3. DNAの複製、突然変異		非常勤講師
第10回		講義	教室	4章 遺伝情報の発現		非常勤講師
第11回		講義	教室	5章 細胞の増殖と死		非常勤講師
第12回		講義	教室	6章 動物の生殖と発生		非常勤講師
第13回		講義	教室	7章 免疫		非常勤講師
第14回		講義	教室	8章 がんの生物学		非常勤講師
第15回		講義	教室	9章 バイオテクノロジーと医療、まとめ		非常勤講師

【必須文献・参考文献】
教科書:医療・看護系のための生物学(改訂版) 裳華房
参考書:Essential細胞生物学原著第5版 南江堂

【評価の方法】
筆記試験 100点

【受講生へのメッセージ】
皆さんが将来看護することになるヒトも生物です。この講義で生物や細胞について主体的に学んでヒトへの理解を深めてください。

【担当教員の実務経験】
【担当教員以外の実務経験】

授業科目	行動科学	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

人間の行動を多角的に分析することで、行動の意味や法則性について科学的に理解する。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	行動科学の研究対象		非常勤講師
第2回		講義	教室	人の行動を測定する a) 知的行動		非常勤講師
第3回		講義	教室	人の行動を測定する b) 性格		非常勤講師
第4回		講義	教室	人の行動を測定する c) 学習		非常勤講師
第5回		講義	教室	行動決定の要因(遺伝と環境)		非常勤講師
第6回		講義	教室	医療行動		非常勤講師
第7回		講義	教室	健康行動		非常勤講師
第8回		試験	教室	試験		非常勤講師

【必須文献・参考文献】 講師持参資料

【評価の方法】

(筆記試験、レポート、参加度など) 100点

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	心理学			担当者	非常勤講師	
単位数（時間）	1単位（30時間）			講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】						
人間の心理と行動の基本的原理を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	心理学とは何か（講義内容の説明）		非常勤講師
第2回		講義	教室	心理学の歴史と研究方法		非常勤講師
第3回		講義	教室	感覚と知覚		非常勤講師
第4回		講義	教室	記憶のメカニズム		非常勤講師
第5回		講義	教室	長期記憶と忘却		非常勤講師
第6回		講義	教室	社会と集団		非常勤講師
第7回		講義	教室	対人認知		非常勤講師
第8回		講義	教室	医療職と心理学		非常勤講師
第9回		講義	教室	性格とパーソナリティ		非常勤講師
第10回		講義	教室	言語・知能		非常勤講師
第11回		講義	教室	感情と動機づけ		非常勤講師
第12回		講義	教室	学習		非常勤講師
第13回		講義	教室	心の適応と不適応		非常勤講師
第14回		講義	教室	心理療法		非常勤講師
第15回		講義	教室	講義内容まとめ、テスト		非常勤講師
【必須文献・参考文献】						
山村豊（2017）心理学 第6版—系統看護学講座—（医学書院）						
【評価の方法】						
筆記試験	レポート	参加度	100点			
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】						
【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	情報科学		担当者	非常勤講師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 後期		
【科目のねらい】 情報科学の基礎理論を理解し、電子機器を使用し研究に必要な情報処理方法を学び、情報通信技術(ICT)を活用するための基礎的能力を養う。						
	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義 演習	IT室	1. 情報の定義と特徴 ①情報とは②情報の特性③情報の認知と意思決定		非常勤講師
第2回		講義 演習	IT室	2. 社会と情報 ①情報社会の成立と発展 ②情報社会で求められること		非常勤講師
第3回		講義 演習	IT室	9. コンピュータリテラシーとセキュリティ ①コンピュータに関する基礎知識 ②インターネットに関する基礎知識と注意点		非常勤講師
第4回		講義 演習	IT室	12. Excelによる統計解析 表計算ソフトの操作方法 I グラフの作成、関数を使った計算方法		非常勤講師
第5回		講義 演習	IT室	表計算ソフトの操作方法 II 統計関数によるデータ分析		非常勤講師
第6回		講義 演習	IT室	表計算ソフトの操作方法 III 度数分布表、各種グラフの作成		非常勤講師
第7回		講義 演習	IT室	表計算ソフトの操作方法 IV 回帰直線、クロス集計、 時系列データのまとめ		非常勤講師
第8回		講義 演習	IT室	プレゼンテーション資料の作成		非常勤講師
第9回		講義 演習	IT室	プレゼンテーション(発表)		非常勤講師
第10回		講義	教室	3. 保健医療と情報 ①医療における情報 ②エビデンス情報に基づいた保健医療 ③ヘルスプロモーションと情報		専任教師
第11回		講義	教室	4. 看護と情報 ①看護における情報 ②情報社会と看護		専任教師
第12回		講義	教室	5. 医療における情報システム ①医療における情報の記録 ②病院情報システムと記録の仕方 ③地域医療福祉のネットワークと情報システム		専任教師
第13回		講義	教室	6. 情報倫理と医療 ①情報倫理とは ②知的財産権の尊重 ③プライバシーの尊重 ④情報の公正な提示 ⑤危害を与えないこと		専任教師

第14回		講義	教室	7. 患者の権利と情報 ①患者の権利と自己決定への支援 ②診療情報の開示		専任教師
第15回		講義	教室	8. 個人情報の保護 ①医療・看護における個人情報 ②情報の利用の仕方		専任教師
【必須文献・参考文献】						
・看護情報学 医学書院						
【評価の方法】						
課題提出状況及び内容、試験成績、出席状況を総合して評価します。 阿部講師(50点):各回の課題の達成度にて評価する。 専任教師(50点)						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】						
【担当教員以外の実務経験】専任教師:病院にて看護師として実務経験あり						

授業科目	人間関係論	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	2単位(45時間)	講義時期	第1学年 前期

【科目のねらい】

看護師として、ケアの対象との良好な関係構築のために必要な知識と技術(特にコミュニケーション能力)を学ぶ。
また、個人と集団の中での人間関係の在り方について患者・家族・組織・地域の視点から学ぶ。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	(事前・事後課題)	担当者
第1回		講義	教室	イントロダクション・人間関係の中の自己と他者	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第2回		講義	教室	対人関係と役割	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第3回		講義	教室	態度と対人行動	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第4回		講義	教室	集団と個人	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第5回		講義	教室	コミュニケーション①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第6回		講義・討論	教室	コミュニケーション②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第7回		講義	教室	カウンセリングと心理療法①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第8回		講義・討論	教室	カウンセリングと心理療法②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第9回		講義	教室	コーチング①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第10回		講義・討論	教室	コーチング②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第11回		講義	教室	アサーティブ-コミュニケーション①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第12回		講義・討論	教室	アサーティブ-コミュニケーション②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第13回		講義	教室	保健医療チームの人間関係①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第14回		講義・討論	教室	保健医療チームの人間関係②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第15回		講義	教室	患者を支える人間関係①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第16回		講義・討論	教室	患者を支える人間関係②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第17回		講義	教室	家族を含めた人間関係①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第18回		講義・討論	教室	家族を含めた人間関係②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第19回		講義	教室	地域をつくる人間関係①	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師

第20回		講義・討論	教室	地域をつくる人間関係②	事前に教科書の対応する章を読んでおくこと。	非常勤講師
第21回		講義・討論	教室	授業のまとめ①	事前に講義全体の内容を振り返っておくこと。	非常勤講師
第22回		講義・討論	教室	授業のまとめ②	事前に講義全体の内容を振り返っておくこと。	非常勤講師
第23回		試験	教室	終講試験		非常勤講師

【必須文献・参考文献】

必須文献: 石川ひろのほか(2018)『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』医学書院。

【評価の方法】

終講試験(100%)

【受講生へのメッセージ】

看護師は医師、患者とその家族など様々な人間関係のはざまにいる存在です。本授業では、講義・討論を通して、そもそも人間関係とは何なのか、自己や他者を自分がどう認識しているのか、他者を理解しより良い人間関係を築くためにはどのような方法があるのかについて学びます。これらの知識をもとに、より良い人間関係を築く方法を一緒に考えていきましょう。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	英語 I	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 前期			
【科目のねらい】 高校までに培った英語力を確認しつつ、看護に必要な医療英語の基礎を学び、国際社会に対応できる英語力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	Guidance	事前学修:テキストを準備する。 事後課題:授業内容を振り返る。	非常勤講師
第2回		講義	教室	Unit 1 Hospital Department	事前課題:Unit 1 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 1 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第3回		講義	教室	Unit 1 Hospital Department	事前課題:Unit 1 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 1 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第4回		講義	教室	Unit 2 Application Forms	事前課題:Unit 2 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 2 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第5回		講義	教室	Unit 2 Application Forms	事前課題:Unit 2 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 2 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第6回		講義	教室	Unit 3 Parts of the Body	事前課題:Unit 3 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 3 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第7回		講義	教室	Unit 3 Parts of the Body	事前課題:Unit 3 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 3 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第8回		講義	教室	Unit 4 Illnesses	事前課題:Unit 4 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 4 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第9回		講義	教室	Unit 4 Illnesses	事前課題:Unit 4 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 4 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第10回		講義	教室	Review 1 Unit 1-4 学習到達度確認テスト1	事前課題:Unit 1～Unit 4 学習内容を復習する。 事後学習:テスト解答の振り返りをする。	非常勤講師
第11回		講義	教室	Unit 5 Daily Routine	事前課題:Unit 5 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 5 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師

第12回		講義	教室	Unit 5 Daily Routine	事前課題:Unit 5 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 5 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第13回		講義	教室	Unit 6 Hospital Object	事前課題:Unit 6 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 6 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第14回		講義	教室	Unit 6 Hospital Object	事前課題:Unit 6 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 6 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第15回		講義	教室	Review 2 Unit 5-6 学習到達度確認テスト2	事前課題:Unit 5～ Unit 6 学習内容を復習する。 事後学習: テスト解答の振り返りをする。	非常勤講師

【必須文献・参考文献】『Vital Signs』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。

【評価の方法】(1) Activity評価(個人発表、ペアワーク、クラスワーク、課題提出含む)40%、Reviewテスト(2回)60% (2)学校より公認と認められた欠席の場合には、本人からの申し出により、教員から指示された内容の課題を提出することができます。

【受講生へのメッセージ】

このクラスでは、個人発表、ペアワークやクラスワークにおいて、積極的な Class Activity への参加が求められます。

評価のポイント : ①英語の音を正しく聞いて、正しく発音できるように練習する。

②テキストに出てきた語彙語句・表現の意味を調べて理解する。

③グローバルな視点に立ち、世界の様々な地域の医療に関わるマインドを育む。

④看護の現場においても英語を使って積極的なコミュニケーションスキルを身につけるために、授業の中で練習、発表に積極的に取り組む。

※1努力したこと、取り組んだことすべてが評価につながります。

※2学習理解に重点を置くため、進度が遅くなる場合もあります。

※3シラバスの内容に変更が生じた場合は、その都度、授業内でアナウンスします。

【担当教員の実務経験】石巻赤十字看護専門学校非常勤講師、東北学院大学非常勤講師、宮城学院女子大学非常勤講師、日本大学工学部非常勤講師

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	英語Ⅱ	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年後期

【科目のねらい】

国際活動を行う基礎力を養うために、英語文化圏における日常生活で使用される表現を学びコミュニケーション力を養う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	Unit 7 Locations of Hospital Objects	事前課題:Unit 7 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 7 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第2回		講義	教室	Unit 7 Locations of Hospital Objects	事前課題:Unit 7 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 7 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第3回		講義	教室	Unit 8 Hospital Directions and Instructions	事前課題:Unit 8 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 8 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第4回		講義	教室	Unit 8 Hospital Directions and Instructions	事前課題:Unit 8 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 8 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第5回		講義	教室	Review 3 Unit 7-8 学習到達度確認テスト3	事前課題:Unit 7~ Unit 8 学習内容を復習する。 事後学習: テスト解答の振り返り	非常勤講師
第6回		講義	教室	Unit 9 Directions (Outside the Hospital)	事前課題:Unit 9 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 9 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第7回		講義	教室	Unit 9 Directions (Outside the Hospital)	事前課題:Unit 9 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 9 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第8回		講義	教室	Unit 10 Chatting with a Patient	事前課題:Unit 10 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 10 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第9回		講義	教室	Unit 10 Chatting with a Patient	事前課題:Unit 10 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 10 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第10回		講義	教室	Unit 11 Taking a Medical History	事前課題:Unit 11 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 11 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第11回		講義	教室	Unit 11 Taking a Medical History	事前課題:Unit 11 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 11 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師

第12回		講義	教室	Unit 12 Hospital Procedures	事前課題:Unit 12 前半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 12 前半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第13回		講義	教室	Unit 12 Hospital Procedures	事前課題:Unit 12 後半 語彙語句、表現の意味と発音を確認してくる。 事後学習:Unit 12 後半 語彙語句、表現の意味と発音の確認と内容を振り返る。	非常勤講師
第14回		講義	教室	Review 4 Unit 9-12 学習到達度確認テスト4	事前課題:Unit 9～ Unit 12 学習内容を復習する。 事後学習: テスト解答の振り返り	非常勤講師
第15回		講義	教室	まとめ 総評	総評、振り返り	非常勤講師

【必須文献・参考文献】(英語Iで使用した)『Vital Signs』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。

【評価の方法】(1) Activity評価(個人発表、ペアワーク、クラスワーク、課題提出含む)40%、Reviewテスト(2回)60% (2)学校より公認と認められた欠席の場合には、本人からの申し出により、教員から指示された内容の課題を提出することができます。

【受講生へのメッセージ】

このクラスでは、個人発表、ペアワークやクラスワークにおいて、積極的な Class Activity への参加が求められます。

評価のポイント: ①英語の音を正しく聞いて、正しく発音できるように練習する。

②テキストに出てきた語彙語句・表現の意味を調べて理解する。

③グローバルな視点に立ち、世界の様々な地域の医療に関わるマインドを育む。

④看護の現場においても英語を使って積極的なコミュニケーションスキルを身につけるために、授業の中で練習、発表に積極的に取り組む。

※1努力したこと、取り組んだことすべてが評価につながります。

※2学習理解に重点を置くため、進度が遅くなる場合もあります。

※3シラバスの内容に変更が生じた場合は、その都度、授業内でアナウンスします。

授業科目	英語Ⅲ	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 将来国際活動を行うために、臨床現場で使われる医療英語や、看護師と患者の基本的な会話や英語表現などを学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	オリエンテーション（授業の進め方、予習の仕方などについての説明をします） Chapter 1 Welcoming a Patient Topics:位置を示す表現・病院内施設 医療語彙:病室内備品	事前課題: Expression to Remember Topic 1・2を予習する 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第2回		講義	教室	Chapter 2 Taking Vital Signs (バイタルサインの測定) Topics:バイタルを測る機器器・看護物品 医療語彙:脈拍測定部位	事前課題: Expression to Remember Topic 1・2を予習する 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第3回		講義	教室	Chapter 3 Pain Assessment (痛みのアセスメント) Topics:痛みを表す表現・痛みの問診術 医療語彙:体の部位名	事前課題: Expression to Remember Topic 1・2を予習する 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストをします)	非常勤講師
第4回		講義	教室	Chapter 4 Feeling so Sick! (症状) Topics:症状チェック表・様々な症状 医療語彙:検査項目の表現	事前課題: Expression to Remember Topic 1・2を予習する 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第5回		講義	教室	Chapter 5 Transferring a Patient (体位変換・移乗の表現) Topics:体位・動きの表現 医療語彙:歩行補助機器について	事前課題: Expression to Remember Topic 1・2を予習する 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第6回		講義	教室	Chapter 6 Medical Departments (診療科) Topics:診療科と専門医・検査の表現 医療語彙:人体器官系	事前学習:p41の問題を予習しておく。事後学習:前置詞について文法の参考書などを使って復習する。	非常勤講師
第7回		講義	教室	Chapter 7 Review & Medial Terminology (まとめと医学英語の構造について)	事前学習:復習問題なので解いてみてください 事後学習:医学英語の構造について復習してください	非常勤講師
第8回		講義	教室	Chapter 8 Personal Care (日常生活援助) Topics:身だしなみ用具・日常生活援助 医療語彙:専門家との連携	事前課題: Expression to Remember 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第9回		講義	教室	Chapter 9 Giving Medication to a Patient Topics:薬剤の種類・投薬指示の表現 医療語彙:薬の効能について	事前課題: Expression to Remember 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第10回		講義	教室	Chapter 10 Elimination (Bowel movement /Urination) 排泄(排便・排尿) Topics:排泄の表現・排尿の仕組み 医療語彙:排便、排尿にかかわる語彙	事前課題: Expression to Remember 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第11回		講義	教室	Chapter 11 Chronic Diseases (慢性疾患) Topics:患者情報収集・慢性病について 医療語彙:慢性疾患にかかわる語彙	事前課題: Expression to Remember 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第12回		講義	教室	Chapter 12 Critical Care/ Operating Room Topics:救急室で・周手術期看護 医療語彙:集中治療室関連の用語	事前課題: Expression to Remember 事後課題: Expression to Rememberを暗記する(次回小テストします)	非常勤講師

第13回		講義	教室	Chapter 13 Pregnancy Check-up Topics:妊娠初期・中期/陣痛と出産 医療語彙:産科用語	事前課題:Expression to Remember 事後課題:Expression to Remember を暗記する(次回小テストします)	非常勤講師
第14回		講義	教室	Chapter 14 Review & Medical Reading (まとめと医学英文読解) 振り返りの問題のほうをやります	事前課題:復習なので問題を解いて みてください 事後課題:期末試験を意識して復習 しておいてください	非常勤講師
第15回		講義	教室	Chapter 14 Review & Medical Reading (まとめと医学英文読解) 医学英文を読んでみます	事前課題:医学統計に関するよくあ る表現が学べるので、辞書を使って 読んでみましょう 事後課題:語彙や表現を復習してく ださい	非常勤講師

【必須文献・参考文献】

Talking with Your Patients in English (成美堂)

【評価の方法】

<授業内のアクティビティ(10%)、授業内小テスト(40%)、筆記試験(50%)> 100点

【受講生へのメッセージ】

本講義の目的は、医療現場で必要とされる英語表現・専門用語を習得し、実際に使用することです。これまで学んできた「英語」の力を発展させ、現場でのコミュニケーションツールとしましょう。

- ①授業には必ず辞書(電子辞書可、携帯電話不可)を持参してください。
- ②指示された箇所の予習・復習、宿題に取り組んでください。
- ③現場で使う英語表現を、声に出してたくさん習得しましょう。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	異文化論・グローバルヘルス		担当者	非常勤講師 専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 グローバルヘルスの現状と課題や、様々な文化的背景を持つ人々の健康に関する考え方や生活の背景を理解し、看護ケアに活かすための要素を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	A 国際看護学とは p242～258 ①健康に影響する世界の課題 ②国際看護学の定義 ③国際看護学の対象 ④国際看護学に関連する基礎知識	事前課題:教科書を読む 事後課題:授業内容を振り返る	専任教師
第2回		講義	教室	B 国際協力の基礎知識 p263～282 ①国際協力のしくみ ②国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 ③国際救援の調整 ④開発協力と関連機関	事前課題:教科書を読む 事後課題:講義内容を振り返る	専任教師
第3回		講義	教室	健康に影響する世界の課題 ②世界の健康問題 ◆感染症の脅威 開発協力と看護 ①開発協力と看護 ◆感染症	事前課題:途上国で蔓延する 感染症と感染経路に ついて調べる 事後課題:講義内容を振り返る	専任教師
第4回		講義	教室	C 国際協力と看護 ②国際看護活動の展開過程 D わが国における文化や制度を考慮した在留外国人 への看護実践	事前課題:様々な文化を調べる 事後課題:講義内容を振り返る	外部講師
第5回		講義	教室	赤十字の国際活動の実際(看護師) 派遣経験者の活動の実際を聞き、赤十字の国際活動 への理解を深める		外部講師
第6回		講義	教室	移民・難民の健康問題		外部講師
第7回		講義	教室	赤十字の国際救援活動の実際		外部講師
第8回		講義	教室	赤十字の国際活動の実際(他職種を含む) 赤十字の国際活動への理解を深める	事前課題:赤十字の活動について 復習してくる 事後課題:講義内容を振り返る	専任教師
第9回		GW	教室	SDGsの取り組みについて調べる	事前課題:SDGsについて 事後課題:課題に取り組む	専任教師
第10回		GW	教室			
第11回		GW	教室	発表		専任教師
第12回		講義	教室	国際人道法について	事後課題を後日提示する	外部講師
第13回		講義	教室	C 国際協力と看護 ③国際救援と看護 赤十字の国際救援事業についてグループワーク GW シリアの人道危機 南スーダン人道危機 西アフリカエボラウイルス病の流行	事前課題:国際救護と看護を読む 事後課題:課題に取り組む	専任教師
第14回		GW	教室			
第15回		GW	教室	GW 発表		専任教師
【必須文献・参考文献】 教科書:系統看護学講座 専門 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院						
【評価の方法】 試験(70%) グループワーク(20%) レポート(10%)						
【受講生へのメッセージ】 国際救援経験のある外部講師も講義を担当します。グループワークでは講義で学んだことをもとに国際救援活動についての学びを深めていきます。積極的に参加してください。						

授業科目	保健体育	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 前期

【科目のねらい】

スポーツを通して、目的達成のためのコミュニケーション能力(伝える力、聞く力)と人間関係構築をする能力(協力・責任・公正)の向上を図る。また、運動が身体に及ぼす影響について理解し、体力と健康に関する知識を習得する。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		実技	ビッグバン	ガイダンス(授業の趣旨、注意事項の説明)、準備運動		非常勤講師
第2回		実技	ビッグバン	コミュニケーション・バドミントン基本動作、基本練習オーバーヘッドなど		非常勤講師
第3回		実技	ビッグバン	集団の生産性・バドミントン基本動作、ドロップなど		非常勤講師
第4回		実技	ビッグバン	集団凝集性・バドミントン基本動作、ハイクリアなど		非常勤講師
第5回		実技	ビッグバン	リーダーシップ・バドミントン基本動作、サーブなど		非常勤講師
第6回		実技	ビッグバン	集団規範・バドミントンゲーム		非常勤講師
第7回		実技	ビッグバン	これまでの振り返り・バレーボール基本動作、パスなど		非常勤講師
第8回		実技	ビッグバン	学習者を理解する・バレーボール基本動、レシーブ、サーブ		非常勤講師
第9回		実技	ビッグバン	フィードバック・バレーボール基本動、フォーメーション		非常勤講師
第10回		実技	ビッグバン	運動技能指導の方法・ルール確認、バレーボールゲーム		非常勤講師
第11回		実技	ビッグバン	学習形態・バレーボールゲーム		非常勤講師
第12回		実技	ビッグバン	指導の振り返り・バスケットボール基本動作、ドリブルなど		非常勤講師
第13回		実技	ビッグバン	社会でのコーチング・バスケットボール基本動作、パスとシュート		非常勤講師
第14回		実技	ビッグバン	社会でのコーチング・バスケットボール基本動作、ディフェンス		非常勤講師
第15回		実技	ビッグバン	社会でのコーチング・バスケットボール基本動作、ルール確認、ゲーム		非常勤講師
第16回		実技	ビッグバン	学生さんによる球技大会と運営		非常勤講師

【必須文献・参考文献】

【必須】各種目のルールを検索サイトなどでしらべ事前に学習すること

【評価の方法】

この授業はレクチャーしたコーチングの内容を「実践」することと、文章化して振り返ることを評価対象とします。積極的に参加しない、私語が多い場合は減点対象です。参加態度60%、レポート40%

【受講生へのメッセージ】

- ・授業態度(積極的に授業に参加して下さい)
- ・公式行事(例:部活動の公式戦など)、忌引きは考慮します。
- ・初心者にも対応します。
- ・用具の準備は必要ありません
- ・【必須】服装はジャージと運動靴で行います。
- ・詳しくはガイダンス時にお話しします。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	人権と赤十字		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期		
【科目のねらい】 日本国憲法、世界人権宣言、国際赤十字赤新月運動の基本原則、国際人道法などを手がかりとし、看護者として人権擁護についての理解を深めることができるよう学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	授業オリエンテーション 人権とは	事後:レスポンスカードの提出	専任教師
第2回	6月以降	講義	教室	基本的人権保障の思想と歴史 アンリー・デュナンの活動と赤十字の誕生	事後:レスポンスカードの提出	外部講師
第3回		講義	教室	国際赤十字の組織と機構	事後:レスポンスカードの提出	専任教師
第4回		講義	教室	日本赤十字社の歴史の変遷	事後:レスポンスカードの提出	専任教師
第5回		講義	教室	日本赤十字社の組織と機構 日本赤十字社の事業	事後:レスポンスカードの提出	専任教師
第6回	4~5月	講義	教室	日本赤十字社の事業の理解 献血および骨髄移植について	事後:レスポンスカードの提出	外部講師
第7回	7月	1,2年合同講演	教室	国際人道法(ジュネーブ条約と追加議定書)と赤十字の役割	事前にジャン・ピケ著赤十字の基本原則を読んでおく 事後レポート有り	外部講師
第8回	8月末	講義	教室	石巻赤十字病院の東日本大震災時の活動の実際	事後:レスポンスカードの提出	外部講師
第9回	9月末	見学	学外	日本赤十字社の事業を担う場の理解 (宮城県支部災害備蓄倉庫及び東北ブロック血液センター)	事後:レポートの提出	専任教師
第10回		GW	教室他	赤十字の基本原則についてグループワーク①	事前:GWに使用する資料を探しておく	専任教師
第11回		GW	教室他	赤十字の基本原則についてグループワーク②	事前:GWに使用する資料を探しておく	専任教師
第12回		GW	教室	①赤十字の基本原則「人道」グループ発表 ②赤十字の基本原則「無差別(公平)」グループ発表	発表のグループは発表資料を事前に提出のこと 事後:レスポンスカード提出	専任教師
第13回		GW	教室	③赤十字の基本原則「公平(比例)」グループ発表 ④赤十字の基本原則「公平(公平)」グループ発表	発表のグループは発表資料を事前に提出のこと 事後:レスポンスカード提出	専任教師
第14回		GW	教室	⑤赤十字の基本原則「中立」グループ発表 ⑥赤十字の基本原則「独立」グループ発表	発表のグループは発表資料を事前に提出のこと 事後:レスポンスカード提出	専任教師
第15回		GW	教室	⑦赤十字の基本原則「奉仕」グループ発表 ⑧赤十字の基本原則「単一」グループ発表 ⑨赤十字の基本原則「世界性」グループ発表	発表のグループは発表資料を事前に提出のこと 事後:レスポンスカード提出 レポート作成	専任教師
【必須文献・参考文献】 赤十字のしくみと活動 解説赤十字の基本原則(東信堂) ソルフエリーノの思い出(日本赤十字社出版普及会) 赤十字と国際人道法(日本赤十字社) 若葉と読む「赤十字の基本原則」						
【評価の方法】 グループワーク10% レポート 10% 筆記試験 80%						
【受講生へのメッセージ】 ・日頃から、世界中で起きている人権侵害に関する報道に関心を寄せる努力をしてください。 ・その他、大規模災害訓練への参加、2年生との合同演習などに全員参加してもらいます。						
【担当教員の実務経験】赤十字病院での実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】赤十字施設での実務経験あり						

授業科目	赤十字活動論	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第2学年 後期			
【科目のねらい】 「人権と赤十字」で学んだ赤十字の理念をもとに、今日の地域社会の課題からボランティア活動を体験することで、援助を必要とする人々の理解と社会観を養い、赤十字活動の推進者となるための基礎とする						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		授業	教室	1. 赤十字の基本原則『奉仕』とボランティア活動・最高原則の「人道」を実行に移すための方法である『奉仕』とボランティアの関係を考えます。また、活動にあたって求められる技術やを学びます。	事前:赤十字の基本原則である「奉仕」について復習しておく 事後:レスポンスカードの提出	専任教師
第2回		実施	学外	2. ボランティア活動の実際 ・活動を通して、ボランティアの心構えや主催者側の目標達成に貢献するための技術を学ぶ、地域社会で生活する人々を理解する、赤十字思想とボランティア活動の関係について、日常生活のなかでの行動化を考えることが、目的です。	事前・事後レポート課題有り	専任教師
第3回		講義	教室	3. 赤十字組織の中でのボランティア活動 ・東日本大震災での仮設住宅等での訪問活動の実際を知り、ボランティアとして活動することについて考えてもらいます。	事後:レスポンスカードの提出あり	日赤 宮城県支部 担当者
第4回		演習	講堂	4. 災害時の医療活動への協力 ・非常時の中で、3年生とともに救護所内のレイアウトを考え、効率よく救護するために、自分たちはどう協力するかを考えます。	3年生との合同演習	専任教師
第5回		演習	講堂 実習室	6. 災害救護活動の実際 ・災害救護訓練に患者役として参加し、災害救護活動における連携の在り方や人道的活動の意義を考える。	事後:レポート課題あり	専任教師
第6回		学外 研修	学外	5. 災害時の地域支援ネットワークの見学 ・災害時の活動は、あらゆる組織との連携が重要です。ボランティアとして活動するにしても、他組織の役割を理解することで、自分たちの活動の方向性が見えてきます。ここでは、災害看護論にも生かせるような組織(自衛隊仙台病院・海上保安庁・石巻地方広域水道企業団)の見学をします。	※事前オリエンテーションあり 事前:見学施設の情報を収集し予備知識を入れておく 事後:学んだことをもとにGWレスポンスカードの提出あり	専任教師
第7回		GW	教室他	7. 赤十字活動の推進についてのまとめ ①災害時支援ネットワークについて、それぞれ見学してきた組織の特徴、役割などを紹介してください。 ②各自が行ってきたボランティア活動を紹介し、ボランティア活動を継続するための心構えについてグループの意見をまとめてください。 ③これまでの授業を通して、赤十字活動の推進者として基本原則『奉仕』をどのように実践していくかグループの意見をまとめてください。	事前:GWに使用する資料の準備	専任教師
第8回		GW	教室	8. 学習成果発表会およびまとめ	事前:各グループ資料提出 事後:レポート課題あり	専任教師
【必須文献・参考文献】 赤十字のしくみと活動 解説赤十字の基本原則(東信堂)						
【評価の方法】 レポート類(55%) 参加状況(35%) GW参加度・発表内容(15%)						
【受講生へのメッセージ】 ・「放ってはおけない…」という、人としての気持ちをどう行動につなげるか…赤十字の理念をボランティア活動にどういかしていくかを考察し、赤十字の活動により興味を持ってほしいと思います。 ・その他、大規模災害訓練への参加、1年生との合同演習もあります。ご協力よろしくお願ひします。						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	解剖生理学 I		担当者	非常勤講師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期		
【科目のねらい】 生物としての生命活動を行う人体について、形態と機能を系統的に学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	オリエンテーション 解剖学・生理学とは／人体をあらわす用語	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第2回		講義	教室	生体を構成する物質	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第3回		講義	教室	細胞と組織①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第4回		講義	教室	細胞と組織②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第5回		講義	教室	細胞と組織③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第6回		講義	教室	骨格・筋系①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第7回		講義	教室	骨格・筋系②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第8回		講義	教室	骨格・筋系③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第9回		講義	教室	骨格・筋系④	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第10回		講義	教室	骨格・筋系⑤	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第11回		講義	教室	神経系①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第12回		講義	教室	神経系②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第13回		講義	教室	神経系③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第14回		講義	教室	神経系④	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第15回		講義	教室	神経系⑤	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
【必須文献・参考文献】 人体の構造と機能 解剖生理学(メディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験(100点)→配点 ・生体を構成する物質、細胞と組織①～③／30点 ・骨格・筋系①～⑤／30点 ・神経系①～⑤／40点						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	解剖生理学Ⅱ		担当者	非常勤講師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期		
【科目のねらい】 生物として生命活動を行う人体について、形態と機能を系統的に学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	循環器系①	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第2回		講義	教室	循環器系②	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第3回		講義	教室	循環器系③	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第4回		講義	教室	循環器系④	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第5回		講義	教室	呼吸器系①	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第6回		講義	教室	呼吸器系②	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第7回		講義	教室	呼吸器系③	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第8回		講義	教室	腎・泌尿器系①	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第9回		講義	教室	腎・泌尿器系②	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第10回		講義	教室	体液①	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第11回		講義	教室	体液②	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第12回		講義	教室	消化器系①	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第13回		講義	教室	消化器系②	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第14回		講義	教室	消化器系③	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
第15回		講義	教室	消化器系④	毎回の確認小テストをよく復習すること	非常勤講師
【必須文献、参考文献など】 参考文献「病が見える」シリーズ(各章のはじめに解剖生理がコンパクトにまとめられています。授業で分からなかった箇所を調べるために辞書的に用いるとよいでしょう。2年次以降の学習や国家試験、働くようになってからも役に立つので、購入しておいても損はないと思います。)						
【評価の方法】 筆記試験(100点)配点						
【受講生へのメッセージ】 人の体のしくみや働きと一緒に、“異常(病気)になったらどうなるか”についても併せて勉強していきましょう。2年次以降の病気の勉強がしやすくなります。						
【担当教員の実務経験】内科臨床の実務経験にもとづいた病態生理学もちりばめます。						
【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	解剖生理学Ⅲ		担当者	非常勤講師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期		
【科目のねらい】 生物として生命活動を行う人体について、形態と機能を系統的に学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	感覚器系①	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第2回		講義	教室	感覚器系②	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第3回		講義	教室	感覚器系③	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第4回		講義	教室	皮膚と膜・免疫系／体温調節①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第5回		講義	教室	皮膚と膜・免疫系／体温調節②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第6回		講義	教室	皮膚と膜・免疫系／体温調節③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第7回		講義	教室	皮膚と膜・免疫系／体温調節④	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第8回		講義	教室	内分泌系①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第9回		講義	教室	内分泌系②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第10回		講義	教室	内分泌系③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第11回		講義	教室	内分泌系④	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第12回		講義	教室	生殖器系①	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第13回		講義	教室	生殖器系②	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第14回		講義	教室	生殖器系③	教科書の講義範囲を読む	非常勤講師
第15回		講義	教室	まとめ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
【必須文献、参考文献など】 人体の構造と機能 解剖生理学(メディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験(100点)配点→感覚器系①～③／20点 ・皮膚と膜・免疫系、体温調節①～④／30点 ・内分泌系①～④／30点 ・生殖器系①～③／20点						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	形態機能学	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 人間のからだの構造・機能(仕組み)と日常生活行動の関連性を理解することで、からだの機能(仕組み)が障害された時、生命を維持することや日常生活行動にどう影響するのかを想像する力を養う						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当
第1回		講義	教室	オリエンテーション 1 何のための生活行動か GW① ・食べる ・息をする ・話す/聞く	授業における課題に関しては第1回目の授業で提示します	専任教師
第2回		講義	教室	GW① ・食べる ・息をする ・話す/聞く		専任教師
第3回		講義	教室	GW① ・食べる ・息をする ・話す/聞く		専任教師
第4回		講義	教室	GW発表①		専任教師
第5回		講義	教室	GW② ・眠る ・トイレに行く ・お風呂に入る		専任教師
第6回		講義	教室	GW② ・眠る ・トイレに行く ・お風呂に入る		専任教師
第7回		講義	教室	GW② ・眠る ・トイレに行く ・お風呂に入る		専任教師
第8回		講義	教室	GW発表②		専任教師
【必須文献・参考文献】 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(日本看護協会) 人体の構造と機能 解剖生理学(メディカ出版)						
【評価の方法】 ・参加点(出席時間、GWへの参加度)・GW資料完成度:60% ・レポート:40%						
【受講生へのメッセージ】 本科目の授業を受けることで解剖生理学など既存の知識を統合させ、人間の日常生活動作との関連性を理解することで、生命の恒常性を保つための看護について考えるきっかけとなってくることを願っております。積極的に授業に参加しましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	生化学	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 前期			
【科目のねらい】 人体を構成する物質について知り、それらがどのように作られ、分解、調節されて生命を維持しているのかを理解し、病態理解に役立てる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	生化学の講義の進め方、生化学を学ぶための基礎知識と代謝概論	講義終了後、講義内容に関する確認テストを配布する(次週回収)	非常勤講師
第2回		講義	教室	生命の最小単位である細胞の構造と機能、細胞の異常と疾病	同上	非常勤講師
第3回		講義	教室	代謝の流れをつくる酵素の性質と働き	同上	非常勤講師
第4回		講義	教室	糖質代謝-糖質の構造と働き	同上	非常勤講師
第5回		講義	教室	糖質代謝-栄養素の吸収と糖質代謝、糖質の栄養、血糖の調節とホルモンの作用	同上	非常勤講師
第6回		講義	教室	脂質代謝-脂質の構造と脂質の栄養	同上	非常勤講師
第7回		講義	教室	脂質代謝-脂質代謝と脂質異常症	同上	非常勤講師
第8回		講義	教室	タンパク質とアミノ酸の代謝-タンパク質とアミノ酸の構造と役割	同上	非常勤講師
第9回		講義	教室	タンパク質とアミノ酸の代謝-タンパク質の消化と吸収、代謝、ヘムの生合成とビリルビン	同上	非常勤講師
第10回		講義	教室	核酸・ヌクレオチドの代謝-核酸とヌクレオチドの構造と働き、ヌクレオチド代謝の役割	同上	非常勤講師
第11回		講義	教室	エネルギー代謝の統合と制御、生活習慣病や先天性代謝異常の発症口	同上	非常勤講師
第12回		講義	教室	ビタミン・食物繊維・水・無機質の代謝と栄養	同上	非常勤講師
第13回		講義	教室	遺伝情報-生命の設計図-遺伝子の複製と発現	同上	非常勤講師
第14回		講義	教室	ホメオスタシス(恒常性)-内分泌系とホルモン	同上	非常勤講師
第15回		講義	教室	生体の防御・免疫系と疾患	同上	非常勤講師
【教科書】 人体の構造と機能②臨床生化学(メディカ出版)ならびに配布プリント						
【評価の方法】 出席状況、講義内容に関する確認問題(各章終了時に配布)、および中間試験、定期試験を基に総合的に判断する。定期試験に関しては、不合格点の場合、複数回のレポート提出などによる再試験を学生が理解するまで行う。						
【受講生へのメッセージ】 「生化学」の講義は「生命」を科学の目で理解する力を養うことができる教科であると考えている。看護学がめざす健康問題の理解やその援助には、私たちの体の構造や働きに対する理解がかかせない。また、医学的な知識も必要である。生化学はそれらを直接学んだり、将来学ぶ科目の基礎となる科目であり、講義開始時に紹介するWeb版「人間の生命科学」の閲覧も含め、積極的に学んで欲しい。						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	栄養学		担当者	非常勤講師 (石巻赤十字病院栄養課)	
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第1学年 後期	
【科目のねらい】 栄養の意義と健康の保持・増進のための食事の基本について理解し、栄養状態と病態を関連付けて評価できる基礎的能力を養う。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	栄養学と看護／栄養状態の評価・判定	非常勤講師
第2回		講義	教室	栄養の種類と働き	非常勤講師
第3回		講義	教室	栄養素の消化と吸収	非常勤講師
第4回		講義	教室	栄養ケアマネジメント	非常勤講師
第5回		講義	教室	ライフステージと栄養	非常勤講師
第6回		講義	教室	臨床栄養1	非常勤講師
第7回		演習	石巻赤十字病院	臨床栄養2 〈病院食の試食を行い、実際に理解する〉	非常勤講師
第8回		試験	教室	試験	非常勤講師
【必須文献・参考文献】 栄養学(医学書院) 食品交換表(文光堂)					
【評価の方法】 筆記試験、参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】					
【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	微生物学	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

感染症を引き起こす病原微生物(細菌、真菌、ウイルスなど)の生物学的な特徴と生体に及ぼす病原性の基礎を理解する。さらに、感染予防の重要性を認識し、看護の対象および自己の健康維持に必要な基礎知識を養う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	微生物学の歴史 感染症の現状		非常勤講師
第2回		講義	教室	微生物学総論 (細菌・真菌と原虫・ウイルス)		非常勤講師
第3回		講義	教室	免疫		非常勤講師
第4回		講義	教室	感染、感染症の診断法-1		非常勤講師
第5回		講義	教室	感染、感染症の診断法-2		非常勤講師
第6回		講義	教室	感染症の予防とコントロール-1		非常勤講師
第7回		講義	教室	感染症の予防とコントロール-2		非常勤講師
第8回		講義	教室	細菌学各論-1		非常勤講師
第9回		講義	教室	細菌学各論-2		非常勤講師
第10回		講義	教室	ウイルス学各論-1 (映像:スペインかぜ脅威の連鎖)		非常勤講師
第11回		講義	教室	ウイルス学各論-2		非常勤講師
第12回		講義	教室	ウイルス学各論-3		非常勤講師
第13回		講義	教室	ウイルス学各論-4		非常勤講師
第14回		講義	教室	プリオン、真菌学、原虫学		非常勤講師
第15回		講義	教室	ベッドサイドの微生物学 まとめ		非常勤講師

【必須文献、参考文献など】

教科書: ナースのための微生物学(南山堂) 改訂第6版

【評価の方法】

筆記試験を重視します。出席率は参考程度に使用します。

【受験生へのメッセージ】

教科書を読み物として使って下さい。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	臨床薬理学		担当者	非常勤講師 (石巻赤十字病院薬剤部)	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】 薬物の起こるメカニズムについて基本的な知識を学び、病態理解に役立てる。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	臨床薬理学総論	薬剤師
第2回		講義	教室	薬理学と薬物療法の基礎	薬剤師
第3回		講義	教室	薬の剤形と薬理学的特徴・薬の安全情報と法律	薬剤師
第4回		講義	教室	抗感染症薬・消毒薬	薬剤師
第5回		講義	教室	抗悪性腫瘍薬	薬剤師
第6回		講義	教室	輸液製剤・輸血剤	薬剤師
第7回		講義	教室	免疫治療薬・抗アレルギー・抗炎症薬	薬剤師
第8回		講義	教室	末梢での神経活動に作用する薬物	薬剤師
第9回		講義	教室	中枢神経系に作用する薬物	薬剤師
第10回		講義	教室	心臓・血管系に作用する薬物	薬剤師
第11回		講義	教室	皮膚科用薬・眼科用薬	薬剤師
第12回		講義	教室	呼吸器・消化器に作用する薬物	薬剤師
第13回		講義	教室	生殖器系・物質代謝に作用する薬物	薬剤師
第14回		講義	教室	救急に使用される薬物・漢方薬・検査・診断薬	薬剤師
第15回		講義	教室	薬理学まとめ・看護業務に必要な薬の知識	薬剤師
【必須文献、参考文献など】 薬理学(医学書院)					
【評価の方法】 筆記試験、参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	病理学	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 疾病のおこるメカニズムについて基本的な知識を学び、病態理解に役立てる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	第1章:病理学とは何か 第2章:細胞障害と細胞増殖		非常勤講師
第2回		講義	教室	第3章:組織、細胞の修復と再生		非常勤講師
第3回		講義	教室	第4章:循環障害		非常勤講師
第4回		講義	教室	第5章:炎症 第6章:感染症		非常勤講師
第5回		講義	教室	第7章:免疫機構の異常		非常勤講師
第6回		講義	教室	第8章:遺伝と先天異常		非常勤講師
第7回		講義	教室	第9章:腫瘍		非常勤講師
第8回		講義	教室	第10章:代謝異常 第11章:老化		非常勤講師
【必須文献・参考文献】 シンプル病理学(南江堂)						
【評価の方法】 筆記試験 100点						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	疾病論 I (循環器・呼吸器・循環器外科)	担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

疾患を学ぶことで、疾患の原因・病態・検査・治療を理解し、臨床判断能力を養うための基礎的知識を習得し、看護に役立てる。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【循環器】①循環器の構造と機能 ②症状と病態生理 ③検査と治療 【不整脈】:症例を踏まえて	循環器内科
第2回		講義	教室	【循環器】②・③ 【虚血性心疾患:狭心症、急性冠症候群、陳旧性心筋梗塞、冠動脈硬化危険因子】 :症例を踏まえて	循環器内科
第3回		講義	教室	【循環器】②・③ 【弁膜症:僧帽弁疾患、大動脈弁疾患、その他の弁膜症】:症例を踏まえて	循環器内科
第4回		講義	教室	【循環器】②・③ 【心筋疾患:特発性心筋症(肥大型心筋症・拡張型心筋症)、心筋炎】:症例を踏まえて	循環器内科
第5回		講義	教室	【循環器】②・③ 【心不全】:症例を踏まえて	循環器内科
第6回		講義	教室	【呼吸器】①呼吸器の構造と機能 ②症状と病態生理 ③検査・治療・処置 【呼吸器系感染症:気管支炎、肺炎】:症例を踏まえて	呼吸器内科
第7回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【呼吸器感染症:肺結核症】:症例を踏まえて	呼吸器内科
第8回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【気道疾患:慢性閉塞性肺疾患(COPD)】:症例を踏まえて CO ₂ ナルコーシスも含む	呼吸器内科
第9回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【気道疾患:気管支喘息、気管支拡張症】:症例を踏まえて	呼吸器内科
第10回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【肺循環障害:肺血栓塞栓症、急性呼吸促進症候群(ARDS)】:症例を踏まえて	呼吸器内科
第11回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【間質性肺疾患:間質性肺炎、塵肺】:症例を踏まえて	呼吸器内科
第12回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【胸膜疾患:胸膜炎、気胸】症例を踏まえて	呼吸器外科
第13回		講義	教室	【呼吸器】②・③ 【肺腫瘍:原発性肺がん、胸膜腫瘍(胸膜中皮腫)】:症例を踏まえて	呼吸器外科
第14回		講義	教室	【循環器外科】②・③ 【手術療法(第3章F手術療法、G各種手術:人工血管置換術)】 【脈管疾患:大動脈疾患、末梢動脈疾患】:症例を踏まえて	集中治療部
第15回		講義	教室	【循環器外科】②・③ 【手術療法(G各種手術:冠状動脈バイパス術、人工弁置換術)】 【先天性心疾患】:症例を踏まえて	集中治療部

【必須文献・参考文献】

成人看護学 ②呼吸器 ③循環器 (医学書院)
 人体の構造と機能 ① 解剖生理学(ナーシンググラフィカ メディカ出版)

【評価の方法】

筆記試験・参加度 100点(循環器50%、呼吸器50%)

【受講生へのメッセージ】

解剖生理学の授業で呼吸器・循環器が終了しているため、しっかり復習してきてください。積極的に質問し、臨床治療における最新知識を得られるように授業に参加してください。領域別の看護に生かせるようにしてください。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	疾病論Ⅱ (消化器・血液造血器・腎)		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 後期	
【科目のねらい】 疾患を学ぶことで、疾患の原因・病態・検査・治療を理解し、臨床判断能力を養うための基礎知識を習得し、看護に役立てる。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【消化器】 ①消化器の構造と機能②症状と病態生理(総論)	消化器内科
第2回		講義	教室	【消化器】 ③消化器疾患に関わる検査・治療(総論)	消化器内科
第3回		講義	教室	【消化器】 食道・胃・十二指腸	消化器内科
第4回		講義	教室	【消化器】 腸・腹膜疾患1	消化器内科
第5回		講義	教室	【消化器】 腸・腹膜疾患2	消化器内科
第6回		講義	教室	【消化器】 肝疾患	消化器内科
第7回		講義	教室	【消化器】 胆・膵疾患	消化器内科
第8回		講義	教室	【血液造血器】 赤血球系の異常	腎臓内科
第9回		講義	教室	【血液造血器】 赤血球系の異常、白血球系の異常、造血器腫瘍	血液内科
第10回		講義	教室	【血液造血器】 造血幹細胞移植	血液内科
第11回		講義	教室	【血液造血器】 造血器腫瘍、治療における支持療法、白血病	血液内科
第12回		講義	教室	【血液造血器】 骨髄増殖性腫瘍、リンパ腫、骨髄腫、出血性疾患	血液内科
第13回		講義	教室	【腎】①腎臓の構造・機能 ②症状とその病態生理 ③検査・治療・処置 【腎炎】:症例を踏まえて	腎臓内科
第14回		講義	教室	【腎】 ②・③ 【腎不全・ネフローゼ症候群】:症例を踏まえて	腎臓内科
第15回		講義	教室	【腎】 ②・③ 【慢性腎不全・透析導入】:症例を踏まえて	腎臓内科
【必須文献・参考文献】 成人看護学(4)血液・造血器 (5)消化器(医学書院) (8)腎・泌尿器 (医学書院) 人体の構造と機能 ① 解剖生理学(ナーシンググラフィカ メディカ出版)					
【評価の方法】 筆記試験・参加度 100点(消化器50%、血液造血器50%)					
【受講生へのメッセージ】 解剖生理学の授業で消化器・血液造血器・腎が終了しているため、しっかり復習してきてください。積極的に質問し、臨床治療における最新知識を得られるように授業に参加してください。領域別の看護に生かせるようにしてください。					
【担当教員の実務経験】					
【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	疾病論Ⅲ (脳神経・内分泌代謝 アレルギー・膠原病・感染症)	担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

疾患を学ぶことで、疾患の原因・病態・検査・治療を理解し、臨床判断能力を養うための基礎的知識を習得し、看護に役立てる。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【脳神経】 ①脳神経の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③検査・診断と治療・処置 【脳腫瘍】:症例を踏まえて	脳神経内科
第2回		講義	教室	【脳神経内科】 ②・③ 【髄膜炎・てんかん】:症例を踏まえて	脳神経内科
第3回		講義	教室	【脳神経内科】 ②・③ 【パーキンソン病・重症筋無力症・アルツハイマー病】:症例を踏まえて	脳神経内科
第4回		講義	教室	【脳神経外科】 ②・③ 【高血圧性脳内出血・虚血性脳血管傷害】:症例を踏まえて	脳神経外科
第5回		講義	教室	【脳神経外科】 ②・③ 【くも膜下出血】:症例を踏まえて	脳神経外科
第6回		講義	教室	【内分泌・代謝】 ①内分泌・代謝器官の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③検査 1回目【糖尿病・痛風・高脂血症・肥満症】:症例を踏まえて	内科
第7回		講義	教室	【内分泌・代謝】 ②・③ 2回目【糖尿病】:症例を踏まえて	内科
第8回		講義	教室	【内分泌・代謝】 ②・③ 3回目【糖尿病】:症例を踏まえて	内科
第9回		講義	教室	【内分泌・代謝】 ②・③ 【本態性高血圧】:症例を踏まえて	内科
第10回		講義	教室	【内分泌・代謝】 ②・③ 【クッシング症候群・アルドステロン症】:症例を踏まえて 【バセドウ病・橋本病・アジソン病】:症例を踏まえて	内科
第11回		講義	教室	【アレルギー・膠原病・感染症】①免疫のしくみとアレルギー ②自己免疫疾患と機序 ③症状と病態生理 ④検査・治療 【関節リウマチ】:症例を踏まえて	内科
第12回		講義	教室	【アレルギー・膠原病・感染症】 ③症状と病態生理 ④検査・治療 【全身性エリテマトーデス】:症例を踏まえて	内科
第13回		講義	教室	【アレルギー・膠原病・感染症】 ①感染症とは ②検査・診断 ③治療 【水痘・麻疹・風疹・後天性免疫不全症候群・日和見感染症・带状疱疹】:症例を踏まえて	内科
第14回		講義	教室	【アレルギー・膠原病・感染症】 ②検査・診断 ③治療 【多剤耐性菌感染症】:症例を踏まえて	内科
第15回		講義	教室	【アレルギー・膠原病・感染症】 ③症状と病態生理 ④検査・治療 【シェーグレン症候群・ベーチェット病】:症例を踏まえて	内科

【必須文献・参考文献】

成人看護学 (7)脳・神経 (6)内分泌・代謝 (11)アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

【評価の方法】

筆記試験・参加度 100点(神経内科20%、神経外科15%、代謝20%、内分泌15%、アレルギー・膠原病・感染症30%)

【受講生へのメッセージ】

解剖生理学の授業で脳神経・内分泌代謝・免疫が終了しているため、しっかり復習してきてください。積極的に質問し、臨床治療における最新知識を得られるように授業に参加してください。医師が考えるナースチェックポイントをしっかり押さえて領域別の看護に生かせるようにしてください。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	疾病論Ⅳ (運動器・眼・皮膚・耳鼻・ 泌尿器・女性生殖器)	担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

疾患を学ぶことで、疾患の原因・病態・検査・治療を理解し、臨床判断能力を養うための基礎的知識を習得し、看護に役立てる。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【運動器】 ①運動器の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③各疾患における診断・検査と治療・処置 【骨粗鬆症】:症例を踏まえて	整形外科
第2回		講義	教室	【運動器】②・③・④ 【骨折・捻挫・脱臼・フォルクマン拘縮】:症例を踏まえて	整形外科
第3回		講義	教室	【運動器】②・③・④ 【腰椎圧迫骨折・脊髄損傷】:症例を踏まえて	整形外科
第4回		講義	教室	【運動器】②・③・④ 【大腿骨近位部骨折・廃用症候群】:症例を踏まえて	整形外科
第5回		講義	教室	【運動器】②・③・④ 【腰部脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア・側湾症】:症例を踏まえて	整形外科
第6回		講義	教室	【眼】①眼の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【白内障・緑内障】:症例を踏まえて	眼科
第7回		講義	教室	【眼】②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【網膜剥離・外傷時の治療】:症例を踏まえて	眼科
第8回		講義	教室	【皮膚】①皮膚の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【アトピー性皮膚炎・熱傷】:症例を踏まえて	皮膚科
第9回		講義	教室	【皮膚】②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【褥瘡・血管外漏出時の対応】:症例を踏まえて	皮膚科
第10回		講義	教室	【耳鼻咽喉科】①耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③各疾患における検査と治療 【中耳炎・副鼻腔炎・突発性難聴】:症例を踏まえて	耳鼻咽喉科
第11回		講義	教室	【耳鼻咽喉科】②症状とその病態生理 ③各疾患における検査と治療 【メニエール病・上顎癌】:症例を踏まえて	耳鼻咽喉科
第12回		講義	教室	【泌尿器】①泌尿器の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【尿路結石症・腎盂腎炎・膀胱炎】:症例を踏まえて	泌尿器科
第13回		講義	教室	【泌尿器】②症状とその病態生理 ③検査と治療・処置 【前立腺肥大症・前立腺がん・膀胱がん・腎癌】:症例を踏まえて	泌尿器科
第14回		講義	教室	【女性生殖器】①女性生殖器の構造と機能 ②症状とその病態生理 ③診察・検査と治療・処置 【子宮内膜症・卵巣腫瘍】:症例を踏まえて	婦人科
第15回		講義	教室	【女性生殖器】②症状とその病態生理 ③診察・検査と治療・処置 【子宮腫瘍(頸癌・体癌)子宮筋腫】:症例を踏まえて	婦人科

【必須文献・参考文献】

人体の構造と機能①解剖生理学(ナーシンググラフィカ メディカ出版)
成人看護学 (9)女性生殖器 (10)運動器 (13)眼 (14)耳鼻咽喉 (医学書院)

【評価の方法】

筆記試験・参加度 100点(運動器100%)

【受講生へのメッセージ】

解剖生理学の授業をしっかり復習してきてください。積極的に質問し、臨床治療における最新知識を得られるように授業に参加してください。医師が考えるナーシングチェックポイントをしっかり押さえて領域別の看護に生かせるようにしてください。

【担当教員の実務経験】

【担当教員以外の実務経験】

授業科目	総合治療論Ⅰ 【外科治療】【麻酔治療】		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期	
【科目のねらい】 外科治療、麻酔治療を学び、看護実践能力の基盤となる力を身に付ける。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【麻酔治療】総論 1. 麻酔 2. 麻酔の種類 3. 術前管理	麻酔科医師
第2回		講義	教室	【麻酔治療】総論 4. 術中管理 5. 術後管理	麻酔科医師
第3回		講義	教室	【麻酔治療】総論 6. 全身麻酔 7. 局所(区域)麻酔	麻酔科医師
第4回		講義	教室	【外科治療】総論 手術侵襲と生体反応・手術後合併症・手術後の疼痛管理	外科医師
第5回		講義	教室	【外科治療】総論 酸素療法と機械的人工換気 体液・酸塩基平衡と輸液	外科医師
第6回		講義	教室	【外科治療】総論 輸血療法・栄養管理・感染症・救急処置法	外科医師
第7回		講義	教室	【外科治療】総論 外科の基本手技(切開・縫合・抜糸・止血・胃管の挿入・体腔穿刺)・低侵襲手術 臓器移植・炎症・腫瘍・外傷	外科医師
第8回		講義	教室	【外科治療】 各論: 甲状腺・上皮小体の疾患と治療について理解をする。 【バセドウ病・甲状腺腫瘍・副甲状腺機能亢進症】	外科医師
第9回		講義	教室	【外科治療】 各論: 肺・および気管支の疾患、胸部外傷と治療について理解する。 【肺がん・転移性肺腫瘍・気胸】	呼吸器外科医師
第10回		講義	教室	【外科治療】 各論: 乳腺の疾患と治療について理解する。 【乳癌・線維腺腫】	乳腺外科医師
第11回		講義	教室	【外科治療】 各論: 食道疾患、胃十二指腸の疾患と治療について理解する。 【食道癌・胃癌など】	外科医師
第12回		講義	教室	【外科治療】 各論: 膵臓の疾患、門脈の疾患と治療について理解する。肝臓・肝臓外胆道系の疾患と治療について理解する。 【胆石症・肝臓がん・胆管炎・膵臓癌など】	外科医師
第13回		講義	教室	【外科治療】 各論: 腸・腹膜の疾患と治療について理解する。 【消化管憩室・虚血性腸疾患・イレウス・虫垂炎・腹膜炎など】	外科医師
第14回		講義	教室	【外科治療】 各論: ヘルニア、副腎の疾患と治療について理解する。	外科医師
第15回		講義	教室	【外科治療】 各論: 小児の外科疾患の特徴と病態・症状・診断・治療について理解する。	外科医師
【必須文献・参考文献】 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)					
【評価の方法】 筆記試験・参加度 100点(外科治療100%)					
【受講生へのメッセージ】 2年生の成人看護学の実習で中央手術室の見学実習があるので、麻酔や手術療法について理解を深めてください。					
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	総合治療論Ⅱ 【臨床検査】【放射線治療】 【リハビリテーション】		担当者	【臨床検査:臨床検査技師】 【放射線診断・治療:放射線科医師】 【リハビリテーション:理学療法士他】	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期	
【科目のねらい】 臨床検査、放射線治療、放射線診断、リハビリテーションを学び、看護実践能力の基盤となる力を身に付ける。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	【放射線診断】 1. 放射線医学の成り立ちと意義 ①医療における放射線医学の役割 ②放射線医学の歴史 2. X線診断 3. CT 4. MRI	放射線診断 科医師
第2回		講義	教室	【放射線診断】 5. 核医学検査 6. IVR・血管造影	放射線診断 科医師
第3回		講義	教室	【放射線治療】 1. 放射線治療総論 ①放射線治療の原理 ②基礎 ③有害反応 ④治療線量・耐容線量 ⑤放射線治療の特徴と目的 ⑥照射法の種類 2. 放射線治療各論【食道がん】【乳癌】【骨転移病変】 3. 放射線障害と防護	放射線治療 科医師
第4回		講義	教室	【臨床検査】 ・生化学検査	臨床検査 技師
第5回		講義	教室	【臨床検査】 ・輸血	臨床検査 技師
第6回		講義	教室	【臨床検査】 ・血液検査	臨床検査 技師
第7回		講義	教室	【臨床検査】 ・細菌・一般検査	臨床検査 技師
第8回		演習	実習室 1	【臨床検査】 ・生理検査(12誘導心電図・ホルター心電図・超音波検査など)	臨床検査 技師
第9回		講義	教室	【臨床検査】 ・病理検査	臨床検査 技師
第10回		講義	教室	【リハビリテーション】リハビリテーションの目的や考え方について理解する。リハビリ テーションの領域や種類について学ぶ。リハビリテーションに用いられる主要な概念を 理解する。	リハビリ テーション 課
第11回		演習	教室	【リハビリテーション】 運動機能・高次脳機能のアセスメント方法を理解し、日常生活への影響がわかる。 運動機能のメカニズム・運動機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施。 高次脳機能のメカニズム・高次脳機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施 (運動)	リハビリ テーション 課
第12回		演習	教室	【リハビリテーション】 呼吸・循環のアセスメント方法を理解し、早期離床援助に活用できる。 呼吸機能のメカニズム・呼吸機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施。 循環機能のメカニズム・循環機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施 (呼吸)	リハビリ テーション 課
第13回		演習	教室	【リハビリテーション】 呼吸・循環のアセスメント方法を理解し、早期離床援助に活用できる。 呼吸機能のメカニズム・呼吸機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施。 循環機能のメカニズム・循環機能障害のアセスメントについてベッドサイドで実施 (循環)	リハビリ テーション 課
第14回		演習	教室	【リハビリテーション】 摂食嚥下機能のアセスメント方法を理解し、障害を抱える患者への援助ができる。 摂食嚥下のメカニズム・摂食嚥下障害のアセスメント 口腔内のアセスメント・絶食患者の食事開始時のアセスメント	摂食嚥下 認定看護師
第15回		演習	教室	【リハビリテーション】 機能障害のある患者の食事介助の実践ができる。 機能障害のある患者への食事介助の実践についてベッドサイドで実施。	摂食嚥下 認定看護師
【必須文献・参考文献】 臨床放射線医学 第9版 医学書院 臨床検査(医学書院) ナーシンググラフィカ成人看護学⑥リハビリテーション看護(メディカ出版)					
【評価の方法】 筆記試験(臨床検査、リハビリテーション)・参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】 演習を行います。事前準備と事前学習をしっかりと行い参加しましょう。					
【担当教員の実務経験】					
【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	公衆衛生学	担当者	非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 公衆衛生の基本概念および生活者の健康の保持・増進に対応した保健統計や法制度について学び、公衆衛生活動を理解する。また、身近な生活環境の状況や保健行政機関の役割と連携について学び、生活者としての対象の理解に役立てる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	序章・第1章:公衆衛生とは 第2章:公衆衛生の活動対象		保健所長
第2回		講義	教室	第3章:公衆衛生のしくみ		非常勤講師
第3回		講義	教室	第4章:集団の健康をとらえるための手法 疫学・保健統計		保健所長
第4回		講義	教室	第5章:環境と健康		非常勤講師
第5回		講義	教室	第1章・第8章:地域における公衆衛生の実践		非常勤講師
第6回		講義	教室	第6章:感染症とその予防対策		非常勤講師
第7回		講義	教室	第8章C・F:成人保健・歯科保健		非常勤講師
第8回		講義	教室	第8章:母子保健		非常勤講師
第9回		講義	教室	第7章:国際保健および第9章:学校保健		保健所長
第10回		講義	教室	第8章D:高齢者保健		非常勤講師
第11回		講義	教室	第8章E:精神保健		非常勤講師
第12回		講義	教室	第8章G:障害者保健・難病保健		非常勤講師
第13回		講義	教室	第10章:職場と健康		保健所長
第14回		講義	教室	第11章:健康危機管理・災害保健		保健所長
第15回		講義	教室	産業保健活動の展開 産業保健における看護職の役割と実際		非常勤講師 (石巻赤十字病院)
【必須文献・参考文献】 公衆衛生(医学書院)						
【評価の方法】 筆記試験 100点(第1回～第14回) * 第15回:試験はありません。						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目		社会保障制度		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院社会福祉士
単位数(時間)		1単位(15時間)		講義時期	第3学年 前期
【科目のねらい】 社会保障制度の概念・しくみを学び、医療と福祉の関係を理解することで、地域社会で自立した生活を営むために必要な社会資源やサービスを理解し、看護活動に活かす。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	社会保障制度の概念、医療制度	非常勤講師
第2回		講義	教室	介護保障①	非常勤講師
第3回		講義	教室	介護保障②	非常勤講師
第4回		講義	教室	所得保障	非常勤講師
第5回		講義	教室	公的扶助①	非常勤講師
第6回		講義	教室	公的扶助②	非常勤講師
第7回		講義	教室	事例検討	非常勤講師
第8回		試験	教室	試験	非常勤講師
【必須文献・参考文献】 社会保障・社会福祉(医学書院)					
【評価の方法】 筆記試験・参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】					
【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	社会福祉学		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院社会福祉士	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第3学年 前期	
【科目のねらい】 社会福祉の概念、社会福祉の現状を学び、医療と福祉の関係を理解することで、地域社会で自立した生活を営むために必要な社会資源やサービスを理解し、看護活動に活かす。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	社会保障制度と社会福祉	非常勤講師
第2回		講義	教室	社会福祉の歴史①	非常勤講師
第3回		講義	教室	社会福祉の歴史②	非常勤講師
第4回		講義	教室	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向①	非常勤講師
第5回		講義	教室	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向②	非常勤講師
第6回		講義	教室	高齢者福祉①	非常勤講師
第7回		講義	教室	高齢者福祉②	非常勤講師
第8回		講義	教室	障害者福祉①	非常勤講師
第9回		講義	教室	障害者福祉②	非常勤講師
第10回		講義	教室	児童家庭福祉①	非常勤講師
第11回		講義	教室	児童家庭福祉②	非常勤講師
第12回		講義	教室	社会福祉実践と医療・介護①	非常勤講師
第13回		講義	教室	社会福祉実践と医療・介護②	非常勤講師
第14回		講義	教室	事例検討	非常勤講師
第15回		試験	教室	試験	非常勤講師
【必須文献・参考文献】 社会保障・社会福祉(医学書院)					
【評価の方法】 筆記試験・参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	医療概論		担当者	学校長	
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】 医療の倫理、医療の体系と機能を理解し医療がどのような社会的期待を担っているかについて学ぶ。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	医学・医療のあゆみ	学校長
第2回		講義	教室	健康と疾病(1)	学校長
第3回		講義	教室	健康と疾病(2)	学校長
第4回		講義	教室	医学と医療	学校長
第5回		講義	教室	わが国の医療供給体制	学校長
第6回		講義	教室	現代医療における諸問題	学校長
第7回		講義	教室	現代医療における諸問題(倫理)	学校長
第8回		講義	教室	現代医療における諸問題	学校長
【必須文献・参考文献】 現代医療論(メヂカルフレンド社)					
【評価の方法】 (筆記試験 レポート 参加度) 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】病院で医師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で医師としての実務経験あり					

授業科目	災害医療論 I		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師 専任教師	
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第3学年 前期	
【科目のねらい】 災害時に適応される社会保障制度について学ぶ。また、赤十字活動の実際に触れ、災害医療チームの一員として行動できる基盤を養う。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	災害医療の基礎知識について、日本の災害の歴史を通し、赤十字の果たしてきた役割を理解する。	専任教師
第2回		講義 GW	教室	災害サイクル急性期の被災地の状況について、過去の災害から1つ選び、様々なリソースを使って調べ、グループワークを通して災害についてまとめる。	専任教師
第3回		GW 発表	教室	過去の災害について各グループのまとめを聞き、知見を得る。	専任教師
第4回		講義	教室	災害サイクル急性期の健康障害と処置対応の実際; 自然災害における健康障害と対応の実際; 主な疾病疾病構造・病態生理(生理学的評価・解剖学的評価・受傷転機と予後)と対応	災害研修 センター 医師
第5回		講義	教室	東日本大震災時の石巻赤十字病院の活動(急性期)の実際 災害急性期に見られる外傷・疾病について さまざまな職業・機関との連携の実際 災害医療コーディネーターについて	石巻赤十字 病院 医師
第6回		講義	教室	災害サイクル急性期の健康障害と処置対応の実際; 人為災害における健康障害と対応の実際; 主な疾病構造・病態生理(生理学的評価・解剖学的評価・受傷転機と予後)と対応	災害研修 センター 医師
第7回		講義	教室	災害サイクル慢性期・復興期の健康障害と処置対応の実際; 主な疾病構造・病態生理と対応(深部静脈血栓症,慢性疾患,うつ病や震災関連疾患,感染症等)	災害研修 センター 医師
第8回		演習 講義	学外	災害時実動訓練に参加(1日) 災害時の対応の実際、連携について学ぶ。 事後課題レポートあり	専任教師
【必須文献・参考文献】 メディカルスタッフのための救急医学 2016年 救護班要員マニュアル(日本赤十字社) 2011年 系統看護学講座統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院					
【評価の方法】 筆記試験50%(医師40% 専任教師10%) グループワーク20%(参加度10%・発表内容5%・発表資料5%) 実動訓練30%(参加度15%・レポート15%)					
【受講生へのメッセージ】 災害サイクルに沿って急性期から慢性期にかけての災害の特徴と主な病態や必要な処理対応等の災害対応について学びます。 また、災害訓練への参加によって、災害時の看護についての学びを深めていきましょう。					

授業科目	災害医療論Ⅱ		担当者	非常勤講師 専任教師	
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第3学年 前期	
【科目のねらい】 災害の特徴と基礎知識を学び、災害時に起こり得る健康被害とその特徴に応じた救急処置を身につける。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	災害医療論Ⅰでの学びを振り返り、救護所運営や設営に必要な知識と技術について学ぶ	非常勤講師
第2回		講義 演習	教室	災害急性期に必要な3Tについて理解する。 実技を通して学ぶ。-トリアージ演習- START法	非常勤講師
第3回		講義 演習	教室	災害急性期に必要な3Tについて理解する。 実技を通して学ぶ。-トリアージ演習 START法・PAT法	非常勤講師
第4回		演習 講義	講堂	日本赤十字社救急法講習 日常生活における思わぬ事故や災害時の対応を学ぶ 基礎講習(心肺蘇生、AED操作、学科・実技試験)	救急法指導員
第5回		演習 講義	講堂	↓	↓
第6回		演習 講義	講堂	↓	↓
第7回		演習 講義	講堂	救急員養成講習(1日目) 包帯法等	学内救急法指導員
第8回		演習 講義	講堂	↓	↓
第9回		演習 講義	講堂	↓	↓
第10回		演習 講義	講堂	救急員養成講習(2日目) 搬送・総合実技等	↓
第11回		演習 講義	講堂	↓	↓
第12回		演習 講義	講堂	↓	↓
第13回		演習 講義	講堂	↓	↓
第14回		演習	講堂	救護所演習(2, 3年生合同)	専任教師
第15回		演習	講堂	救護所演習(2, 3年生合同)	専任教師
【必須文献・参考文献】 メディカルスタッフのための救急医学 2016年 救護班要員マニュアル(日本赤十字社) 2011年 系統看護学講座統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院 いのちとこころを救う災害看護2008年 第4回目～第13回目 日本赤十字社救急法教本・・・後日集金し、配布します。					
【評価の方法】 第1回～第3回: 50点(筆記試験・レポート) 第4回～第13回: 日本赤十字社救急法基礎・養成講習: 実技試験、筆記試験(50点)					
【受講生へのメッセージ】災害サイクルに沿って主に急性期の災害の特徴と主な病態や必要な処理対応等の災害対応について学びます。また、赤十字救急法では、日常生活における思わぬ事故や災害にあった人、急病になった人に対するBLSをはじめ、手当の知識や技術を習得します。積極的に参加し、いざという時に活用できるようにしていきましょう。赤十字ポロシャツとジャージを着用し、髪はまとめて参加してください。遅刻や欠席をすると、救急員の資格を取得できなくなりますので、体調管理をしっかりして臨んで下さい。					
【担当教員の実務経験】					
【担当教員以外の実務経験】					

授業科目	関係法規	担当者	院外講師 副学校長		
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第3学年前期		
【科目のねらい】 保健医療福祉制度の概要を理解し、看護師の業務と関連する法について学ぶ。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		授業	教室	1. 法の概念 3. 医事法 1) 医療法・医師法 ・これから、多くの関係法令を学ぶにあたり、「法」の基礎知識をしっかりと身につけておく必要があります。 ・国民の医療に関する法令である医事法は、医療施設の規則に関するもの、医療を行う人に関するもの、その他に分類されます。ここでは、医療の目的、理念、医療を行う場所について学びます。	院外講師
第2回		授業	教室	3. 医事法 2) 医療関係資格法 3) 医療を支える法 ・看護師以外の医師をはじめとする医療関係者の資格や業務などについて学びます。また、人の死や緊急の場合に必要な法を学びます。	院外講師
第3回		授業	教室	2. 看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・看護職員にとってもっとも重要な法である保健師助産師看護師法を学びます。看護師の定義、免許、業務などみなさんが看護師として働く時必ず必要なものです。また、他の職種との業務関連、看護師国家試験、また看護師等の人材確保の促進に関する法律についても学びます。	副学校長
第4回		授業	教室	4. 保健衛生法 ・国民の健康の保持・増進を目的とする法が保健衛生法です。共通保健法である地域保健法や健康増進法、精神保健や母子・母性保健、老人保健などの分野別保険法について学びます。	院外講師
第5回		授業	教室	5. 薬務法 9. 環境法 ・医薬品・医療機器その他国民の衛生上必要な物品の製造・販売などを規制するのが薬務法です。また、国民の生活環境を維持・改善する法について学びます。	院外講師
第6回		授業	教室	8. 労働法と社会基盤整備 ・働く者として、また働く者を守る立場にある医療従事者として必要な労働法に関する基礎的知識を身につけてもらいます。	院外講師
第7回		授業	教室	6. 社会保険法 7. 福祉法 ・社会保障を構成する「カネ」の部分である社会保険のしくみや人々の生活を支援する法について学びます。	院外講師
第8回		試験	教室	終講試験	副学校長
【必須文献】 看護関係法令(医学書院)		【参考文献】 国民衛生の動向(厚生統計協会) 図説国民衛生の動向(厚生統計協会)			
【評価の方法】 筆記試験(渡辺担当分20%・本社医療事業推進本部副本部長担当分80%)					
【受講生へのメッセージ】 第2章看護法は看護師にとって最も重要な法律について解説されています。また、第4章保健衛生法、第6章社会保険法、第7章福祉法については、公衆衛生学、社会保障制度、社会福祉などに関連するところです。その他、専門分野と関連する部分も多くあります。授業をしっかり受け、また復習など自己学習に励んでください。					
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】					

授業科目		看護学概論		担当者	副学校長	
単位数(時間)		1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】 看護全体の概念を理解し看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	看護への導入 ・看護学概論の位置づけと何を学ぶ学問であるかを理解する	【前】教科書の序章「看護を学ぶにあたって」を読んでおくこと	副学校長
第2回		講義	教室	看護の歴史 ・古代・中世・近代における看護の発展 ・ナイチンゲールの功績	【前】看護の歴史とナイチンゲールの功績について学習する。 教科書p.10～20まで読んでおくこと	副学校長
第3回		講義	教室	看護の定義 1. 法による定義 2. 看護職能団体による定義 3. 看護理論家による定義 ・ナイチンゲール ・ヘンダーソン ・ウィーデンバック	【前】教科書を読み、左枠の1～3の視点で看護の定義についてまとめること	副学校長
第4回		講義	教室	看護の定義 3. 看護理論家による定義 ・オレム ・ロイ ・ペプロウ ・オーランド ・トラベルビー	【前】左枠の看護理論家による看護の定義についてまとめること 参考図書:教科書、やさしい看護理論	副学校長
第5回		講義	教室	看護の役割と機能 1. 看護ケアについて	【前】教科書「看護の役割と機能」の項をよんでおくこと	副学校長
第6回		講義	教室	2. 看護実践とその質保証に必要な要件 3. 看護の役割・機能の拡大	教科書「看護の連続性と連携」の項をよんでおくこと	副学校長
第7回		講義	教室	看護の継続性と情報共有 看護の対象となる個人・家族・地域の理解 1. 人間の「こころ」と「からだ」	【前】教科書第2章「人間のこころと身体を知ることの意味」の項をよんでおくこと	副学校長
第8回		講義	教室	2. 生涯発達し続ける存在としての人間 3. 人間の「暮らし」の理解	【前】教科書第2章「生涯発達し続ける存在としての人間の理解」の項をよんでおくこと	副学校長
第9回		講義	教室	看護の提供者 職業としての歴史・教育・養成制度・キャリア開発	【前】教科書第4章「看護の提供者」の項をよんでおくこと	副学校長
第10回		GW	教室	看護の基本となるもの① 基本的ニード(欲求)とは何か	【前】ヴァージニア・ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読んでおくこと。 必携	副学校長
第11回		GW	教室	看護の基本となるもの② グループワーク発表	【前】各グループで発表資料を準備し、提出期限までに提出のこと。発表の準備および他グループの資料を熟読しておくこと。	副学校長
第12回		講義	教室	看護の提供のしくみ 看護サービスの提供の場・継続看護・制度と政策	【前】教科書第6章「看護提供のしくみ」の項をよんでおくこと	副学校長
第13回		講義	教室	看護と倫理① ・看護における倫理上の問い	【前】教科書第5章「看護における倫理」の項をよんでおくこと	副学校長
第14回		GW	教室	看護と倫理② ・看護実践における倫理の問題への取り組み	【後】レポート課題:現代医療における倫理的問題について、なぜ問題と考えるか	副学校長

第15回		講義	教室	国民の健康状態と生活 国際化と看護	【前】教科書第3章「国民の健康状態と生活」、第7章「広がる看護の活動領域」の項をよんでおくこと	副学校長
【必須文献】 看護学概論(医学書院) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)						
【参考文献】 看護覚え書(現代社) 国民衛生の動向(厚生統計協会)						
【評価の方法】 レポート10% 筆記試験80% 参加度(グループワーク等)10% レポート課題(GW休暇中): ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読み、基本的ニードの14項目を説明してください。						
【受講生へのメッセージ】 教科書だけでなく、参考文献も重要な教材です。文献を読んだ上でレポートを課す予定です。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	基礎看護技術 I-A	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 前期			
【科目のねらい】 快適な環境の整備、感染予防、ボディメカニクス、医療安全、コミュニケーションなどの共通基本技術を理解する。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	基礎看護技術を学ぶにあたっての心得 1)看護技術の特徴 2)看護技術を適切に実践するための要素 3)看護技術の発展と修得に向けて		専任教師
第2回		講義	教室	快適な環境をつくる技術 1)環境とは①人と環境 ②生活環境 ③療養環境(病棟・病床) 2)環境のアセスメント	【事前】環境について調べる。自分にとって快適な環境とはどのようなものかを具体的な例を上げ考えをまとめる。(みえる①p.56~61)	専任教師
第3回		GW	実習室	④病床の選択 (ウエスティンのプライバシー分類) 3)病床環境をつくる ベッド周囲環境・ケア前の環境の整備 ①環境整備 (感染の視点も含む 環境という点で) ※患者さんにとっての治療の場かつ生活の場であるベッドとその周辺環境を当事者の視点で自由に話し合う。	【事前】「ウエスティンのプライバシー分類からみた個室と多床室の比較」 「ホールの対人距離」について演習で意見交換できるようにまとめる。 【事後】レポート 「快適な療養環境とはどのようなものか」	専任教師
第4回						
第5回		演習	実習室	安楽を確保する技術 1)ボディメカニクスの基礎知識 2)力学的基盤と看護作業 3)看護場面でのボディメカニクスの実際 4)安楽な体位 ポジショニング	【事前】ボディメカニクスについて 【事後】クローズドベッドを作成し、自己の課題を明確化する。ピアグループのメンバーから評価表を用いた評価を受ける。	専任教師
第6回		演習	実習室	5)体位変換とシーツ交換 臥床患者のシーツ交換	【事前】クローズドベッド(一人で行う) 2人以上からの同僚評価(2・3年生)	専任教師
第7回		講義	教室	安全管理の技術 1)医療安全の意義と安全確保 2)医療事故と医療過誤 3)主な医療事故とその予防策 4)KYTトレーニング		医療安全推進室 看護師
第8回		講義 GW	第1教室 実習室2	【GW】※KYTの実際 リスク感性を高める	【事後】KYTカンファレンスを行って、これからの実習の場面でどのように生かせるか考えるか。	医療安全推進室 看護師
第9回		講義	教室	人間関係を成立・発展させるための技術 1)コミュニケーション 2)看護場面での効果的なコミュニケーション技術 3)プロセスレコードの書き方	【事後】プロセスレコードを書く	専任教師
第10回		演習	実習室	4)病床環境でのコミュニケーション ①場面と状況を設定したコミュニケーションの体験	【事後】レポート 演習(模擬的な病床環境)での体験を元にコミュニケーションについて考える。	専任教師
第11回		講義	教室	5)対人関係の振り返り ①プロセスレコードの作成と振り返り 6)援助過程とコミュニケーション		専任教師

第12回	講義	教室	感染予防を推進する看護技術 1)感染予防の意義 2)感染症に関する法律 3)感染症成立要素と過程 4)感染症予防のための援助方法 5)感染症予防のための組織と役割 6)医療廃棄物の取り扱い	【事前】 感染予防について みえる①P16～23読んでくる	専任教師
第13回	演習	実習室	7)感染予防のための技術 ①手洗い(WHO5つのタイミング) 石鹸と流水による手洗い ②个人防护具の着脱手順・个人防护具の 選択 PPE	【事前】手指衛生について みえる①P24～36読んでくる	専任教師
第14回	演習	教室	8) 洗浄・消毒・滅菌とは 9) 滅菌物に共通した取り扱いの原則 10) 無菌操作の準備	【事前】消毒について みえる①P37～55読んでくる 滅菌物に共通した取り扱いの原則 (Ⅱ、P135)を読んでくる。	専任教師
第15回	演習	実習室	①無菌操作 全:(滅菌パックの開封から受け渡し・清潔区域のつくり方・滅菌包の開け方・鑷子の扱い方・皮膚消毒) ②滅菌手袋等装着の仕方 滅菌手袋装着 ③ガウンテクニック (デモンストレーション)	【事前】14回目のレジメを読んでイメージしてくる	専任教師
【必須文献・参考文献】 1)ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 2)看護がみえる①②③ メディックメディア その他必要な文献は適宜提示します。					
【評価の方法】 筆記試験60% 参加度20% レポート・事後課題20%					
【受講生へのメッセージ】 すべての看護技術に共通する基本的な技術について学びます。事前課題・事後課題等がありますので予習復習をして臨みましょう。* 石巻赤十字病院の感染に関する勉強会・医療安全に関する勉強会への参加も積極的に行っていきましょう。					
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】】病院で看護師としての実務経験あり					

授業科目		基礎看護技術 I -B		担当者	専任教師	
単位数(時間)		1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】 生命徴候の観察や、看護実践に必要なフィジカルアセスメントの技術を学ぶ。生命維持に必要な呼吸に関するアセスメント能力・看護についての知識・技術を習得する。また、基本的な口腔ケアの技術を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	生命の徴候を観察する技術 フィジカルアセスメント総論 1)フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント 2)フィジカルアセスメント5つの基本技術 (フィジカルイグザミネーション)		専任教師
第2回		講義	教室	バイタルサインとは 1)一般状態の観察、生命の徴候である バイタルサインを測定することの意義 2)ISBERCについて		専任教師
第3回		講義	教室	2)バイタルサイン(意識・呼吸・脈拍・血圧・体温) の基礎的知識 3)バイタルサインの正確な測定方法と注意点		専任教師
第4回		講義	教室	2)バイタルサイン(意識・呼吸・脈拍・血圧・体温) の基礎的知識 4)バイタルサインの正確な測定方法と注意点		専任教師
第5回		演習	実習室	4)呼吸器のアセスメント ①視診②聴診③触診④打診 5)腹部全体のアセスメント ①視診②聴診③打診④触診	【事前】呼吸器・腹部のアセスメントについて	専任教師
第6回		演習	実習室	バイタルサイン測定 グループワーク 第1回～5回までの測定技術で自己の課題だと思われる部分についてグループメンバーや教員から助言をもらう	【事前】バイタルサイン測定の実施において、自己の課題となっている手技を明確にして臨むこと	専任教師
第7回		講義	教室	バイタルサインのデータをどのように活用するか、事例を通して考える。 シミュレーションとは(概要・実施の流れ等)		専任教師
第8回		演習	実習室	シミュレーションの実際 誤嚥性肺炎患者さんの観察		専任教師
第9回		講義	実習室	1)効率的な呼吸方法 2)排痰ケア ・体位ドレナージ ・手技による排痰	【事前】排痰ケア (2)看護が見える②p.177) 【演習課題】 痰が貯留する場所によって、排痰を促す体位がとれる。	理学療法士
第10回		演習	教室	2)酸素吸入療法 ①中央配管方式による方法 ②酸素ボンベによる方法 (移動時の酸素ボンベの扱い) ③ネブライザー デ:酸素ボンベからの酸素吸入	【事前】 酸素療法(2)看護が見える② p.202～229) 吸入療法(2)看護が見える① p.267～269)	専任教師
第11回		演習	実習室	3)吸引(口腔・鼻腔・気管内) モデル人形で吸引	【事前】吸引(2)看護が見える② p.174～194)	専任教師

第12回		講義	教室	生命活動を支える援助技術 呼吸・循環を整える技術 1)呼吸の生理学的メカニズム(復習) 2)呼吸のニーズに関するアセスメント 3)呼吸を楽にする援助		専任教師
第13回		講義 GW	教室	ヘンダーソンの枠組みに沿って呼吸についてアセスメントを実施 事例展開 事例に沿って呼吸を阻害する要因と必要な援助を考える。		専任教師
第14回	第15回	講義 演習	実習 室1	意識障害のない患者の口腔ケアの実際と観察	【事前】参考文献1)基礎看護技術Ⅱで動画を確認してから受講する 口腔ケア(p.266～269)、見える①P172～187を読んでくる。	歯科衛生士
【必須文献・参考文献】 1)ナースンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 2)看護がみえる①②③ メディックメディア その他必要な文献は適宜提示します。						
【評価の方法】 筆記試験60% 参加度20% レポート課題20%						
【受講生へのメッセージ】 患者さんにとっての快適な環境について学習します。自己の体験と比較しながら、対象にとっての快適さとは何か考えて行きましょう。また、患者さんの身体的な変化を観察するための基本的技術も習得します。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目		基礎看護技術Ⅱ-A		担当者	専任教師	
単位数(時間)		1単位(30時間)		講義時期	第1学年 前期	
【科目のねらい】 活動・運動を援助する技術、休息・睡眠を促す技術、身体や衣服の清潔を援助する技術を理解する。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義 演習	第1 教室	活動・運動の技術 1)活動・運動の意義 2)生理的メカニズム 3)体位		専任教師
第2回		講義 演習	第1 教室	4)ニーズのアセスメント 5)活動・運動を支援する実際 【GW】ヘンダーソンの枠組みに沿って活動・ 運動のアセスメントの実施 事例展開 事例に沿ってどのような援助が 必要か考える。		専任教師
第3回		講義 演習	実習 室1	6)移動(歩行・移乗・移送) ①歩行介助 ②車椅子への移乗 ③車椅子での移送 ④ストレッチャーへの移乗・移送 ⑤ベッド上での体位交換とポジショニング	【事前】移動(2)看護が見える① p.90～140) 【事後】技術演習を行っての自己の 課題の明確化。	専任教師
第4回						
第5回		講義 演習	第1 教室	休息・睡眠を促す技術 1)休息・睡眠の意義 2)生理的メカニズム		専任教師
第6回		講義 演習	第1 教室	3)ニーズアセスメント 4)休息・睡眠の障害 5)休息・睡眠を促す援助の実際 【GW】ヘンダーソンの枠組みに沿って休息・ 睡眠のアセスメントの実施 事例展開 事例に沿ってどのような援助が 必要か考える。		専任教師
第7回		講義 演習	実習 室1	5)休息・睡眠を促す援助の実際 足浴・手浴	【事前】足浴・手浴 (2)看護が見える①p.216～227) 【事後】「安楽な足浴の実施方法に ついての考察」	専任教師
第8回		講義 演習	第1 教室	身体の清潔を援助する技術 1)清潔の意義 2)皮膚の基礎知識 3)清潔の援助による身体反応 4)入浴が生体に及ぼす影響と観察 5)寝衣の選び方 6)寝衣交換	【事前】清潔ケア (2)看護が見える①p.188～192)	専任教師
第9回		講義 演習	第1 教室	7)身体の清潔・衣生活へのニーズアセスマ ント 【GW】ヘンダーソンの枠組みに沿って清潔・ 衣生活のアセスメントの実施.事例展開 事例に沿ってどのような援助が必要か 考える。		専任教師
第10回		講義 演習	実習 室1	8)清潔援助方法 ①全身清拭 ②寝衣交換 部分清拭・寝衣交換	【事前】 入浴・清拭 (2)看護が見える①p.193～215) 寝衣交換 (2)看護が見える①p.250～262) 【事後】技術演習を行って自己の課 題の明確化	専任教師
第11回						
第12回		講義 演習	実習 室1	③陰部洗浄・オムツ交換	【事前】陰部洗浄、オムツ交換(2)看 護が見える①p.228～237、p.276～ 285)	専任教師
第13回						
第14回		講義 演習	実習 室1	④洗髪(ケリーパッド又は、在宅用ケリー パッドを使用する。)	【事前】洗髪(2)看護が見える① p.238～249)	専任教師
第15回				洗髪		

【必須文献・参考文献】

1) ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 I・II 2) 看護がみえる①②③ メディックメディア
その他必要な文献は適宜提示します。

【評価の方法】

筆記試験60% 参加度20% レポート課題20%

【受講生へのメッセージ】 看護師の業務である療養上の世話に関する活動・休息・清潔の援助の基本的な技術について学びます。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-B	担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期		
【科目のねらい】 食事・栄養を援助する技術、排泄を援助する技術、褥瘡予防に向けた援助、創傷管理の技術を理解する。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義演習	第1教室	食事・栄養摂取を促す技術 1) 食事・栄養の意義 2) 食事に関する生理学的メカニズムとケア 3) 食事と栄養に関する基礎知識	専任教師
第2回		GW	第1教室	4) 栄養状態のアセスメント 5) 食事・栄養に関する援助の実際 ヘンダーソンの枠組みに沿って食事・栄養アセスメントを実施 事例展開 事例に沿って食事を阻害する要因と必要な援助を考える。	専任教師
第3回		講義演習	実習室1	5) 食事介助の実際 経口摂取 ・食事摂取前の観察 ・食事摂取の際のポジショニング ・食事介助(目の見えない人の食事介助 ・嚥下障害のある方の口腔ケア) ・入院中の患者さんが楽しく食事をできる工夫を話し合う。 ・食事介助病院食を食べてみる	【事前】食事援助 (2)看護が見える①p.106~125) 【事後】演習を通して食事介助の際の注意点などまとめる。
第4回					
第5回		講義演習	第1教室	5) 食事介助の実際 経管栄養法 事前に問題意識を持ったり、自己の課題を明確にして望んでください。 ・経管栄養の種類と留意点 ・経管栄養の援助 (経鼻胃カテーテル法の場合)	専任教師
第6回		講義演習	実習室1	経管栄養法:モデル人形を使って技術のポイントチェック ・チューブの挿入(デモンストレーション) ・経鼻胃管栄養における薬剤注入	専任教師
第7回		講義演習	第1教室	排泄を促す技術 1) 排泄ケアにおける看護師に必要な態度 2) 排泄ケアにおける患者心理	専任教師
第8回		講義演習	第1教室	3) 排泄の意義 4) 排尿・排便の解剖生理的メカニズム(確認) 5) 排尿・排泄障害の種類 6) 排尿・排便状況のアセスメント 7) 自然排尿・排便を促すための援助	専任教師
第9回		GW	第1教室	ヘンダーソンの枠組みに沿って排泄のアセスメントを実施 事例展開 ・事例に沿って排泄を阻害する要因と必要な援助を考える。	専任教師
第10回		講義演習	実習室1	7) 排便を促す援助 ① 浣腸(グリセリン浣腸) ② 摘便 ③ 尿器・便器の当て方 ④ ポータブルトイレ介助の当て方 ・排泄介助時の注意点や観察点を考慮しながら実施する。	【事前】 床上排泄 (2)看護が見える①p.286~303) 浣腸・摘便 (2)看護が見える②p.297~311)
第11回					

第12回	講義 演習	実習 室1	7) 導尿 ①一時的導尿 ②持続的導尿(膀胱留置カテーテル)全: 女性の一時的導尿、持続的導尿 ・カテーテル固定 ・カテーテル管理 ・感染予防の管理	【事前】排泄ケア (2)看護が見える②p.266～296) 【事後】 ①カテーテル留置に関連する合併症 ②カテーテル留置中の管理 ③膀胱留置カテーテル抜去後のトラブルへの対応について、 文献と演習での学びをまじえてまとめる。	専任教師
第13回					
第14回	講義 演習	実習 室1	皮膚・創傷を管理する 1) 創傷・褥瘡・治癒過程と形式 2) 創傷管理の方法 ①褥瘡洗浄 ②創保護(テープの貼り方・はがし方) ③包帯法	【事前】創傷管理・褥瘡予防 参考文献2)看護がみえる① p.372～422)を読んで授業に臨む	特定行為 研修「創傷 管理関連」 修了者
第15回					
【必須文献・参考文献】 1) ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 I・II 2) 看護がみえる①②③ メディックメディア その他必要な文献は適宜提示します。					
【評価の方法】 筆記試験60% 参加度20% レポート課題20%					
【評価の方法】 看護師業務の療養上の世話である食事・排泄と診療補助行為である創傷管理に関する技術の習得を目指します。					
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり					

授業科目	基礎看護技術Ⅲ	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 検査・治療に伴う看護技術、与薬を行う看護技術、精神的安寧を保つための看護技術などについて理解する。看護過程の概念とその展開方法を理解する。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	検査を安全かつ正確に行う技術 1)検査の意義 2)看護者の役割 3)治療・処置時の患者の理解と看護者の役割 4)検査の種類と実施時の注意点 5)尿・便・喀痰検査		専任教師
第2回		演習	実習室	6)身体計測 身長、体重、頭位、胸囲、腹囲、握力、肺活量	【事前】看護が見える③ フィジカルアセスメント(P24～33)を 読んでくる	専任教師
第3回		演習	実習室	7)検査方法 (人形を使用した静脈血採血) ・直針ではなく、翼状針使用。 ・安全な採血法の実際を学ぶ。	【事前】採血 (2)看護が見える②p.2～19)	専任教師
第4回		講義	教室	与薬を安全かつ正確に行う技術 1)与薬のための基礎知識 2)安全で確実な与薬のための援助の 知識・技術・態度	【事前】臨床薬理学で学習した薬効 動態の復習	専任教師
第5回		講義	教室	3)様々な与薬法 (経口与薬、口腔内与薬、直腸内与薬、 点眼法、塗布法、貼付法、注射法) 注射技術における看護師の責任、法的責任		専任教師
第6回		演習	実習室	4)注射のための援助技術 注射に使用する物品と取扱い ①アンプルからの薬液の吸い上げ ②バイアルからの薬液の吸い上げ ③静脈注射	【事前】注射物品 (2)看護が見える②P30、 基礎看護技術ⅡP376)、 シリンジ・アンプルの取り扱い (2)看護が見える②34～36)、 静脈注射 (2)看護が見える②P58～63	専任教師
第7回		演習	実習室	④皮下注射 ⑤筋肉注射(三角筋、中殿筋)の演習	【事前】皮下注射(2)看護が見える② P44～48)、筋肉注射((2)看護が見え る②P49～57)	専任教師
第8回 第9回		演習	実習室	⑥末梢静脈路確保 ⑦点滴静脈内注射 ⑧滴下計算 ⑨輸液ポンプ ⑩シリンジポンプの演習	【事前】末梢静脈路確保 (2)看護が見える②P66～74)、 点滴静脈内注射 (2)看護が見える②p.75～91)、 シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い (2)看護が見える②P96～121) 【事後】グループ毎に滴下調整、 「注射・点滴による与薬を安全かつ正確 に実施するための看護師の役割」	専任教師
第10回		講義	教室	苦痛の緩和・安楽かつ快適さを確保する技術 1)精神的援助 2)リラクゼーション ①筋弛緩法 ②呼吸法 ③自律訓練法 ④イメージ療法 3)カウンセリング技法		公認心理 師
第11回		講義	教室	看護過程とは 1)看護過程の必要性 2)問題解決法 3)看護過程の構成要素4)クリティカルシンキン グ 5)看護過程の実践について 6)看護と倫理	事前に渡す授業資料を予習して授 業に臨むこと	専任教師
第12回		講義	教室	アセスメントの実施① 1)情報収集の目的・方法 2)主観的情報と客観的情報 3)情報収集の枠組み(ヘンダーソン等) 4)クリティカルシンキング向上にむけて (帰納法・演繹法)	事前に渡す授業資料を予習して授 業に臨むこと	専任教師

第13回		講義	教室	<p>アセスメントの実施②</p> <p>1)情報の解釈・判断(問題・要因・成り行き)</p> <p>2)解釈・判断の注意点</p> <p>3)適切な解釈・判断へのクリティカルシンキングの活用</p>	事前に渡す授業資料を予習して授業に臨むこと	専任教師
第14回		講義	教室	<p>看護問題(診断)の抽出</p> <p>1)問題抽出の方法</p> <p>2)看護診断と医学診断・共同問題</p> <p>3)顕在的問題・潜在的な問題 4)関連図</p> <p>看護計画の立案</p> <p>1)目標設定の方法 2)具体策の策定</p>	事前に渡す授業資料を予習して授業に臨むこと	専任教師
第15回		講義	教室	<p>7)看護記録</p> <p>①看護記録の作成と管理</p> <p>②個人情報に関連した情報の記録の仕方 や取扱い方</p>	事前に渡す授業資料を予習して授業に臨むこと	専任教師
<p>【必須文献・参考文献】</p> <p>1)ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 I・II 2)看護がみえる①②③ メディックメディア 3)看護過程の解体新書 その他必要な文献は適宜提示します。</p>						
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験60% 参加度20% レポート課題20%</p>						
<p>【受講生へのメッセージ】 看護師業務である診療の補助行為の注射・検査についての看護技術の習得・苦痛緩和・安楽のケア 等すべての看護技術に共通する技術を習得します。</p>						
<p>【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり</p> <p>【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり</p>						

授業科目	基礎看護技術Ⅳ	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15 時間)	講義時期	第1学年 前期・後期			
【科目のねらい】 基礎看護技術試験を通して、技術の理論・根拠・手順の習得度を確認し、患者にとってより安全安楽な技術を学ぶ機会とする。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		技術 チェック	実習室	【第1段階】 OSCE 基礎 I A 実習前課題 コミュニケーション技術	【事後】レポートあり。	専任教師
第2回						
第3回		技術 チェック	実習室	【第2段階】 OSCE バイタルサイン測定 提示された課題について情報の整理をする	【事前】ピアグループで技術練習し、 先輩から同僚評価してもらう(2枚)。 その後、教員評価を受ける。	専任教師
第4回						
第5回						
第6回		技術 チェック	実習室	【第3段階】 OSCE 模擬患者 数個の課題の組み合わせ、アセスメントから 技術の実施まで 事例提示の時期は未定。基礎看護技術の 技術項目の中から課題を出す。	【事後】レポートあり。	専任教師
第7回						
第8回						
【必須文献・参考文献】 1) ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 2) 看護がみえる①②③ メディックメディア その他必要な文献は適宜提示します。						
【評価の方法】 第1段階～第3段階の技術試験の平均点で評価する。各段階に於いて教員が必要と判断した場合、再指導を行う。						
【受講生へのメッセージ】 技術は実践を積み重ねることにより習得することが可能となります。通年で技術チェックを行っていきます。ピアグループメンバー同士で実技評価表を用いて、指定の技術の評価を受けましょう。2.3年生の協力が不可欠です。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	基礎看護技術V-A		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第1学年 後期		
【科目のねらい】 アクティブラーニング、シミュレーション教育を経て臨床判断能力向上にむけた知識・技術の習得を図る						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	第1教室	<オリエンテーション> ・看護過程の流れ確認 ・スケジュール確認 ・事例読み合わせ ・アセスメントの開始		専任教師
第2回		GW	第1教室	<アセスメント・個人ワーク> *各自がとった情報と行ったアセスメントを元に看護上の問題を導き出す グループメンバーと共有し、アセスメントを深め問題点の根拠を深めても良い	【事前】各自アセスメントを進める 【事後】第3回目に向けて事前課題①アセスメントを提出	専任教師
第3回		GW	第1教室	<アセスメント・グループワーク> ・事前課題①をもとにグループワーク実施 ・グループでアセスメント内容について質問し合い修正・追加を行う	【事前】各自アセスメントを進める	専任教師
第4回		GW	第1教室	<日常生活上の看護問題の明確化、関連図作成・個人ワーク> ・前回の意見交換を活かし、アセスメントを深め、看護問題を明確にし、関連図を作成する。看護問題への看護目標を立案する	【事前】各自アセスメントを進める 【事後】第5回目に向けて事前課題②関連図、問題点の明確化、看護目標を提出	専任教師
第5回		GW	第1教室	<日常生活上の看護問題の明確化、関連図作成・グループワーク> ・事前課題②をもとにグループワーク実施	【事前】各自上記の課題を進める	専任教師
第6回		演習	第1教室	<具体策の立案・グループワーク>	【事前】具体策の立案は個人で行い、演習に臨む	専任教師
第7回		演習	第1教室	<シミュレーション> ・症例①模擬患者への看護の実施と振り返りを行い具体策の評価・修正・追加をするプランを導き出す	【事前】各自実践するケアの技術練習を行い授業に臨むこと	専任教師
第8回		演習	実習室	<実施評価の書き方> ・7回目のシミュレーションで出た具体策の評価・修正・追加をするプランを基に評価修正の書き方を理解し記述する		専任教師
【必須文献・参考文献】 1)看護過程の解体新書 2)基礎 I -AからⅢまでの授業で使用したレジュメ						
【評価の方法】参加点20% 自己評価10% 看護過程40% テーマレポート30% 全部で100%						
【受講生へのメッセージ】 症例に対する看護過程をGWを通して実施します。その上で患者の日常生活動作の充足における問題点を導き出し、シミュレーションを通じて必要な援助を実施することで、基礎看護学Ⅱ期実習にむけての看護過程実施やケアを実施する上での個人の課題を明確にします。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	基礎看護技術V-B	担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 紙上患者の看護過程を展開することで、看護過程の流れを理解する。(アセスメントから具体策の立案まで)					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	第2教室	オリエンテーション ①看護過程とは ②構成要素 ③臨床判断とは ④学習支援とは ⑤患者の「疾患」「症状」「治療・処置」を関連づけて概要をつかむ * 誤嚥性肺炎事例の提示 ヘンダーソンの14項目の視点を活用する。	全15回の授業における事前・事後課題は第1回の授業にてお知らせします 専任教師
第2回		GW	第2教室	アセスメント * 各自が行ったアセスメントを元にグループメンバーと意見交換をし、アセスメントを深める。	専任教師
第3回		GW	第2教室	アセスメント * 各自が行ったアセスメントを元にグループメンバーと意見交換をし、アセスメントを深める。	専任教師
第4回		講義演習	第2教室	アセスメント視点についてまとめ	専任教師
第5回		GW講義	第2教室	関連図を用いた全体像の把握	専任教師
第6回		GW講義	第2教室	看護上の問題点の明確化	専任教師
第7回		GW講義	第2教室	看護計画の立案(看護のポイント)	専任教師
第8回		演習講義	第2教室	事例に関するケアのポイントの振り返り 実施①看護計画を実施する流れ 評価①評価を行う時期と進め方・評価の実施者 脳梗塞の事例を提示:ヘンダーソンの14項目の視点を活用する。	専任教師
第9回		GW	第2教室	アセスメント * 各自が行ったアセスメントを元にグループメンバーと意見交換をし、アセスメントを深める。	専任教師
第10回		GW	第2教室	アセスメント * 各自が行ったアセスメントを元にグループメンバーと意見交換をし、アセスメントを深める。	専任教師
第11回		講義演習	第2教室	アセスメント視点についてまとめ	専任教師
第12回		GW講義	第2教室	関連図を用いた全体像の把握	専任教師
第13回		GW講義	第2教室	看護上の問題点の明確化	専任教師
第14回		GW講義	第2教室	看護計画の立案(看護のポイント)	専任教師

第15回		GW 講義	第2 教室	事例に関するケアのポイントの振り返り 看護過程展開のまとめ		専任教師
【必須文献・参考文献】 1)看護過程の解体新書 2)症状別看護過程 必要な文献は適宜提示します。						
【評価の方法】 参加点20% 自己評価10% 看護過程40% テーマレポート30% 全部で100% (60点に満たない場合は再度指導を受ける場合があります)						
【受講生へのメッセージ】 個人学習とグループワークの繰り返しを通して、自らの知識を深める講義・演習です。自己の課題等を明確にしつつ、グループダイナミクスの中でたくさんの学びを得られるようにしましょう。尚、看護過程は、今後実習において患者ケアのためのツールとして活用していきます。看護学生向けの雑誌で特集されている看護過程の展開に多く触れることを勧めます。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	臨床看護総論		担当者	専任教師 非常勤講師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第1学年 後期		
【科目のねらい】 看護の対象の立場や健康上のニーズを理解し、対象を中心とした看護を提供するための基礎的能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	第1教室	臨床看護総論の枠組み 看護活動の視点(1)	【事前】臨床看護総論P.12～P.21、P.102～P.108 熟読	専任教師
第2回		講義 演習	第1教室	「闘病記に学ぶ」 * 事前に闘病記を1冊読みレポート(1200字程度)にまとめる。 「闘病記を読んで」や「看護学生にとって、このような闘病記を読むことの意味」などを話し合う(グループディスカッション)	【事前】患者の書いた闘病記を1冊読みレポート(1200字程度)にまとめる。	非常勤講師
第3回		講義 演習	第1教室	「闘病記」を書くことの意味・書くことでのケア		
第4回		講義 演習	第1教室	「グリーンワークとしての闘病記」 グリーンワークとは 患者の家族が書いた闘病記について	【事前】家族の書いた闘病記を1冊読みレポート(1200字程度)にまとめる。	
第5回		講義 演習	第1教室	グリーンワークについて・看護する立場でのグリーンワークについて(グループディスカッション)		
第6回		講義	第1教室	看護活動の視点(2)	【事前】臨床看護総論P.109～P.144 熟読	専任教師
第7回		講義	第1教室	看護活動の視点(3) 終末期(1)	【事前】臨床看護総論 P.145～P.165、P.114～P.118 熟読	専任教師
第8回		講義	第1教室	終末期(2)	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ P.470～P.488まで熟読	専任教師
第9回		講義 演習	第1教室 図書室 IT室	基礎看護学実習Ⅱで自身が行った看護について振り返り、これまで学習してきた知識とつながりがわかるように資料をまとめる。	【事前】「石巻赤十字看護専門学校レポート作成要領」の確認をしておく。	専任教師
第10回		講義 演習	第1教室 図書室 IT室	第9回の課題への取り組み		専任教師
第11回		講義 演習	第1教室	課題発表	【事後】発表終了後、質疑や助言の内容を踏まえ、レポート修正を行う。また、「看護師として必要と考えたこと」「患者から言われた忘れられない言葉」「大切にしている言葉」について追記して提出する。	専任教師
第12回				課題発表		
第13回		講義 演習	第1教室	課題発表		専任教師
第14回						
第15回		講義 演習	第1教室	臨床看護を実践するにあたって * 患者、家族、スタッフ、多職種から信用・信頼される為に大切なことをグループで検討し発表する。		専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ ナーシンググラフィカ 臨床看護総論 その他必要な文献は適宜提示します。						
【評価の方法】 門林先生:課題・授業態度等 20% 邊見:レポート課題60% 授業態度等20%						
【受講生へのメッセージ】 看護は対象を理解することから始まり、科学的根拠に基づいて看護の実践を行います。看護の実践するためには、看護師自らの力で考える力も求められます。本科目を通して、対象の立場に立った看護を実践することや、自身の看護観について考えてみましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】						

授業科目	看護研究	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第3学年 前期			
【科目のねらい】 看護の様々な現象に対し、論理的・科学的な姿勢で取り組むことができるよう研究の必要性を理解し、研究方法について基礎的な考えを理解する。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	第3教室	授業オリエンテーション 看護研究とは①研究の必要性②研究の種類と特徴 看護研究と看護理論について	授業資料に基づきテキストを熟読する	専任教師
第2回		講義	第3教室	研究のはじめ方 ①リサーチクエスチョンを立てる 情報探索と吟味 ①文献レビュー②集めた資料の扱い方③ 情報リテラシー・統計リテラシー	授業資料に基づきテキストを熟読する	専任教師
第3回		講義	第3教室	研究における倫理 ①倫理とは何か②研究において擁護されるべき権利	授業資料に基づきテキストを熟読する	専任教師
第4回		GW	IT室	設定したテーマに基づき文献を収集する ①文献検索エンジンの使い方 ②検索キーワードについて吟味 ※文献の取り寄せについては無料のものを活用し、有料のものを活用 したい場合は自費とする。	テキストp73～80を参考にして 医学中央雑誌(医中誌web) CiNii Articles・J-STAGE などから文献検索する方法を予習して臨む	専任教師
第5回		GW	IT室	設定したテーマに基づき文献を収集する	【事後課題】文献の整理と文献レビューを実施し、レポート提出①	専任教師
第6回		講義	第3教室	看護研究クリティーク ①クリティークとは ②クリティークするために必要な能力③論文を読み評価する時のステップ ④看護論文をクリティークする際の留意点		専任教師
第7回		GW	第3教室 IT室	各グループの課題論文について基準に基づきクリティークする ※クリティークする論文は、教師が提示します。クリティークしたい文献がある場合は、相談に応じます。		専任教師
第8回		GW	第3教室 IT室	各グループの課題論文について基準に基づきクリティークする		専任教師
第9回		GW	第3教室 IT室	各グループの課題論文について基準に基づきクリティークする	課題:グループ毎に発表資料の提出	専任教師
第10回		発表	第3教室	クリティークの発表①		専任教師
第11回		発表	第3教室	クリティークの発表②		専任教師

第12回		講義	第3教室 IT室	研究成果(ケーススタディ)をまとめる ①研究計画書の作成②研究結果(ケーススタディ)の書き方 ③研究論文・ケーススタディの構成 研究成果の発表 ①発表の意義②講演での発表③論文での発表④効果的なプレゼンテーションの仕方	【事後課題】前回のグループワークで作成した文献リストから論文を1つ選び、どんな論文が紹介するパワーポイントを作成する。	専任教師
第13回		個人ワーク	第3教室	ケーススタディ計画書の作成(個人)	【事後課題】研究計画書の作成	専任教師
第14回		講義	第3教室	模擬発表会(司会・書記等運営の役割を果たす) ケーススタディの原稿を元に発表をしていく		専任教師
第15回		発表	講堂	ケーススタディ発表会	【事後課題】発表への質問に対する自己の考えや修正点についてレポート提出②	専任教師

【必須文献・参考文献】

1) 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 *その他、必要時提示します。

【評価の方法】

課題レポート40% 参加度(グループ演習等)20% ケーススタディ40%

* 看護系学会への参加、石巻赤十字病院事例検討会などへの参加をし、感想記入用紙の提出があれば参加度として加え評価する。

【受講生へのメッセージ】

看護実践における課題を解決していくために役立つ、①看護研究の目的と方法 ②研究における倫理的配慮
③文献検索・クリティーク方法 ④ケーススタディの概要・プレゼンテーションについて学習します。

【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	基礎看護学実習 I	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(45時間)	講義時期	第1学年 後期
【科目のねらい】 看護場面の見学及び実施への参加を通して、患者のおかれる環境、看護の対象及び機能を理解することができる。また、実習を通して看護に触れることで、今後の学習の動機付けとする。			
実習内容			担当者
基礎看護学実習 I-A 【実習目的】 看護場面の見学を通して、患者が入院生活を行う環境や、患者を取り巻く医療チームの役割・活動を理解する。 【実習目標】 I. 患者が入院生活を行う環境の実際を理解することができる。 1. 病棟・病床の構造、設備と機能が患者の入院生活にどのように関連しているか記述することができる。 2. 患者にとって安楽な病室の環境がどのようなものかを記述することができる。 II. 患者を取り巻く医療チームの役割・活動を理解する。 【実習期間】 令和7年10月30日31日 2日間 【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院 3階東病棟・4階東病棟・4階西病棟・5階東病棟・5階西病棟・6階東病棟・6階西病棟 【実習方法・スケジュール】 1日目 病棟・病床の説明・見学、病棟・病床の設備体験・病床環境の調整 2日目 看護場面、他職種の患者との関わりの場面の見学、反省会 【実習記録】 ①基礎看護学 I A実習記録(表紙、記録用紙No. 1～No. 4) ②毎日の記録(I A実習用) ③看護技術経験チェック表 ④実習評価表(基礎看護学実習 I 評価表) ⑤事前レポート 実習終了後、実習での学びを加筆修正し、再度提出する。			他専任教師
基礎看護学実習 I-B 【実習目的】 看護場面の見学及び実施を通して看護の対象・役割を理解する。 【実習目標】 III. 看護の対象となる患者を理解する。 1. 患者と良好な人間関係を築き情報収集ができる。 2. 患者を個人的特性がある一人の人間として理解する。 IV. 看護場面の見学及び実施を通して、日常生活援助についての看護の役割を理解する。 V. 受け持ち患者を通して学んだことを述べ、今後の課題を明確にできる。 【実習期間】 令和8年11月25日～11月28日 【実習施設・病棟】 I-A実習と同様*基礎看護学実習では、年間を通して同一病棟で実習を行う。 【実習施設・病棟】 1～2日目:患者オリエンテーション、患者とコミュニケーション(情報収集)診療の補助や、受け持ち患者を中心に日常生活援助の看護場面の見学・実施 3日目:プロセスレコード 4日目:反省会 【実習記録】 ①基礎看護学 I B実習記録(表紙、記録用紙No.1～No.5) ②毎日の記録 ③看護技術経験チェック表 ④実習評価表(基礎看護学実習 I 評価表)			
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 基礎看護学③ メディカ出版 湯楨ます・薄井坦子・小玉香津子他訳 ナイチンゲール看護覚書 看護であること看護でないこと 現代社			
【評価の方法】 単位認定は、学生ガイドの規程に基づき、基礎看護学 I-Aと I-B実習を合わせた45時間の内5分の4以上の時間(36時間)以上実習し、その内容が学習目標に到達している(60点以上)と評価されることで認定される。			
【受講生へのメッセージ】 これまで学習した環境についてやコミュニケーションの技術を活用して看護の機能について考えていきましょう。			

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第1学年 後期
【科目のねらい】 受け持ち患者に、日常生活動作充足のための看護過程を展開することで、講義で学んだ看護過程がどのように患者に活かしているかを理解する。			
実習内容			担当者
<p>【実習目標】</p> <p>I.受け持ち患者に行われている看護に参加し、行われているケアの根拠となる情報を、患者や患者カルテなどから収集・アセスメントし日常生活動作の充足に必要な看護についてのべることができる</p> <p>II.実習で得られた経験から看護師としての自己の課題を振り返り記述することができる 実習場面を通して、「看護師としての自己の課題」について実習中の自分の行動を振り返り、レポートに記述する</p> <p>【実習期間】 令和8年1月28日(火)～2月14日(金) 12日間</p> <p>【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院 3階東病棟・4階東病棟・4階西病棟・5階東病棟・5階西病棟・6階東病棟・6階西病棟・北3病棟</p> <p>【実習方法・スケジュール】</p> <p>1日目 患者決定・アセスメント(情報収集・分析・解釈)</p> <p>2日目 アセスメント(情報収集・分析・解釈)</p> <p>3日目 アセスメント(情報収集・分析・解釈)</p> <p>4日目 アセスメント(情報収集・分析・解釈) (*1 午後 帰校)</p> <p>5日目 アセスメント(情報収集・分析・解釈) (*1 午後 帰校)</p> <p>・受け持ち患者に対して看護師が実施している日常生活援助の意味を考えながら、情報収集をする。</p> <p>*1 帰校時は教員の指導の基、看護過程の展開について不明な点を明らかにして進める</p> <p>6日目 問題点の明確化・看護目標の立案・ミニ関連図の作成・中間面談</p> <p>7日目 問題点の明確化・看護目標の立案・ミニ関連図の作成→修正</p> <p>8日目 具体策立案 (*2午後 帰校)</p> <p>9日目 実施・評価</p> <p>*2 患者に実施する具体策を学内にて学生間で技術練習し技術の復習、修正・追加を検討する</p> <p>10日目 実施・評価</p> <p>11日目 実施・評価</p> <p>12日目 看護過程まとめ・考察・最終面談</p>			専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 基礎看護学③ メディカ出版 その他必要な文献は随時提示します。			
【評価の方法】 実習評価表を用いて評価する。(実習内容、実習記録、実習態度、出席時間)			
【受講生へのメッセージ】 看護過程を用いながら、患者さんのケアを考え実践する実習となります。1年生で学習したことのみならず、これまで学んだ知識・技術・態度を活用しより良い実践ができるように頑張りましょう。			

授業科目	地域・在宅看護概論	担当者	専任教師			
単位数(時間)	専任教師	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 地域・在宅看護の背景や、役割・機能、在宅療養者を支援する地域包括システムについて学ぶ						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	1 地域・在宅看護の概念 1. 地域と生活 2. 地域・在宅看護の背景 3. 地域・在宅看護の基盤	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P16～P41	専任教師
第2回		講義	教室	4. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 5. 在宅看護を展開するための基本理念 6. 在宅看護における倫理	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P41～P53	専任教師
第3回		講義	教室	2 在宅療養者と家族の支援 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 在宅看護対象者と在宅療養の成立要件 3. 在宅療養の場における家族のとらえ方 4. 在宅療養者の家族への看護	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P56～P84	専任教師
第4回		講義	教室	3 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1. 地域アセスメント 2. 地域包括ケアシステム 3. 療養の場の移行に伴う看護	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P88～P113	専任教師
第5回		講義	教室	4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 5. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P114～P136	専任教師
第6回		講義	教室	特別講義 石巻地域の地域包括ケアシステム 1) 地域包括支援センターにおける支援・サービスの実際 2) 地域包括支援センターと在宅医療の連携について 3) 暮らしを支える地域包括支援センターのこれから	第4、5回講義資料、地域包括ケアシステムについて復習し特別講義に臨むこと	非常勤講師
第7回		講義	教室			
第8回		筆記試験	教室	筆記試験	講義時間内に試験範囲を提示する	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術② メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ						
【評価の方法】 筆記試験 100点						
【受講生へのメッセージ】 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響・社会の動向を捉え、地域・在宅看護の機能、対象、理念、地域における看護実践の変遷や基本倫理を理解し自分の言葉で説明できるよう、各自事前・事後課題(受講準備)を確認復習して講義に臨んでください。また、特別講義を通し地域包括ケアシステムの構成と機能を理解し、その中でも重要な役割を担う地域包括支援センターの支援・サービス内容、多職種連携の実際を理解し地域・在宅実習Ⅰに臨めるようにしましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 地域・在宅で療養生活を送る対象者を支援するための制度について学ぶ						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	4 地域療養を支える制度 1. 社会資源の活用 2. 医療保険制度	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P142～P148	専任教師
第2回		講義	教室	3. 後期高齢者医療制度 4. 介護保険制度	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P149～P162	専任教師
第3回		講義	教室	5. 生活保護制度 6. 障害者に関連する法律	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P162～P176	専任教師
第4回		講義	教室	7. 難病法 8. 子どもの在宅療養を支える制度と 社会資源	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P176～P182	専任教師
第5回		講義	教室	9. 在宅療養者の権利を擁護する制度と 社会資源 10. 高齢者施策	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P183～P192	専任教師
第6回		演習 GW	教室 IT室	<事例:パーキンソン病患者の在宅復帰に 向けた支援> ・ オリエンテーション、事例の説明 ・ グループワーク:フェイスシートにて情 報整理	グループワーク内容について講義時 間に提示する	専任教師
第7回		演習 GW	教室 IT室	・ グループワーク:地域の住民向けの支 援情報を調べ、在宅復帰に向けた、制度利 用申請からサービスをうけるまでのプロセ スを調べる	グループワーク内容について講義時 間に提示する	専任教師
第8回		筆記 試験	教室	・ 筆記試験 ・ 課題提出	講義時間内に試験範囲を提示する	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ						
【評価の方法】 筆記試験 90点 + 課題 10点						
【受講生へのメッセージ】 地域全体を支える看護やケアのしくみを理解するとともに、地域で暮らす人々とその家族に看護を提供する際に必要な支 援の基本となる介護保険や医療保険、障害者支援、子どもの在宅療養、高齢者施策等、在宅療養者の権利を擁護する制度 と社会資源を理解し自分の意見をレポートに反映できるよう、各自事前・事後課題(受講準備)を確認復習して講義に臨んで ください。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(45時間)	講義時期	第2学年 後期

【科目のねらい】

地域・在宅で療養生活を送る対象者を支援するための看護について考え実施できる。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	5 在宅療養を支える訪問看護 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護サービスの展開 4. 訪問看護の記録	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P198～P227	専任教師
第2回		講義	教室	3 訪問看護サービスの展開 訪問マナーシミュレーション① ・玄関でのマナー ・挨拶の仕方 ・訪問目的説明仕方 ・療養者主体とは	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論②P18～P22、 P264表7-1、シミュレーション内容に ついて講義時間に提示する	専任教師
第3回		演習	実習室2			
第4回		講義	教室	6 在宅看護における安全と健康危機管理 1. 在宅看護における危機管理 2. 日常生活における危機管理 3. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P234～P246	専任教師
第5回		講義	教室	2 在宅療養生活を支える基本的な技術 1. コミュニケーション 2. 在宅におけるアセスメント技術 3. 環境整備	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論②P34～P49	専任教師
第6回		講義	教室	環境整備シミュレーション② ・居住環境のアセスメント実施、 改善策の実施	シミュレーション内容について講義 時間に提示する	専任教師
第7回		講義	教室	4. 生活リハビリテーション 5. 感染予防 6. ターミナルケア	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論②P50～P64	専任教師
第8回		講義	教室 IT室	3 日常生活を支える看護技術 1. 食生活	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論②P70～P77	専任教師
第9回		演習	教室 IT室	食生活シミュレーション③ 楽しく安全に食べるための 食事環境の調整	シミュレーション内容について講義 時間に提示する	専任教師
第10回		講義	教室	3 日常生活を支える看護技術 2. 排泄 3. 清潔	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論②P78～P87	専任教師
第11回		演習	教室 IT室	排泄シミュレーション④ 排便障害のアセスメントと改善策の提案	シミュレーション内容について講義 時間に提示する	専任教師

第12回		演習	教室 IT室	清潔シミュレーションのための 具体策作成:グループワーク	グループワーク内容について講義時間 に提示する	専任教師
第13回		演習	実習 室2	清潔シミュレーション⑤ ベットや布団上での洗髪の実施	シミュレーション内容について講義 時間に提示する	専任教師
第14回		演習	実習 室2			
第15回		講義	教室	特別講義 在宅療養を支える訪問看護 1)訪問看護ステーションにおける 訪問の看護実際 2)訪問看護と多職種連携	第1回講義資料、在宅療養を支える 訪問看護について復習し特別講義 に臨むこと	非常勤講師
第16回		演習	教室 IT室	訪問看護シミュレーション⑥ <事例で学ぶ在宅療養者の思い> ・オリエンテーション(グループ発表・事例紹介) ・フェイスシート:個人ワーク	シミュレーション内容について講義 時間に提示する	専任教師
第17回		演習	教室 IT室	1. 地域・在宅看護における看護過程: 個人ワーク 1)アセスメント:療養者の現状把握と 必要な看護内容の抽出	個人ワーク内容について講義時間 に提示する	専任教師
第18回		演習	教室 IT室	2. 地域・在宅看護における看護過程: グループワーク 2)ICFの関連図 3)看護計画・具体策の立案 4)ロールプレシナリオ作成	グループワーク内容について講義時間 に提示する	専任教師
第19回						
第20回		演習	実習 室2	3. ロールプレイ発表・質疑応答 目標達成のための具体策の実施	ロールプレイ内容について講義時間 に提示する	専任教師
第21回						
第22回		講義	教室	4. 具体策の修正などロールプレイの 振り返り:グループワーク レポート作成/課題提出	ロールプレイ内容について講義時間 に提示する	専任教師
第23回		講義	教室	特別講義 医療施設と居宅を結ぶ看護 1)病院における総合患者支援センターの 役割り 2)退院支援の実際	教科書の講義範囲を読んでくる 地域・在宅看護論①P103~P112	非常勤講師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ						
【評価の方法】 課題(ポートフォリオ、シミュレーションシート、具体策立案、シミュレーション後の学び) 60点 レポート 20点 + 参加点 20点						
【受講生へのメッセージ】 これまでの知識・技術を統合し在宅看護過程をシミュレーションで展開していきます。地域・在宅実習で得た知識を活用し、グループメンバーと協力しながら事例を通し学びを深めましょう。特別講義では訪問看護ステーションの実際について支援の実際についてご講義頂きます。地域・在宅実習Ⅱで実際に療養者のお宅に訪問し看護展開を行います。実践に活かせるよう必須文献だけでは分からないことを積極的に尋ねてみましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	地域・在宅看護論Ⅲ	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第3学年 後期			
【科目のねらい】 在宅療養者に合わせた看護援助と社会資源を学ぶ						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		演習	教室	1. 事例紹介	シュミレーション内容について講義時間に提示する	専任教師
第2回		演習 GW	教室 実習室2 IT室	2. 退院支援と調整	シュミレーション内容について講義時間に提示する	専任教師
第3回						
第4回		演習 GW	教室 実習室2 IT室	3. 多職種連携 ①医師との連携 ②ケアマネージャーとの連携 ③多職種との連携	シュミレーション内容について講義時間に提示する	専任教師
第5回						
第6回		演習 GW	実習室2	4. 看護の実際 シュミレーション	シュミレーション内容について講義時間に提示する	専任教師
第7回						
第8回		筆記試験	教室	・ 筆記試験 ・ シュミレーション課題提出	講義時間内に試験範囲を提示する	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナースングラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナースングラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ						
【評価の方法】 筆記試験(レポート) 50点 + シュミレーション課題 30点 + 参加度 20点						
【受講生へのメッセージ】 これまでの知識・技術を統合し地域・在宅看護過程をシュミレーションで展開していきます。在宅実習で得た知識を活用し、グループメンバーと協力しながら事例を通し学びを深めましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	地域・在宅看護論Ⅳ	担当者	専任教師・非常勤講師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第3学年 前期			
【科目のねらい】 赤十字の理念を理解し、誰もが迎える高齢期をすこやかに過ごすために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を身につける(赤十字健康生活支援講習支援員養成講習)						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義 実技	実習室1	1.高齢者の健康と安全 (1)健康な高齢者を目指して (2)高齢期の理解 (3)高齢者に起こりやすい事故の予防と手当、急病への対応	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第2回		講義 実技	実習室1	2.地域における支援活動 (1)支援活動とは (2)支援活動における高齢者の理解 (3)支援活動にあたって (4)ともに楽しいひとときを (5)外出、散歩にさそいましょう (6)高齢者を支えるネットワーク	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第3回		講義 実技	実習室1	3.日常生活における介護① (1)介護にあたって (2)居室の環境 (3)移動	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第4回						
第5回		講義 実技	実習室1	3.日常生活における介護② (4)車椅子への移動動作 (5)食事 (6)排泄	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第6回		講義 実技	実習室1	3.日常生活における介護③ (7)着替え (8)清潔 (9)認知症高齢者への対応	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第7回		講義 実技	実習室1	3.日常生活における介護④ (10)人生のエンディングを考える (11)介護者の健康管理 (12)癒しのハンドケア	内容について講義時間に提示する	専任教師 非常勤講師
第8回		検定	教室	学科検定	講義時間内に検定範囲を提示する	専任教師 非常勤講師
【必須文献・参考文献】 日本赤十字社 健康生活支援講習(教本)、配布資料						
【評価の方法】 学科検定 100点						
【受講生へのメッセージ】 健康生活支援員養成講習を受講し健やかな高齢期を過ごすために必要な知識・技術・考え方、高齢者が自立して生活できることをめざし、家庭や地域社会の中で誰もが支援や介護ができる方法を身につけ看護実践に活かせるよう学びを深めましょう						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 赤十字健康生活支援員講習指導員資格者保持者・指導者の実務経験あり						

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第2学年
【科目のねらい】 地域で生活する人々に焦点をあて、健康生活の保持増進と健康回復に対する地域ケアシステムを理解する。また、対象がより質の高い健康生活を送れるように援助するために必要な基礎的能力を養う。			
実習内容			担当者
【実習目標】 Ⅰ. 対象となる人々を地域でどのように支えているか、地域の生活環境について理解し、健康に与える影響について考える。 Ⅱ. 地域で暮らす人々について理解する。 Ⅲ. 人々が住み慣れた地域で質の高い健康生活を「その人らしく」継続して暮らせるための支援について理解する。 【実習施設・団体】 ① 石巻市役所・石巻市ささえあいセンター ② 石巻市社会福祉協議会(石巻地域) ③ NPO法人 いしのまきNPOセンター(石巻地域5団体) ④ 石巻赤十字看護専門学校(学内) 【実習方法・スケジュール】 ・2025年6月～2026年3月の間に上記①～③実習施設・団体をローテーションしながら12日間実習を行う。 ・市役所・社会福祉協議会・NPO法人・教職員に同行、地域住民との交流、地域で暮らす人々を理解する。 ・健康維持のための方法(健康支援プログラム企画)を知り看護の多様性を理解する。 ・スケジュール(例) 1日目 市役所ささえあいセンター見学実習1日(6月中旬から7月中旬) 2日目 石巻市役所・福祉避難所見学・地域アセスメント 3日目 サロン活動を企画・実施し実際についてサロン・イベント開催等の支援方法を理解する。 4日目 サロン(社会福祉協議会) // 5日目 サロン(//) // 6日目 NPO法人(石巻地域5団体) 実際に石巻地域で活動している団体の講義・活動に参加し、地域の生活環境や人々にどのようなニーズがあるか理解する。 7日目 NPO法人(石巻地域5団体、いずれか1つ) // 8日目 NPO法人(//) // 9日目 NPO法人(//) // 10日目 NPO法人(//) // 11日目 発表会準備・資料作成(地域住民との交流を通してのまとめ) 12日目 発表会、カンファレンス(意見交換、反省会、まとめ) 【実習記録】 毎日の記録、カンファレンス記録、サロン企画書、レポート等			専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術② メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ			
【評価の方法】 地域・在宅看護学実習評価表Ⅰに基づき、実習内容、実習態度、提出物、出席状況等により総合評価			
【受講生へのメッセージ】 地域で生活する人々に焦点をあて、地域・在宅看護の背景や役割・昨日、健康生活の保持増進と健康回復を支援する地域ケアシステムの実際を理解できるよう各実習施設で学びを深め、学内発表できるよう学生自ら積極的実習に望んでください。各実習施設の指導者の方々は、みなさんを受け入れる準備をしてくれています。各施設での学びの課題を自ら捉え、実践し充実した実習となるように、必要文献、事前課題を活用し臨んで下さい。			

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第3学年
【科目のねらい】 病院で療養された方が、地域で生活するために必要な社会資源の実際や、多職種との連携について学ぶ			
実習内容			担当者
【実習目標】 I. 在宅医療チームとして連携・協働する必要性を理解する II. 在宅療養者とその家族へ看護を展開する III. ヒューマンケアの基本的能力を習得する 【実習施設】 ① 石巻赤十字病院 総合患者支援センター地域医療連携課 ② 訪問看護ステーション ・祐訪問看護ステーション石巻 ・登米市訪問看護ステーション豊里 ・ひまわり訪問看護ステーション ・登米ひまわり訪問看護ステーション ・ひまわり訪問看護ステーション矢本サテライト事業所 ・大崎ひまわり訪問看護ステーション松山サテライト事務所 ・大崎ひまわり訪問看護ステーション古川事務所 ③ 在宅診療所 ・祐ホームクリニック石巻 ・石巻市立病院 在宅診療科 ④ 地域包括支援センター 石巻市稲井地域包括支援センター 石巻市中央地域包括支援センター 石巻市山下地域包括支援センター 石巻市湊地域包括支援センター			専任教師
【実習方法・スケジュール】 ・2025年5月～2025年11月の間に上記①～④実習施設をローテーションしながら12日間実習を行う。 ・訪問看護ステーションにおいては1人の療養者さんについて看護過程を展開する。 ・スケジュール(例) 1日目 訪問看護ステーション 2日目 訪問看護ステーション 3日目 訪問看護ステーション 4日目 訪問看護ステーション 5日目 訪問看護ステーション 6日目 在宅診療所 7日目 在宅診療所 8日目 総合患者支援センター 9日目 総合患者支援センター 10日目 学内カンファレンス(学びの共有) 11日目 地域包括支援センター 12日目 地域包括支援センター			
【実習記録】 受持ち患者記録、毎日の記録、カンファレンスレポート等			
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術② メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ			
【評価の方法】 地域・在宅看護学実習評価表Ⅱに基づき、実習内容、実習態度、提出物、出席状況等により総合評価			
【受講生へのメッセージ】 高齢者のみならず、障害児・者を含む地域のすべての人々が、疾病や障害があっても、生活の質を維持し、可能な限り住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けたるよう、地域包括ケアシステムにおいて、どのように療養者の生活を支えているか、その実際を各実習施設での役割を学んでください。各実習施設の指導者の方、療養者の方は、みなさんを受け入れる準備をしてくれています。各施設での学びの課題を自ら捉え、実践し充実した実習となるように、必要文献、事前課題を活用し臨んで下さい。			

授業科目	成人看護学概論	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 既習の概念を活用し、個人や家族あるいは地域における様々な集団を看護の対象として視野に入れ、それぞれの対象における多様な健康生活に対して働きかけるうえで基盤となる看護アプローチについて学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	成人であるということ * 成人の特徴を知り、成人各期の成長発達について学ぶ 成人期の発達課題と関連する理論	事前課題:教科書の該当ページをを読んでくること。	専任教師
第2回		講義	教室	身体機能の特徴と看護 * 身体機能の安定性と変化・身体機能の変化を分析する視点 身体機能の変化に着目した看護		専任教師
第3回		講義	教室	成人の生活を理解する視点と方法 * 成人の身体機能の変調を加齢・疾患・生活習慣の三側面から捉える事・成人の生活スタイルと健康観の多様性と共通性		専任教師
第4回		講義	教室	成人の生活を理解する視点と方法 (成人の生活の理解) * 健康観の多様性(主要な健康観・個人の健康観を理解する方法・保健行動と健康観)		専任教師
第5回		講義	教室	成人を取り巻く今日の状況・成長発達の特徴 成人保健と健康の動向 * 成人が置かれている現状と成人保健の動向について学ぶ	事前課題:宮城県の健康問題について調べてくること	専任教師
第6回		講義	教室	学習の特徴と看護 (おとなの学びの特徴・成人教育学の概念・おとなの学びの目標) 生活習慣に関する健康障害	事前課題:教科書の該当ページをを読んでくること。	専任教師
第7回		講義	教室	ワークライフバランスと健康障害 (ワークライフバランスと健康障害の関連・職業と健康障害・生活ストレスと健康障害・身体活動と健康障害)		専任教師
第8回		講義	教室	セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害 (セクシュアリティと健康に関連する概念・性的健康の指標および実態・性に関連する健康障害) 更年期にみられる健康障害(原因・症状・予防と治療)		専任教師
第9回		講義	教室	成人への看護に有用な概念 病みの軌跡(病みの軌跡という考え方・看護への適応) ストレス(ストレスとは・ストレスマネジメント) 危機(危機の特徴・危機介入)	事前課題:教科書の該当ページをを読んでくること。	専任教師
第10回		講義	教室	成人への看護に有用な概念 適応(ロイ適応看護モデルの概念と成人看護) 自己効力 ヘルスプロモーション	事前課題:教科書の該当ページをを読んでくること。	専任教師
第11回		講義	教室	がん治療と看護の基礎的知識を理解する がんを取り巻く現状、がん患者の心理過程		院内講師
第12回		講義	教室	がん治療と看護の基礎的知識を理解する がんの増殖課程と治療・治療期と治療期の看護・主な治療法と看護(手術・放射線・化学療法3大治療の理解)・看護師のストレスマネジメントの実際		院内講師

第13回		講義	教室	薬物療法における看護 (乳がんにて化学療法を受ける患者の看護について学ぶ)	事前課題:薬物療法について教科書の該当ページを読んでくること。	専任教師
第14回		講義	教室	手術療法における看護 (乳がん・多発骨転移にて放射線療法を受ける患者の看護について学ぶ)	事前課題:手術療法について教科書の該当ページを読んでくること。	専任教師
第15回		講義	教室	放射線療法における看護 (乳がんで乳房切除術を受ける患者の看護について学ぶ)	事前課題:放射線療法について教科書の該当ページを読んでくること。	専任教師
【必須文献・参考文献】 1. ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 2. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 その他参考文献については、授業内で適宜紹介していきます。						
【評価の方法】 筆記試験・レポート・参加度合わせて100点						
【受講生へのメッセージ】 成人看護学は、成人期にある人の健康の保持増進、疾病の予防や疾病からの回復、再発防止への生活習慣の獲得、苦痛の除去や緩和、死までの日常生活の充実など、健康のあらゆる局面において直面する健康問題の解決のために専門的看護を提供することを目的としています。専門的看護を提供するためには、まず成人の特徴を知り、起りやすい健康問題を理解することが大切です。また、がん看護について一緒にしっかり学んでいきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	成人看護援助論 I	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 前期

【科目のねらい】

大人に特徴的にみられる健康の様相と、それに対応する看護について理論的根拠に基づいて理解する。
成人の健康と看護のアプローチの基本を理解し、対象者の健康生活に対応した看護について基礎的な知識を基にした判断能力を活用し実践するための看護について学ぶ。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	周手術期に起こる生体の変化を理解し、周手術期の患者の観察がわかる 麻酔が及ぼす影響・侵襲がもたらすホルモンとサイトカインのはたらき・創傷治癒課程	第1回の1週間前までに「侵襲がもたらすホルモンとサイトカインの働きについて」レポートにまとめ提出すること	専任教師
第2回		講義	教室	術前に生じる様々な不安について考えることができる。主体的な治療参加への支援・リスクアセスメント・直前の援助(除毛・臍処置・飲水制限・不安の緩和・危険防止)。事例を基に看護について考える。	左記について教科書の該当ページを読み、理解してくる。周術期ワークブックの術前部分を実施し、紙ファイルに挟んで授業当日朝に提出する。	専任教師
第3回		講義	教室	術中の看護について理解する。安全な環境の管理・患者の入室までの状況の把握・入室から麻酔導入までの支援・手術体位の介助・術中の管理・覚醒時の支援・病棟への引き継ぎ・術前訪問		院内講師
第4回		講義	教室	術後合併症の予防と発症時の援助について理解する 肺合併症・循環器合併症・術後腸閉塞・術後感染・縫合不全・肺塞栓症 DVT・術後せん妄(肺塞栓症については詳しく)術後の継続看護の必要性について理解する 術後の継続看護の必要性・術後の継続看護の実際・継続看護を支える看護師間多職種役割分担と連携・日帰り手術における継続看護	左記の術後合併症について教科書の該当ページを読み、まとめておくこと。周術期ワークブックの術後、合併症部分を実施し、紙ファイルに挟んで授業当日朝に提出する。	専任教師
第5回		演習	実習室	術後観察・早期離床のシミュレーション	実習服を着用し、ゴーグル・聴診器持参で参加すること。	専任教師
第6回		GW	教室	術後観察・早期離床のシミュレーションで学んだことについてGWを通して学びを深める	第5回のシミュレーションから学んだことをグループでまとめます。ゴーグル着用し参加してください。	専任教師
第7回		講義	教室	セルフマネジメントとは何か学ぶ セルフマネジメント支援の為に必要な構成要素について学ぶ セルフマネジメントで看護職に求められる能力と責任について学ぶ	事前課題:「慢性疾患と看護の特徴」を第7回授業前にレポートにまとめ提出すること	専任教師
第8回		講義	教室	セルフマネジメントのための対象理解 ・本人と病気の位置関係の四つのタイプ ・健康信念モデル	事前課題:教科書の該当ページを読んでくること。	専任教師
第9回		講義	教室	慢性疾患を持つ患者に有用な概念を学ぶ ・エンパワメントモデル ・自己効力理論・行動変容ステージ ・コミュニケーション理論	事前課題:教科書の該当ページを読んでくること。	専任教師

第10回		講義	教室	セルフマネジメントを推進する看護方法 ・対象理解 ・援助方法 ・評価のしかた * 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援を 参考に学ぶ		専任教師
第11回		講義	教室	日本における緩和ケアの現状を理解できる 緩和ケアにおける看護師の役割について述べる ことができる 緩和ケアにおけるチームアプローチの重要性を理 解できる 意思決定とコミュニケーションについて学ぶ 家族ケアについて理解できる	事後課題:「緩和ケアにおける看護 師の役割について」授業後指定期 日までにレポートでまとめ提出す ること。	専任教師
第12回		講義	教室	身体症状とその治療・看護 身体症状のマネジメ ントの基本的な考え方を 理解できる がん疼痛のアセスメント・治療・看護について述 べる ことができる WHO方式がん疼痛管理が理解できる 身体症状概論・疼痛の治療と看護・全身倦怠感の 治療と看護		専任教師
第13回		講義	教室	身体症状とその治療・看護について理解できる 消化器症状 ・呼吸困難 ・がん治療に伴う苦痛の 緩和		院内講師
第14回		講義	教室	精神症状の治療と看護 がん患者の心の反応につ いて述べる ことができる 不安・抑うつせん妄のアセスメントと治療・看護につ いて述べる ことができる		院内講師
第15回		講義	教室	社会的ケア(社会的苦痛とは何か、アセスメントと支 援、社会資源について学ぶ) スピリチュアルケア(スピリチュアルペイン、実践の 基盤となる考え方について学ぶ)		院内講師

【必須文献・参考文献】

ナーシング・グラフィカ ②健康危機状況/セルフケアの再獲得 ③セルフマネジメント ④周手術期看護 ⑥緩和ケア
メジカルフレンド社 周術期看護 学習ワークブック(事前・事後課題として使用)
*その他参考文献については、適宜授業内で紹介していきます。

【評価の方法】

参加度 事前課題・レポート 筆記試験 合わせて100点

【受講生へのメッセージ】成人看護学は、成人期にある人の健康の保持増進、疾病の予防や疾病からの回復、再発防止への生活習
慣の獲得、苦痛の除去や緩和、死までの日常生活の充実など、健康のあらゆる局面において直面する健康問題の解決のために専門
的看護を提供することを目的としています。ここでは、経過別の看護と看護技術について学びます。成人看護学実習Ⅰ～Ⅱは経過別
に対応していますので、各経過における看護問題をおさえていきましょう。経過別は、すべての疾患に共通する部分でもありますので、
予習・復習をしっかりとって授業に参加して下さい。積極的な授業への参加を期待します。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	成人看護援助論Ⅱ-A 循環器・呼吸器	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 呼吸器系、循環器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	【呼吸器】1. 呼吸器疾患の動向についての理解する。2. 在宅ケアを継続するための看護師の役割を理解する。3. 呼吸器疾患患者の身体的問題・心理的問題・社会的問題を理解する。4. 呼吸器疾患患者の経過別看護展開を理解する。	講義1週間前に「周術期看護 学習ワークブック」の該当部分を教員に提出すること 左記内容が該当する教科書を読み、グループワークで検討できるようにしておくこと	専任教師
第2回		講義	教室	【呼吸器】呼吸器症状(呼吸困難・咳嗽・喀痰・喀血)に対する看護を学ぶ。 1. アセスメント 2. 看護目標 3. 看護活動(ドレナージを含む)	左記症状と看護について教科書該当ページを読み、グループワークで検討できるようにしておくこと	専任教師
第3回		講義	教室	【呼吸器】気胸・血胸患者の看護 1. アセスメント 2. 看護目標 3. 看護活動	気胸の疾患と看護について教科書該当ページを読み、グループワークで検討できるようにしておくこと	専任教師
第4回		講義 演習	実習室	【呼吸器】慢性呼吸不全の患者のアセスメント 換気障害の分類 検査データの見方 呼吸音の聴取		院内講師
第5回		講義	教室	【呼吸器】呼吸機能障害がある患者の看護(COPD)グループワーク 在宅酸素療法 呼吸リハビリテーション 自己管理への援助		院内講師
第6回		講義	教室	【呼吸器】気管支喘息患者の看護・肺がん患者(気管支鏡検査を含む) 事例をもとにグループワーク 看護について講義	肺癌について教科書該当ページを熟読し理解してくること	専任教師
第7回		講義	教室	【呼吸器】肺炎患者の看護 病態関連図を基に事例を展開する--- 自己学習後グループワーク	第7回までに教員が指示した事例に沿って肺炎患者の病態関連図作成すること。作成した病態関連図は授業後提出すること。	専任教師
第8回		講義	実習室	【呼吸器】呼吸不全患者の看護 急性呼吸不全 人工呼吸器を装着する患者の看護を学ぶ。 1. 人工呼吸器のメカニズム 2. アセスメント 3. 看護目標 4. 看護活動		院内講師
第9回		講義	教室	【循環器】 患者の特徴・看護の役割・疾病の経過と看護・症状に対する看護	事前課題:講義1週間前に「周術期看護 学習ワークブック」の該当部分を提出すること。	専任教師
第10回		講義	教室	【循環器】 検査と治療を受ける患者の看護 1. 心臓カテーテル法 2. 薬物療法 3. PCI時の看護	事前課題:教科書該当ページを読み、授業に参加すること。	専任教師

第11回		講義	教室	【循環器】手術を受ける患者の看護 1. 冠状動脈バイパス術 2. 弁置換術 3. 大動脈解離 4. 補助循環装置(IABP)		院内講師
第12回		講義	教室	【循環器】疾患を持つ患者の看護 1. 心不全患者の看護について学ぶ 2. 血行動態モニタリング(中心静脈圧)		院内講師
第13回		講義	教室	【循環器】虚血性心疾患患者の看護 1. 狭心症 2. 急性冠症候群 3. 心臓リハビリテーションと看護		専任教師
第14回		講義	教室	【循環器】不整脈のある患者の看護 1. 薬物療法の看護 2. ペースメーカーを装着した患者の看護	事前課題:教科書該当ページを読み、授業に参加すること。	専任教師
第15回		講義 GW	教室	【循環器】急性心筋梗塞患者の看護 急性心筋梗塞の病態関連図を基に、看護についてグループワークを行う	事前課題:急性心筋梗塞患者の病態関連図作成し授業に臨むこと。作成した病態関連図は授業後提出すること	専任教師
【必須文献・参考文献】 医学書院 成人看護学 [2]呼吸器、[3]循環器・経過がみえる疾患別病態関連マップ 学研 メジカルフレンド社 周術期看護 学習ワークブック(事前課題として使用) 他						
【評価の方法】 筆記試験 参加度 事前課題あわせて 100点						
【受講生へのメッセージ】 専門基礎で習った疾病論Ⅰ～Ⅳが成人看護援助論ⅡA～Dに対応した形となっていますので、特に解剖生理学をよく復習して参加して下さい。成人看護学は疾患をもった人の看護展開ができることを目標としています。授業への積極的な参加を期待します。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	成人看護援助論Ⅱ-B 消化器・血液造血器・腎	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 後期			
【科目のねらい】 消化器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。 血液・造血器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。 腎系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	【消化器】医療の動向と看護・患者の特徴・看護の役割・疾患の経過と看護について理解する。	1週間前までに周術期看護 学習ワークブックの該当部分を教員に提出	専任教師
第2回		講義	教室	【消化器】食道がん患者(放射線療法)の看護 嚥下(通過)障害のある患者の看護 術前の準備(上部消化管造影・内視鏡検査時の看護) 術後合併症予防への看護―事例をもとにグループワーク	食道がんの疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること	専任教師
第3回		講義	教室	【消化器】胃がん患者の看護―事例をもとにグループワーク 吐下血時の看護 ダンピング症候群・胃切除症候群の病態に基づいた看護を理解する	胃がんの疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること。とくにダンピング症候群については理解しておくこと。	専任教師
第4回		演習	実習室	【消化器】シミュレーション(指導の場面) ダンピング症状を訴える胃切除後の患者への指導 行動変容を促すような関りを考える。	事前課題: 事例を提示しますので、行動変容を促す患者への指導についてまとめ、事前に提出。当日は実習服を着用し参加すること	専任教師
第5回		講義 GW	教室	【消化器】大腸がん患者の看護・イレウス患者の看護 イレウスチューブ挿入中の患者の看護 再発予防への看護 ―事例をもとにグループワーク	大腸がんの疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること。イレウスチューブについて理解しておくこと。	専任教師
第6回		講義	教室	【消化器】大腸がん患者の看護 ストーマ造設術を受ける患者の看護(術前準備/ストーマセルフケア指導)		院内講師
第7回		講義	教室	【消化器】肝硬変患者の看護―事例をもとにグループワーク 代償期・非代償期の看護問題への介入方法 食道静脈瘤のある患者への看護 肝性脳症患者の看護	肝硬変の疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること。食道静脈瘤の病態について理解しておくこと。	専任教師
第8回		講義	教室	【消化器】膵臓がん患者の看護 ―事例をもとにグループワーク 閉塞性黄疸のある患者の看護 胆汁ドレナジを受ける患者の看護	膵臓がんの疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること。閉塞性黄疸について、病態を理解しておくこと。	専任教師
第9回		講義	教室	【消化器】胆石症患者の看護 病態関連図を基に事例を展開する―自己学習後グループワーク―	第9回までに教員が指示した事例に沿って胆石症患者の病態関連図を作成すること。作成した病態関連図は授業後に提出。	専任教師

第10回		講義	教室	【血液・造血器】医療の動向と看護・患者の特徴・看護の役割・疾患の経過と看護について理解する。	事前課題:血液・造血器について解剖生理学についてレポートにまとめ提出する	専任教師
第11回		講義	教室	【血液・造血器】主要症状を有する患者の看護 貧血のある患者の看護 出血傾向のある患者の看護		専任教師
第12回		講義	教室	【血液・造血器】造血器腫瘍患者の看護 ・白血病患者の看護・がん化学療法看護 AML病態関連図を基に、事例を用いてグループワーク	事前課題:AMLの病態関連図を作成し、授業に臨むこと。作成した病態関連図は授業後に提出。	専任教師
第13回		講義	教室	【血液・造血器】悪性リンパ腫患者の看護・造血幹細胞移植を受ける患者の看護 (放射線療法を受ける患者の看護を含む) 事例をもとにグループワーク	事前課題:悪性リンパ腫・造血幹細胞移植、放射線療法について教科書該当ページを読むこと	専任教師
第14回		講義	教室	【腎疾患】医療の動向と看護・患者の特徴・看護の役割・疾患の経過と看護について理解する。	事前課題:腎臓の解剖生理についてレポートにまとめ提出する。	専任教師
第15回		講義	教室	【腎疾患】疾患をもつ患者の看護 急性腎不全患者の看護 事例をもとにグループワーク	事前課題:急性腎不全について教科書該当ページを読むこと。	専任教師

【必須文献・参考文献】

医学書院 成人看護学 [4]血液・造血器、[8]腎・泌尿器、[4]消化器

経過がみえる疾患別病態関連マップ 学研メジカルフレンド社 周術期看護 学習ワークブック(事前課題として使用) 他

【評価の方法】

参加度 事前課題・レポート 筆記試験 合わせて 100点

【受講生へのメッセージ】専門基礎で習った疾病論Ⅰ～Ⅳが成人看護援助論ⅡA～Dに対応した形となっていますので、特に解剖生理学をよく復習して参加して下さい。成人看護学は疾患をもった人の看護展開ができることを目標としています。授業への積極的な参加を期待します。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	成人看護援助論Ⅱ-C 脳神経・内分泌代謝・感染症 アレルギー・膠原病	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 後期

【科目のねらい】

脳・神経系の健康障害をもった成人期の対象の問題のために必要な臨床判断能力を養う。内分泌系・代謝系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。感染症の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。アレルギー・膠原病系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	【脳・神経】 医療の動向と看護 ①脳神経疾患領域の看護に関わってくる一般的な問題や課題を学ぶ。②脳神経疾患で生じる身体的、心理的、社会的な問題点とその特徴の概要を学ぶ③脳神経疾患患者のたどる一般的な経過と問題点について学ぶ。	第1回の1週間前に周術期看護学習ワークブックの該当部分を教員に提出する	専任教師
第2回		講義	実習室	【脳・神経】 脳神経系疾患を持つ患者のアセスメント 意識レベルの判定 運動麻痺の判定 言語障害の有無の判定 高次脳機能障害の判定 頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護	左記項目の教科書該当ページを読んでおくこと	専任教師
第3回		講義 GW	教室	【脳・神経】脳血管障害患者の看護	脳梗塞、脳出血の疾患と看護について、教科書の該当ページを熟読しておくこと	専任教師
第4回		講義 GW	教室	【脳・神経】 パーキンソン病患者の看護 ―事例をもとにグループワーク― ①ホーンヤールの重症度分類がⅢ・Ⅳの場合 ②ホーンヤールの重症度分類がⅤの場合	パーキンソン病の疾患と看護について、教科書の該当ページを熟読しておくこと	専任教師
第5回		講義 GW	教室	【脳・神経】脳梗塞患者の看護 病態関連図を基に看護を展開する―自己学習後、グループワーク	第5回までに教員が指示した事例に沿って脳梗塞患者の病態関連図を作成すること。作成した病態関連図は授業後に提出。	専任教師
第6回		講義	教室	【内分泌・代謝】 医療の動向と看護 内分泌・代謝疾患で生じる身体的、心理的、社会的問題と看護の特徴を学ぶ（甲状腺機能亢進症・クッシング症候群など）	事前課題：周術期看護 学習ワークブックの該当部分を提出。	専任教師
第7回		講義 GW	教室	【内分泌】 内分泌疾患患者の看護を理解する。 ・甲状腺機能亢進症の患者の看護 ・クッシング症候群患者の看護 事例をもとにグループワーク	事前課題：甲状腺機能亢進症、クッシング症候群について教科書の該当ページを読んでおくこと。	専任教師
第8回		講義	教室	【膠原病】膠原病の医療の動向を学ぶ ①患者の特徴について身体的・心理的・社会的な問題を理解する。②疾患各病気の特徴と看護について学習する。 疾患を持つ患者の看護を理解する ・全身性エリテマトーデス ①アセスメント②看護目標③看護活動	事前課題：全身性エリテマトーデスについて、教科書の該当ページを読んでおくこと。	専任教師

第9回	講義	教室	【代謝】 代謝性疾患患者の看護を理解する。 ・糖尿病患者の身体的、社会的、心理的な特徴とその看護を学ぶ。 * 自己血糖測定の実験		院内講師
第10回	講義 演習	実習室	【代謝】 糖尿病患者の看護を学ぶ。自己管理にむけた指導を中心に考える。 * 自己注射注射の実技と指導について学ぶ	実習服に着替えて参加すること。	院内講師
第11回	講義	教室	【感染症】 看護を取り巻く感染症の問題(手指衛生の実施含む)	実習服に着替えて参加すること。 個人用手指衛生、ゴーグルを持参すること。	院内講師
第12回	講義 演習	教室	【感染症】院内感染予防対策 感染防御・スタンダードプリコーション・マキシマルバリアプリコーション・職業感染対策	実習服に着替えて参加すること。 個人用手指衛生、ゴーグルを持参すること。	院内講師
第13回	講義	教室	【感染症】HIV感染患者の看護 病期別看護問題への介入方法 日和見感染症の予防(MRSA・ESBL)		院内講師
第14回	講義	教室	【アレルギー】 アレルギー疾患の医療の動向と看護 アナフィラキシーショック患者の看護	事前課題: アナフィラキシーショック患者の看護について教科書の該当ページを読んでくること	専任教師 学外講師
第15回	演習	実習室	【アレルギー】 アナフィラキシーショック患者の看護 シミュレーション	実習服を着用し参加すること	専任教師

【必須文献・参考文献】
医学書院 成人看護学 [7]脳・神経、[6]内分泌・代謝、[11]アレルギー・膠原病感染症
経過がみえる疾患別病態関連マップ 学研 メジカルフレンド社 周術期看護 学習ワークブック(事前課題として使用)

【評価の方法】
参加度 事前課題・レポート 筆記試験 合わせて100点

【受講生へのメッセージ】専門基礎で習った疾病論Ⅰ～Ⅳが成人看護援助論ⅡA～Dに対応した形となっていますので、特に解剖生理学をよく復習して参加して下さい。成人看護学は疾患をもった人の看護展開ができることを目標としています。授業への積極的な参加を期待します。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり
【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	成人看護援助論Ⅱ-D 運動器・皮膚・眼・耳鼻・女性生殖器・泌尿器		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 後期		
【科目のねらい】 運動器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。皮膚系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。眼疾患・耳鼻疾患系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。女性生殖器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。泌尿器系の健康障害をもった成人期の対象の問題解決のために必要な臨床判断能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	【運動器】運動器疾患をもつ患者の看護 脊髄損傷患者の看護	脊髄損傷の疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること	専任教師
第2回		講義・演習	教室	【運動器】大腿骨頸部骨折患者・保存療法を受ける患者の看護を理解し実施できる。 【演習:松葉杖の使用】観察・看護ケアのポイントを理解する。	大腿骨頸部骨折の疾患と看護について教科書該当ページを読んでくること 松葉杖使用について教科書該当ページを読んでくること	専任教師
第3回		講義GW	教室	【運動器】運動器疾患をもつ患者の看護を理解する。 事例展開 大腿骨頸部骨折患者の看護 ---グループワーク---	第3回までに教員が指示した事例に沿って大腿骨頸部骨折患者の病態関連図を作成すること。作成した病態関連図は授業後に提出。	専任教師
第4回		講義	教室	【眼】視力障害のある患者の看護 網膜剥離患者の看護(術前・術後の看護) 点眼指導 【耳鼻】聴覚・平衡覚の障害と患者の看護 メニエール病患者の看護 患者誘導・介助法	左記内容について教科書該当ページを熟読してくること ※第5回と連動しています。続きコマの場合、実習服を着用すること	専任教師
第5回		演習	実習室	【眼・耳鼻】 視覚障害患者の感覚について体験を通して看護の方法について学ぶ	実習服を着用して参加すること	専任教師 学外講師
第6回		講義	教室	【女性生殖器】 女性生殖器疾患のもたらす身体的・心理的・社会的問題疾患をもつ患者の看護 性器出血患者の看護 内診時の看護		院内講師
第7回		講義	教室	【女性生殖器】子宮頸癌患者の看護 子宮頸がんの予防方法 広汎子宮全摘術を受ける患者の看護		院内講師
第8回		講義	教室	【女性生殖器】乳がん患者の看護(身体的、心理的、社会的な問題と看護)乳房切除術を受ける患者の看護 ボディイメージの変容 患側上肢のリハビリテーション		院内講師
第9回		講義	教室	【女性生殖器】乳がん患者の看護 乳がん患者の術後の日常生活指導 リンパ浮腫への対応		院内講師
第10回		講義	教室	【腎・泌尿器】 疾患をもつ患者の看護 慢性腎臓病・慢性腎不全患者の看護 慢性腎不全の病態関連図を基に事例を用いてグループワーク	事前課題:慢性腎不全の病態関連図を作成し授業に臨むこと。作成した病態関連図は授業後提出。	専任教師
第11回		講義GW	教室	【腎・泌尿器】 透析療法を受ける患者の看護(血液透析・腹膜透析) 事例を用いてグループワーク	事前課題:透析療法(血液・腹膜)を受ける患者の看護についてレポートにまとめ、授業に臨むこと。授業後提出。	専任教師

第12回		講義	教室	【泌尿器】 ①泌尿器疾患のもたらす身体的・心理的・社会的問題と看護を理解する。 ②検査を受ける患者の看護を理解する。(膀胱鏡を受ける患者の看護)	事前課題:泌尿器の解剖生理学についてレポートにまとめて提出する。	専任教師
第13回		講義	教室	【泌尿器】 泌尿器疾患の症状・病態に対する看護を理解する。(排尿障害のある患者の看護)前立腺がん患者の看護を学ぶ。		専任教師
第14回		講義	教室	【泌尿器】泌尿器疾患患者の看護について学ぶ ①膀胱がん患者の看護 ②尿路変更術を受ける患者の看護	事前課題:膀胱がん、尿路変向術について教科書の該当ページを読むこと。	専任教師
第15回		講義	教室	難病を持つ患者の看護について学ぶ。 ALSの事例から必要な看護についてグループワーク	事前課題:ALSについて配布資料に取り組み、授業終了後に提出。	専任教師
【必須文献・参考文献】 医学書院 成人看護学[10]運動器、[13]眼、[14]耳鼻咽喉、[9]女性生殖器、[8]腎・泌尿器、[7]脳・神経 経過が分かる疾患別病態関連マップ 学研 メジカルフレンド社 周術期看護 学習ワークブック(事前課題として使用)						
【評価の方法】 参加度 事前課題・レポート 筆記試験 合わせて 100点						
【受講生へのメッセージ】専門基礎で習った疾病論Ⅰ～Ⅳが成人看護援助論ⅡA～Dに対応した形となっていますので、特に解剖生理学をよく復習して参加して下さい。成人看護学は疾患をもった人の看護展開ができることを目標としています。授業への積極的な参加を期待します。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	成人看護学実習 I	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第2学年
【科目のねらい】 慢性・長期的な疾患を有し、完全治癒が望めない状況から、再調整を促す看護の展開ができるための、基礎的能力を養う。急激な健康破綻から回復を促す看護の展開ができるための、基礎的能力を養う。			
実習内容			担当者
【実習目標】 1. 完全治癒が望めない状況にある、あるいは急激な健康破綻状況にある成人期の患者を総合的に理解できる。 2. 疾患を有した患者の健康レベルを査定できる。 3. 治療処置中・直後の生命維持や機能回復のための援助を学ぶ。 4. 疾患を有した患者が安全で安楽に経過し早期に自立するよう、あるいは症状をコントロールし合併症・機能障害を予防する看護の展開ができる。 5. 疾患を有している患者の自己管理の必要性を理解し、保健指導が実践できる。 6. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員として、他職種との連携・協働を学ぶ。成人各期の多様な価値観を認識し、看護者としての態度を学ぶ。 7. 成人各期の対象や多様な価値観を認識し、看護者としての態度を学ぶ。 8. 疾患を有し、完全治癒が望めない状況あるいは急激な健康破綻状況にある患者や家族とのかかわりを通して、看護観を深めることができる。			専任教師
【実習期間】 令和7年8月～令和8年3月の期間に12日間実施する。			
【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院			専任教師
【実習方法】 受け持ち患者を看護過程を用いて、必要な看護を根拠を持って提供する。成人期の患者を受け持つことが望ましいが、老年期の患者であっても治療目的で入院している患者であれば受け持ちの対象と考える。 1～4日目 見学実習(手術室・救急外来・ICU・外来)各1日 5～6日目 情報の把握・アセスメント 7日目 関連図作成・問題点の明確化・看護目標、中間面接 8～12日目 看護計画立案・計画実施・評価 12日目 最終面接 ・患者さんと関わり、疑問や患者理解のためのアセスメントや患者にあった看護を考えるための学習時間を前半、後半の半日づつ設けています。効果的に活用して学びの多い実習にしましょう。 ・実習前に術後観察と早期離床のシミュレーション、ガウンテクニックの実技のチェックを実施し、実習に臨みます。 ・周手術期の術前看護・術中看護・術後合併症予防と発症時の看護をしっかり復習してきましょう。 ・セルフマネジメント・行動変容・継続看護について復習し、実習に臨みましょう			
【実習記録】 1)受け持ち患者記録 2)毎日の記録(見学実習を含む) 3)基礎看護技術経験録 4)課題レポート 5)疾患看護自己学習資料 <詳細について、「石巻赤十字看護専門学校臨地実習要綱」を参照すること>			専任教師
【事前課題】 成人 I 実習オリエンテーションで詳細を説明します。			
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 成人看護学シリーズ 医学書院系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学シリーズ、メイカ出版 成人看護学実習ワークブック その他の参考文献については、実習中適宜提示していきます。			
【評価の方法】 成人看護学実習評価表(ルーブリック評価表)に基づいて、記録・レポート・カンファレンス・出席率・参加度 100点 自己の目標をもって実習を行う。			
【事前課題】 成人看護学実習全体オリエンテーションでお知らせします。計画的に課題に取り組みましょう。			
【受講生へのメッセージ】 成人看護学実習 I は、急性あるいは慢性疾患を抱える患者さんが完全治癒が望めない状況からの再調整を促す看護ができるための基礎的能力を養うという目標の元実際の患者さんへの理論の適応やそれによる行動変容までのプロセスについて考えてもらいたいと考えています。見学実習もあるので、体調管理に注意して12日間頑張りましょう。			

授業科目	成人看護学実習Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第3学年
【科目のねらい】 人生最期のときを支える看護の展開ができるための、基礎能力を養う。			
実習内容			担当者
<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の患者を総合的に理解できる。 2. 患者の健康レベルが査定できる。 3. 対象に応じた、症状緩和のための看護ができる。 4. 対象に応じた看護が理解できる。 5. 継続看護の必要性を理解し、他職種との連携・協働を学ぶ。 6. 成人各期の多様な価値観を認識し、看護者としての態度を学ぶ。 7. 全人的な苦痛がある成人期の患者や家族とのかかわりを通して、看護観を養う。 <p>【実習期間】 令和7年5月～11月の期間に12日間実施する。</p> <p>【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院</p> <p>【実習方法】 受け持ち患者を看護過程を用いて、必要な看護を根拠を持って提供する。(重症急性期や慢性期の受け持ち患者でもよい。) 全人的苦痛にある患者を受け持つことが難しい場合などは、ケア場面の見学をし文献やカンファレンスなどで深める。 病棟カンファレンス後、学生が主体的に看護実践を行うことで看護に対する責任感を養う。</p> <p>1～3日目 情報の把握・アセスメント 4日目 関連図作成 5日目 問題点の明確化 6日目 看護目標・受け持ち期間中の目標・中間目標設定、中間面接 7日目 看護計画立案 8日目～ 計画実施・評価 11日目 最終ケースカンファレンス(午前または午後) 12日目 最終面接</p> <p>・3日目と7日目の午後は帰校日とし、受け持ち患者の看護過程に必要な文献の検索やカンファレンスの準備などを行う。11日目の午前または午後は学内にて実習の受け持ち患者について最終ケースカンファレンスを実施し、学びの共有をする。事前に発表の資料を準備する。印刷については、成人看護学担当教師が行う。 ・全人的苦痛、疼痛のアセスメントと看護、WHOの疼痛治療の目標・5原則を復習して、実習に臨むと効果的です。</p> <p>【実習記録】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)受け持ち患者記録 2)毎日の記録 3)基礎看護技術経験録 4)課題レポート 5)事前学習資料 <p><詳細について、「石巻赤十字看護専門学校臨地実習要綱」を参照すること> ※学内実習に切り替わる可能性もある ※個人情報の取り扱いについて、留意しながら実習をすすめること</p> <p>【事前課題】 成人Ⅱ実習オリエンテーションで詳細を説明します。</p>			専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 成人看護学シリーズ メジカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学 循環器・呼吸器・消化器 医学書院系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学シリーズ その他の参考文献については、実習中適宜提示していきます。			
【評価の方法】 成人看護学実習評価表に基づいて、記録・レポート・カンファレンス・出席率・参加度を多面的に評価する 100点			
【受講生へのメッセージ】 成人看護学実習Ⅱでは、全人的苦痛のある患者を受け持ち患者として選定しています。苦痛症状のある患者の症状マネジメントやがん患者さんから、成人期において苦痛を抱えて生きるといったことはどういう意味をもつのかを考えてほしいと思います。体調管理をしっかりして、12日間頑張りましょう。			

授業科目	老年看護概論	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】老年期にある対象の特徴と多様な生活の場における看護を理解し、高齢者看護の基本を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	1. 高齢者の理解 1) 高齢者とは 2) 高齢者の特徴と理解 ・老年期をライフサイクルの流れの中でとらえ、高齢者に関する統計的特徴と身体・精神・社会的特徴について概要を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第2回		講義	教室	2) 高齢者の特徴と理解 3) 高齢者にとっての健康 4) 高齢者とQOL ・高齢者の健康目標と健康状態のアセスメント方法、高齢者のQOLについて学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第3回		講義	教室	5) 加齢に伴う変化 ・加齢に伴う変化が高齢者の生活に与える影響について学ぶ。 2. 高齢者を取り巻く社会 1) 高齢者の生活と家族 ・高齢者と家族を取り巻く状況や課題について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第4回		講義	教室	2. 高齢者を取り巻く社会 2) 高齢者を支える制度 3) 高齢者を支える社会資源 ・高齢者を支える制度(介護保険制度を含む)や社会資源について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第5回		講義	教室	4) 高齢者看護における倫理 ・高齢者看護における倫理を学ぶ。 3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 高齢者が生活する場 2) 地域包括ケア ・高齢者を支える地域包括ケアシステムについて学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第6回		講義	教室	3) 在宅 4) 介護保険施設 5) 地域密着型サービス 6) デイサービス・デイケア 7) 高齢者の家族への支援 8) 高齢者看護における多職種連携 ・各施設等の役割・法律・サービスの種類・ケアのポイント・看護師の役割と多職種連携を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
第7回		講義	教室	4. 高齢者看護の基本 1) 高齢者看護の特性 2) 高齢者看護に関わる諸理論 3) 加齢に伴う身体的変化 ・高齢者を看護する専門職に必要な態度を学び、高齢者や家族のもつ能力や強みから対象の看護を考える。・加齢に伴う身体的変化を学ぶ。・高齢者看護に関わる諸理論を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む。	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験=100点 出席状況・参加度						
【受講生へのメッセージ】 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と加齢が高齢者の特徴や疾患に及ぼす影響を学びましょう。また、高齢者を取り巻く状況や高齢者を支える制度・社会資源を学び、高齢者が生活する場を広い視野でとらえ、高齢者理解につなげていきましょう。さらに、高齢者看護における看護師の役割・態度について具体的に考え、自身の「老年観」を考える機会としてください。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	老年看護援助論Ⅰ		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 老年期にある対象の健康障害や生活機能障害について理解し、疾病の予防と安全、高齢者個々の自立を考慮した生活を支える看護について学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<テキスト①> 4. 高齢者看護の基本 4) 高齢者に対するフィジカルアセスメント 5) 高齢者によくみられる疾患	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第2回		講義	教室	6) 高齢者看護におけるチームアプローチ 7) 高齢者のリスクマネジメント	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第3回		講義	教室	<テキスト①> 5. 高齢者のヘルスプロモーション 1) 高齢者の健康増進 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防 4) 認知症予防 5) 健康増進プログラム参加者の事例	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第4回		講義	教室	6. 生活を支える看護 1) コミュニケーション 2) 食生活 3) セクシュアリティ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第5回		講義	教室	4) 住まい 5) 社会参加	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第6回		演習	教室	7. 高齢者理解のための実習 2) 高齢者疑似体験 ・高齢者の外観の変化の疑似体験	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第7回		講義	教室	<テキスト②> 1. 高齢者の生活を支える看護 1) 食生活を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第8回		講義	教室	2) 排泄を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第9回		講義	教室	3) 清潔・衣生活を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第10回		講義	教室	4) 活動と休息を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第11回		講義	教室	5) 歩行移動を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第12回		講義	教室	6) 呼吸・循環機能障害を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第13回		講義	教室	認知症高齢者の看護 * 老年看護学実習Ⅰにおける認知症高齢者に対するケアに活かせるよう事例を通して学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第14回		講義	教室	7) その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第15回		講義	教室	7) その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護 ・アセスメントと支援のポイントを学ぶ	教科書の講義範囲を読む	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害(メディカ出版) (第1回～第6回) ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版) (第7回～第15回)						
【評価の方法】 筆記試験＝100点 出席状況・参加度						
【受講生へのメッセージ】 高齢者の特徴を考えながら、生活を支える看護と疾患・障害に対する看護について学習していきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目		老年看護援助論Ⅱ		担当者	専任教師	
単位数(時間)		1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期	
【科目のねらい】 老年期にある健康障害、生活機能障害をもつ対象と家族に対し、経過や状態、生活の場に応じた看護を学び、看護実践能力の基盤となる基礎的能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<テキスト②> 2. 認知症・うつ病・せん妄の看護 1) 認知症 ・認知症の原因疾患と特徴を学ぶ。 ・認知高齢者と家族に対する看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第2回		講義	教室	2. 認知症・うつ病・せん妄の看護 1) 認知症 ・認知症の原因疾患と特徴を学ぶ。 ・認知高齢者と家族に対する看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第3回		講義	教室	2) うつ病 3) せん妄 ・高齢者におけるうつ病のアセスメント、看護を学ぶ。 ・高齢者におけるせん妄の予防対策、アセスメント、看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第4回		講義	教室	3. 治療を受ける高齢者の看護 1) 薬物療法 2) 手術療法 ・高齢者の薬物療法、手術療法とその看護について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第5回		講義	教室	3) リハビリテーション 4) 診察・検査 ・高齢者のリハビリテーション、診察・検査とその看護について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第6回		講義	教室	5) 入院 6) 退院 ・高齢者の入院・退院時の看護について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第7回		演習	実習室1	7) 行動制限 ・行動制限の要件・リスクや弊害とその看護について学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	老人看護専門 看護師
第8回		講義	教室	7. 高齢者看護の実習 1) 高齢者看護実習の基本 ・高齢者看護の概要を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第9回		講義	教室	2) 慢性期看護実習 ・慢性疾患をもつ高齢者と家族への看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第10回		講義	教室	4) 急性期看護実習 ・急性期にある高齢者と家族への看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第11回		講義	教室	6) 特別養護老人ホーム実習 ・特別養護老人ホームにおけるケアと看護師の役割を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第12回		講義	教室	7) リハビリテーション看護実習 ・リハビリテーションを必要とする高齢者と家族への看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第13回		講義	教室	3) 周術期看護実習 ・周術期にある高齢者と家族への看護を学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第14回		演習	教室・ 演習 室・図 書室・1 T室	8) グループホーム(認知症対応型共同生活介護)実習 ・グループホームで暮らす認知症高齢者と家族へのケア、看護師の 役割をグループワークを通して学ぶ。	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第15回		演習	教室	8) グループホーム(認知症対応型共同生活介護)実習 ・発表	教科書の講義範囲を読む	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験＝90点(渡邊40点＋依頼講師50点) 個人・グループワーク＝10点(渡邊) * 第8回～第15回は個人ワーク・グループワークがあります。欠席時減点(1コマ欠席＝1点減点、遅刻・早退・公欠含まない) 筆記試験・個人ワーク・グループワーク合計＝100点 出席状況・参加度						
【受講生へのメッセージ】 認知症・せん妄・行動制限について、疾患・病態・看護を学び、自分の考えを広げていきましょう。 高齢者の特徴と健康障害を関連させながら、事例を通して具体的な看護を学び、老年看護学実習のイメージ化をはかりましょう。 演習を取り入れながら講義を進めていきます。積極的に取り組みましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	老年看護援助論Ⅲ		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 後期		
【科目のねらい】 高齢者の加齢や疾患の特徴を踏まえた災害時の看護について学ぶ。 終末期にある高齢者とその家族のQOL向上に向けた看護について学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<テキスト②> 4. 終末期の看護 1) 高齢者の死と医療・ケア	教科書の講義範囲を読む	専任教師
第2回		講義 演習	教室	2) 終末期看護の実践	必要時、講義時間内に提示する	専任教師
第3回		講義	教室	3) 看取りを終えた家族への看護 4) 看取りを終えたスタッフへのケア	必要時、講義時間内に提示する	専任教師
第4回		講義	教室	<テキスト①> 8. 災害時の高齢者看護	必要時、講義時間内に提示する	専任教師
第5回		講義	教室	事例設定看護過程演習オリエンテーション ・疾病・障害をもつ高齢者の看護過程を展開し、高齢者に必要な看護を学ぶ	必要時、講義時間内に提示する	専任教師
第6回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	事例設定看護過程演習 アセスメント	演習課題に取り組む	専任教師
第7回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	アセスメント	演習課題に取り組む	専任教師
第8回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	アセスメント	演習課題に取り組む	専任教師
第9回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	アセスメント	演習課題に取り組む	専任教師
第10回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	グループワーク(問題点の明確化、看護目標立案)	グループワーク課題に取り組む	専任教師
第11回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	グループワーク(具体策立案)	グループワーク課題に取り組む	専任教師
第12回		看護過程演習	教室・図書・IT室・演習室	グループワーク(具体策立案)	グループワーク課題に取り組む	専任教師
第13回		看護過程演習	実習室2	発表練習 ・具体策を実施しながら看護計画の修正等を行う	グループワーク課題に取り組む	専任教師
第14回		シミュレーション	実習室2	具体策発表 ・具体策を発表する	グループワーク課題に取り組む	専任教師
第15回		看護過程演習	教室・IT室	看護過程演習のまとめ(追加・修正等)	グループワーク課題に取り組む	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害(メディカ出版) (第4回) ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版) (第1回～第3回)(第5回～第15回)						
【評価の方法】 筆記試験(60点)・事例設定看護過程演習(40点)＝合計 100点 *看護過程演習のグループワーク欠席時、1時間欠席ごとに1点減点とする(1コマ欠席＝2点減点)。遅刻・早退・公欠は含まない。 *看護過程演習のスケジュールは、演習開始時の講義内で説明する。 出席状況・参加度						
【受講生へのメッセージ】 ・高齢者の終末期における意思決定や尊厳について、家族を含めて考えていきましょう。また、災害時の高齢者支援について、高齢者の特徴を踏まえて学んでいきましょう。 ・認知症高齢者の看護について事例を通して学んでいきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	老年看護学実習 I	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(45時間)	講義時期	第2学年
【科目のねらい】 高齢者の身体・心理・社会的な特徴と健康障害の特徴を学び、それらが生活機能にどのように影響しているかを理解する。さらに、多様な生活の場における高齢者に対して、生活者という広い視野で看護を考え実践することができ、多職種との連携・協働についても理解することができる。			
実習内容			担当者
【実習目標】 1. 高齢者の特徴が生活機能にどのように影響しているのか理解することができる。 2. 多様な生活の場における生活者である高齢者に対する看護を考え実施できる。 3. 高齢者とのコミュニケーションを通じて、自己の老年観を深めることができる。 4. 老年期にある人が活用できるサービスの実際を体験し、多職種との連携・協働について理解することができる。			専任教師
【実習期間】 2025年8・9・11月、2026年1・2・3月の期間に6日間実施する。(学内実習日を含む)			
【実習施設・病棟】 ・施設:グループホーム(ぐらんす、ひかり、ほんわか) 小規模多機能型居宅介護支援施設(ぴかぴか、ぶらいと、きらきら、てるてる、そよかぜ) 社会福祉協議会			
【実習方法・スケジュール】 1日目:施設実習(小規模多機能型居宅介護支援施設またはグループホーム) 2日目:施設実習(同上) 3日目:施設実習(同上) 4日目:施設実習(社会福祉協議会) 実習日以外で一斉講義を聴講する。 5日目:学内実習(施設実習での学びのまとめ) 6日目:学内実習(施設実習での学びの発表、老年観のまとめ、反省会、評価面接)			
【実習記録】 ・老年実習 I 毎日の記録 ・老年施設実習の学びのまとめ(抄録) ・老年実習 I 学びのレポート、老年観レポート ・看護技術経験チェック表			
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ①高齢者の健康と障害 ②高齢者看護の実践 (メディカ出版) 事前課題: DVD視聴(内容は老年実習オリエンテーションで説明する)、視聴後、学びをリフレクションシートに記載し提出する			
【評価の方法】 老年看護学実習評価表 I に基づく			

授業科目	老年看護学実習Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	3年次 前期
<p>【科目のねらい】健康障害を抱えた高齢者が、様々な健康レベル(終末期を含む)において、個々の強みを活かし、その人らしく生きることができるよう、家族を含め看護する能力を養う。さらに、高齢者の療養の場における多職種との連携・協働を通じて、看護師の役割を学ぶ。</p>			
実習内容			担当者
<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康障害や健康レベルに合わせ、対象の強みを活かした看護を考え実践する。 2. 高齢者の生活に着目し、その人らしく生きるとはどのようなことか考察する。 3. 多職種との連携・協働を通じて、老年看護における看護師の役割を理解する。 <p>【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院 4階東病棟・5階西病棟・6階西病棟</p> <p>【実習期間】 2025年5・6・9・10・12月 の期間に12日間実施する。</p> <p>【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院:</p> <p>【実習方法・スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者を中心に看護過程を展開し、実習を進める。(対象は、65歳以上の高齢者とする) ・詳細は、「石巻赤十字看護専門学校臨地実習要綱」を参照する。 <p>1～3日目:情報収集・アセスメント 4日目:関連図作成 5日目:問題点の明確化 6日目:長期目標、短期目標の立案 7日目:病棟カンファレンス(看護問題の妥当性検討、看護目標の方向性の一致)、中間面接 8～11日目:具体策立案、具体策実施・評価、学生カンファレンス(実施・評価について) 12日目:反省会、評価面接</p> <p>【実習記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者記録 ・毎日の記録 ・看護技術経験チェック表 			専任教師
<p>【必須文献・参考文献】ナーシンググラフィカ①高齢者の健康と障害 ②高齢者看護の実践</p>			
<p>【評価の方法】 老年看護学実習評価表Ⅱに基づく</p>			

授業科目	小児看護概論	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第1学年 後期			
【科目のねらい】 現代の子どもと家族の特徴や取り巻く社会、小児各期における対象の特徴を理解し、健康増進・疾病予防を含む小児看護の必要性を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<小児看護学で用いられる概念と理論> 1)小児看護とは 2)小児看護の歴史と意義 3)子どもの権利と看護	教科書(小児の発達と看護) P.16～37読んでくる。	専任教師
第2回		講義	教室	<小児看護学で用いられる概念と理論> 4)小児看護と法律・施策	教科書(小児の発達と看護) P.38～61読んでくる。	専任教師
第3回		講義	教室	<小児看護学で用いられる概念と理論> 5)小児看護で用いられる理論	教科書(小児の発達と看護) P.62～78読んでくる。	専任教師
第4回		講義	教室	<子どもの成長・発達と看護> 1)成長・発達の原則 2)乳児期の子どもの成長・発達と看護	教科書(小児の発達と看護) P.82～106読んでくる。 P.91関連動画を視聴する。	専任教師
第5回		講義	教室	<子どもの成長・発達と看護> 3)幼児期の子どもの成長・発達と看護	教科書(小児の発達と看護) P.106～142読んでくる。 P.113関連動画を視聴する。	専任教師
第6回		講義	教室	<子どもの成長・発達と看護> 4)学童期の子どもの成長・発達と看護	教科書(小児の発達と看護) P.143～160読んでくる。	専任教師
第7回		講義	教室	<子どもの成長・発達と看護> 5)思春期の人々の成長・発達と看護 6)発育の評価	教科書(小児の発達と看護) P.161～187読んでくる。	専任教師
第8回		試験	教室			専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (MCメディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験・授業参加度…100点						
【受講生へのメッセージ】 小児看護学を理解するための導入となる科目です。 小児看護の理念や子どもの権利、また子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療の現状を理解し、小児看護で用いられる理論や子どもの成長・発達について学んでいきましょう。子どもとその家族を理解することにより、子どもと家族の発達課題、成長・発達を支援する看護を実践するための基礎知識を学びましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	小児看護援助論 I	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位 (30時間)	講義時期	第2学年 前期			
【科目のねらい】 こどもの基本的特性をおさえながら、健康上の問題をもつ小児・家族の特徴と対象の健康上の問題に応じた接し方、適切なケアの方法など必要な基礎的看護技術を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護> 1) 子どもの病気の理解 2) 子どものプレパレーション 3) 健康障害に伴う子どものストレスと対処 4) 子どものストレス対処への支援 5) 子どもの健康障害に伴う家族のストレス 6) 病気の子どもの家族のストレス対処に対する援助	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。P.207の動画を視聴してくる。	専任教師
第2回		講義	教室	<急性期にある子どもと家族への看護> 1) 発熱時のアセスメントと看護 2) 脱水時のアセスメントと看護 3) 嘔吐・下痢時のアセスメントと看護	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第3回		講義	教室	<急性期にある子どもと家族への看護> 1) けいれん時のアセスメントと看護 2) 呼吸困難時のアセスメントと看護	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第4回		講義	教室	<慢性期にある子どもと家族への看護> 1) 慢性期の特徴 2) 慢性期にある子どもと家族の看護 3) 慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する看護	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第5回		講義	教室	<終末期にある子どもと家族への看護> 1) 子どもの死の概念 2) 終末期にある子どもと家族の心理 3) 終末期にある子どもと家族への援助	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第6回		講義 演習	実習室	<検査や処置を受ける子どもと家族への看護> 1) 子どもへの説明と同意 2) 子どもの安全・安楽の援助 3) 子どもの力を引き出す援助 4) 採血 5) 採尿	教科書(小児の発達と看護)(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.275の動画を視聴してくる。	専任教師
第7回		演習	実習室	<症状・生体機能の管理技術> 1) 検体採取(骨髄・腰椎穿刺) 2) 身体計測	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.241の動画を視聴してくる。	専任教師
第8回		演習	実習室	<症状・生体機能の管理技術> 1) バイタルサインの測定 * モデル人形を用いて、小児のバイタルサイン測定の技術を習得する。	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.207、219の動画を視聴してくる。	専任教師
第9回		講義	教室	<手術を受ける子どもと家族への看護> 1) 手術を受ける子どもの特徴 2) 手術を受ける子どもの術前看護 3) 手術を受ける子どもの術後看護 4) 手術を受ける子どもの家族への看護	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師

第10回	講義	教室	<外来における子どもと家族への看護> 1) 外来看護の果たす役割 2) 小児外来の環境調整 3) 外来における子どもと家族への援助 <災害を受けた子どもと家族への看護> 1) 災害と災害看護 2) 災害を受けた子どもの心と身体への影響 3) 災害時の子どもと家族への看護 4) 子どもや家族を看護する者への支援	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第11回	講義	教室	<在宅における子どもと家族への看護> 1) 小児在宅医療の意義 2) 小児在宅ケアの現状 3) 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 4) 在宅療養を行う子どもと家族への看護	教科書(小児の発達と看護)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第12回	演習	実習室	<食事・排泄の援助> 1) 授乳 2) おむつ交換	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.97の動画を視聴してくる。	専任教師
第13回	講義 演習	実習室	<与薬の技術> 1) 与薬に必要な知識 2) 経口薬 3) 輸液管理	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.162の動画を視聴してくる。	専任教師
第14回	演習	実習室	<発達段階に応じた環境づくり> <処置やケアへの遊びの活用> 1) 遊びの環境 2) 学習の環境	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第15回	演習	実習室	<救急救命の技術> 1) 救急蘇生法の実際(一次救命処置)	教科書(小児看護技術)の講義範囲を読んでくる。P.179の動画を視聴してくる。	専任教師

【必須文献・参考文献】

ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (MCメディカ出版)
 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (MCメディカ出版)

【評価の方法】

筆記試験、授業参加度…100点

【受講生へのメッセージ】

子どもとその家族を看護するためには、小児看護特有の知識や技術が必要です。多様な看護場面を考えながら、あらゆる健康レベルの子どもとその家族を看護していく基礎を学習していきます。他の看護学領域において得た学びと比較して、共通点や相違点を探しながら学んでいきましょう。

【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	小児看護援助論Ⅱ		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師(小児科)		
単位数(時間)	1単位 (30時間)		講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 小児領域における疾患及び病態・検査・治療を理解し、臨床判断能力を育むための基礎的知識を習得し、看護に役立てる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	新生児疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.20～60読んでくる。	小児科医師
第2回		講義	教室	先天異常と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.62～86読んでくる。	小児科医師
第3回		講義	教室	代謝疾患と看護 内分泌疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.88～118読んでくる。	小児科医師
第4回		講義	教室	アレルギー疾患と看護 免疫・リウマチ疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.120～146読んでくる。	小児科医師
第5回		講義	教室	感染症と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.148～182読んでくる。	小児科医師
第6回		講義	教室	呼吸器疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.184～196読んでくる。	小児科医師
第7回		講義	教室	循環器疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.198～211読んでくる。	小児科医師
第8回		講義	教室	消化器疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.214～261読んでくる。	小児科医師
第9回		講義	教室	消化器疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.214～261読んでくる。	小児外科医師
第10回		講義	教室	腎・泌尿器・生殖器疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.264～292読んでくる。	小児科医師
第11回		講義	教室	血液疾患と看護 腫瘍性疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.294～321読んでくる。	小児科医師
第12回		講義	教室	神経系疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.324～355読んでくる。	小児科医師
第13回		講義	教室	神経発達症・心身医学的問題と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.378～402読んでくる。	小児科医師
第14回		講義	教室	眼疾患と看護 耳鼻咽喉疾患と看護 皮膚疾患と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.404～467読んでくる。	小児科医師
第15回		講義	教室	運動期疾患と看護 外傷・救急と看護	教科書(小児の疾患と看護) P.358～376、470～489読んでくる。	小児科医師
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 (MCメディカ出版)						
【評価の方法】 筆記試験…100点						
【受講生へのメッセージ】 小児領域における疾患、そして病態・検査・治療について学び、小児看護の役割について考えていきましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で医師としての実務経験あり						

授業科目	小児看護援助論Ⅲ	担当者	専任教師			
単位数(時間)	1単位 (30時間)	講義時期	第2学年 後期			
【科目のねらい】 健康上の問題を持つ小児とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を展開する基礎を学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	<被虐待児と家族への看護> 1) 虐待の定義 2) 虐待が子どもに与える影響 3) 虐待のサイン 4) 被虐待児および家族への看護	教科書(小児の発達と看護) P.320～329読んでくる。	専任教師
第2回		講義	教室	<代謝疾患・内分泌疾患と看護> 1) 1型糖尿病 2) 成長ホルモン分泌不全症低身長症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。 P.97関連動画を視聴する。	専任教師
第3回		講義	教室	<アレルギー疾患と看護> 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第4回		GW	教室 学内	<気管支喘息の事例を用いた看護過程> 1) 全体像、アセスメント、問題点の明確化	第3回 気管支喘息の講義範囲を 復習してくる。	専任教師
第5回		GW	教室 学内	<気管支喘息の事例を用いた看護過程> 2) 看護目標、具体策立案	全体像・アセスメント・問題点の明確 化を指定のファイルに提出する。	専任教師
第6回		GW 演習	教室 実習室	<気管支喘息の事例を用いた看護過程> 3) 具体策	具体策を指定のファイルに提出す る。	専任教師
第7回		演習	実習室	<気管支喘息の事例を用いた看護過程> 4) シミュレーション	シミュレーション実施後の学びを指 定の用紙に記入し提出する。	専任教師
第8回		講義	教室	<新生児疾患と看護> 1) 低出生体重児	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	NICU看護師
第9回		講義	教室	<先天異常と看護> 1) ダウン症候群 2) 口唇口蓋裂	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第10回		講義	教室	<免疫・リウマチ性疾患・感染症と看護> 1) 川崎病 2) 麻疹・風疹・水痘 3) RSウイルス感染症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第11回		講義	教室	<呼吸器疾患・循環器疾患と看護> 1) クループ症候群 2) ファロー四徴症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第12回		講義	教室	<消化器疾患と看護> 1) 腸重積症 2) 胆道閉鎖症 3) 直腸肛門奇形	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第13回		講義	教室	<腎・泌尿器疾患・神経発達症と看護> 1) ネフローゼ症候群 2) 自閉スペクトラム症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第14回		講義	教室	<血液疾患・神経系疾患と看護> 1) 急性リンパ性白血病 2) 二分脊椎症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師
第15回		講義	教室	<運動器疾患・外傷・救急と看護> 1) 上腕骨顆上骨折 2) 誤飲・誤嚥、薬物中毒 3) 熱中症	教科書(小児の疾患と看護) の講義範囲を読んでくる。	専任教師

【必須文献・参考文献】

ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (MCメディカ出版)

ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (MCメディカ出版)

ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 (MCメディカ出版)

【評価の方法】

筆記試験、授業参加度…100点

【受講生へのメッセージ】

これまで学習した知識を活用しながら、健康問題を抱える子どもと家族の看護について学んでいきましょう。
またグループワークでの事例展開は、メンバーと協働しながら患児に必要な看護について考えていきましょう。

【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	小児看護学実習	担当者	専任教師	
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第2学年	
【科目のねらい】 小児の成長発達の特徴と小児の健康上の問題を総合的に理解し、小児とその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。				
実習内容			担当者	
【実習目標】 1 健康な小児の成長・発達を学び、日常生活を通じて乳幼児の保育の実際を理解する。 2 地域で生活する子どもとその家族を支援する取り組みについて理解する。 3 健康障害をもつ小児の成長・発達段階および健康障害の状況に応じた看護を実践する。 4 低出生体重児の看護を理解する。 5 小児科外来の健康保持増進の看護を理解する。 6 健康障害をもつ小児と家族に対する看護師の役割を考察する。			専任教師	
【実習期間】 2025年8月～2026年3月の期間に12日間実施する。				
【実習施設・病棟】 石巻市立保育施設(9施設)、石巻市内子育て支援センター(3施設)、 石巻赤十字病院 北3階病棟 3階西病棟(NICU)、小児科外来				
【実習方法・スケジュール】 ・「石巻赤十字看護専門学校臨地実習要綱」「施設実習要綱」参照。 オリエンテーションで詳細を説明する。				
実習日	1G、2G、3G	4G、5G、6G		
①	情報収集、アセスメント、 問題点の明確化、具体策立案、実 施・評価 5日目に病棟カンファレンス	うち 半日外来、 1日NICUを 含む		施設実習 (保育施設4日間、 子育て支援センター1日間)
②				
③				
④				
⑤				
⑥	施設実習 (保育施設4日間、 子育て支援センター1日間)	情報収集、アセスメント、 問題点の明確化、具体策立案、 実施・評価 5日目に病棟カンファレンス	うち 半日外来、 1日NICUを 含む	
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪⑫	施設実習まとめ・発表、カンファレンス 国家試験対策、反省会、評価面接			
【実習記録】 受持ち患児記録 毎日の記録 看護技術経験録 施設実習記録 実習事前課題 事後課題レポート * 状況により、学内実習に切り替わる場合もある。随時オリエンテーションを実施する。				
【必須文献・参考文献】 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (MCメディカ出版) ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (MCメディカ出版) ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 (MCメディカ出版)				
【評価方法】 小児看護学実習評価表、提出物等により評価する。100点				
【受講生へのメッセージ】 保育施設実習では、子ども本来の姿を観て触れて感じて、成長・発達の理解を深めてほしいです。また子育て支援センター実習では、地域で生活する子どもと家族への支援の実際を学び、社会的背景をふまえた包括的支援の視点を学びましょう。病院実習では、子どもや家族が抱える問題を明らかにし、実践を通して支援のあり方や小児看護の基礎的能力を習得していきましょう。また、子どもの最大の利益とは何か、子どもの安全や尊厳・権利など倫理的側面についても学習を深め、小児看護師の役割を考察していきましょう。				

授業科目	母性看護学概論	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位 (15時間)	講義時期	第1学年 後期

【科目のねらい】

ライフサイクルにおける母性の概念を理解する。母性看護学における、社会の動向と保健・医療・福祉制度について理解する。リプロダクティブヘルスに関する社会問題と倫理的問題について考えることができる。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	オリエンテーション 母性看護の基盤となる概念 セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する概念	教科書を読んでもくる P12～45	専任教師
第2回		講義	教室	セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する統計	教科書を読んでもくる P48～68	専任教師
第3回		講義	教室	セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する法や 施策と支援	教科書を読んでもくる P70～103	専任教師
第4回		講義	教室	リプロダクティブヘルスに関する倫理	教科書を読んでもくる P106～135	専任教師
第5回		講義	教室	性・生殖に関する生理	教科書を読んでもくる P138～163	専任教師
第6回		講義	教室	生殖における健康問題と看護	教科書を読んでもくる P166～216	専任教師
第7回		講義	教室	加齢とホルモンの変化	教科書を読んでもくる P218～245	専任教師
第8回		試験				専任教師
				以上		

【必須文献・参考文献】

必須文献: 中込さと子(2024) ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護

【評価の方法】

筆記試験、講義参加点の合計100点

【受講生へのメッセージ】

母性看護概論では妊娠している女性でなく、女性のライフサイクルを通しての健康と課題、国の取り組みや法律などについて学んでいきます。

【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	母性看護援助論 I		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師(産婦人科)		
単位数(時間)	1単位 (30時間)		講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 周産期の特徴を理解し、周産期の診断・治療について学ぶ。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	生殖に関する臓器、妊娠の成立、胎児の発育、胎児-胎盤系	教科書を読んでもくる * 1 P2~37	産婦人科医
第2回		講義	教室	妊娠に伴う母体変化、母体の生理学的変化	教科書を読んでもくる * 1 P38~45	産婦人科医
第3回		講義	教室	母体と胎児の管理、妊婦健康診査、超音波検査、胎児心拍数モニタリング	教科書を読んでもくる * 1 P46~71	産婦人科医
第4回		講義	教室	高齢妊娠、妊婦の栄養管理 妊娠期の異常 (妊娠悪阻、流産、異所性妊娠、妊娠高血圧症候群、 常位胎盤早期剥離、前置胎盤)	教科書を読んでもくる * 1 P78~135	産婦人科医
第5回		講義	教室	妊娠期の異常 (多胎妊娠、胎児発育不全、血液型不適合妊娠、早産、 切迫早産、過期産)	教科書を読んでもくる * 1 P136~187	産婦人科医
第6回		講義	教室	合併症妊娠 (婦人科疾患、代謝・内分泌疾患、血液疾患、腎泌尿器疾患) 糖代謝異常合併妊娠	教科書を読んでもくる * 1 P188~205	産婦人科医
第7回		講義	教室	母子感染症	教科書を読んでもくる * 1 P206~226	産婦人科医
第8回		講義	教室	出生前診断を受ける妊婦と家族の看護	教科書を読んでもくる * 1 P72~77 * 2 P120~127	遺伝 カウンセラー
第9回		講義	教室	正常分娩 (分娩の3要素、正常分娩の経過、回旋、分娩の評価)	教科書を読んでもくる * 1 P228~261	産婦人科医
第10回		講義	教室	分娩の異常 (陣痛の異常、産道の異常、胎勢の異常、回旋の異常、 胎位の異常、進入の異常、臍帯の異常、分娩時大量出血)	教科書を読んでもくる * 1 P264~341	産婦人科医
第11回		講義	教室	分娩の介助と緊急時の対応	教科書を読んでもくる * 1 P342~364	産婦人科医
第12回		講義	教室	産褥(産褥の生理、産褥の異常)	教科書を読んでもくる * 1 P366~373	産婦人科医
第13回		講義	教室	産褥 (子宮復古不全、産褥熱、静脈血栓塞栓症、 妊娠・授乳と薬剤)	教科書を読んでもくる * 1 P374~394	産婦人科医
第14回		講義	教室	新生児の定義 新生児に起こりやすい病態 (新生児の特徴、循環器系の障害、呼吸器系の障害、 呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群)	教科書を読んでもくる * 1 P396~410	産婦人科医

第15回		講義	教室	新生児に起こりやすい病態 (新生児の人工呼吸管理、新生児の人工呼吸管理、 新生児低血糖症、新生児黄疸、新生児重症感染症) 新生児の蘇生、新生児の診察	教科書を読んてくる * 1 P411～431	産婦人科医
【必須文献・参考文献】 必須文献: 岡庭 豊(2021)株式会社メディックメディア 病気がみえる vol.10 産科 第4版 * 1 参考文献: 中込さと子(2024) ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 * 2						
【評価の方法】 筆記試験(100%)						
【受講生へのメッセージ】 周産期に関わる診断や検査、正常と異常について学び看護につなげてください。						
【担当教員の実務経験】 病院で医師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院の遺伝診療科での実務経験あり						

授業科目	母性看護援助論Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位 (30時間)	講義時期	第2学年 前期

【科目のねらい】

母性各期(妊娠)の対象を理解し、母子及び家族に及ぼす影響を考え個別的看護を展開する基礎を学ぶ。
分娩期を対象を理解し、分娩期における疾病予防を含めた個別的看護を展開する基礎を学ぶ。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	マタニティーサイクルにある人々の看護の主要な概念 妊婦の看護 1. 妊娠期における看護師の役割 2. 妊娠の生理	講義5回目までに妊婦体験を実施 教科書を読んでくる * 1 P28～47	専任教師
第2回		講義	教室	妊婦の看護 2. 妊娠の生理	教科書を読んでくる * 1 P41～53	専任教師
第3回		講義	教室	妊婦の看護 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 5. 出産と育児の準備のための看護	教科書を読んでくる * 1 P54～90	専任教師
第4回		演習	教室	妊婦健康診査に必要な技術 レオポルド触診/胎児心音聴取/腹囲測定/ 子宮底長測定/ 浮腫の観察	教科書を読み、動画を視聴する * 2 P28～33 71～73(83～86)	専任教師
第5回		講義	実習室	妊娠期の異常 1. 妊娠期の異常と看護のポイント 2. 異所性妊娠 3. 妊娠維持期間の異常	教科書を読んでくる * 1 P94～101	専任教師 病棟助産師
第6回		講義	教室	妊娠期の異常 4. 妊娠に伴う異常 5. 血液型不適合妊娠	教科書を読んでくる * 1 P101～110	専任教師
第7回		講義	教室	妊娠期の異常 6. 多胎 7. 合併症を有する妊娠 8. 妊娠期の感染症	教科書を読んでくる * 1 P110～122	専任教師
第8回		講義	教室	妊娠期の異常 9. 羊水量の異常 10. 胎児機能不全	教科書を読んでくる * 1 P123～132	専任教師
第9回		講義	教室	産婦の看護 1. 分娩期における看護師の役割 2. 分娩の生理	教科書を読んでくる * 1 P134～146	専任教師
第10回		講義	教室	産婦の看護 3. 産婦と胎児のアセスメント DVD「分娩経過のアセスメントと看護 分娩1～4期の看護実践」	教科書を読んでくる * 1 P147～160	専任教師
第11回		講義	教室	産婦の看護 4. 産婦のニーズと看護 5. 産婦と家族の心理	教科書を読んでくる * 1 P161～170	専任教師
第12回		演習	実習室	産痛緩和の看護	教科書を読んでくる * 2 P94～100	専任教師 病棟助産師

第13回		シミュレーション	実習室	分娩進行時の看護についてシミュレーション演習で学ぶ	第12回の演習の復習をしてきてください	専任教師
第14回		講義	教室	分娩時の異常 1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 娩出物(胎児)の異常 4. 娩出物(胎盤・臍帯・羊水)の異常	教科書を読んでくる * 1 P174～196	専任教師
第15回		講義	教室	分娩時の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩損傷 7. 異常出血 産科処置・手術	教科書を読んでくる * 1 P196～212	専任教師
【必須文献・参考文献】 必須文献: 小林康江(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 看護の実践 * 1 参考文献: 荒木奈緒(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 * 2						
【評価の方法】 筆記試験、レポート点、参加点の合計100点						
【受講生へのメッセージ】 講義、妊婦体験や演習を通して周産期の看護についての知識・技術を習得していきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】 病院で助産師としての実務経験あり						

授業科目	母性看護援助論Ⅲ	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位 (30時間)	講義時期	第2学年 後期

【科目のねらい】

産褥期の対象を理解し、産褥の生理的変化、褥婦に必要な保健指導、育児技術の習得を考えた個別的看護を展開する基礎を学ぶ。

新生児の生理を理解し、子宮外適応生活への援助について学ぶ。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	褥婦の看護 1. 産褥期の定義 2. 産褥期における看護師の役割 3. 産褥の生理	教科書を読んでくる * 1 P216～225	専任教師
第2回		講義	教室	褥婦の看護 4. 褥婦のアセスメントと看護	教科書を読んでくる * 1 P225～239	専任教師
第3回		講義	教室	褥婦の看護 5. 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護	教科書を読んでくる * 1 P239～249	専任教師
第4回		講義	教室	母乳育児への看護	教科書を読んでくる * 1 P253～274	病棟助産師
第5回		講義	教室	産褥期の異常① 1. 産褥期の出血・血栓症 2. 産褥期の感染症 3. 産褥期の下部尿路機能障害	教科書を読んでくる * 1 P284～290	専任教師
第6回		講義	教室	産褥期の異常② 乳房・乳頭のトラブルとケア 産褥精神障害・ボンディング障害	教科書を読んでくる * 1 P275～282 P290～291	専任教師
第7回		講義	教室	新生児の看護 1.. 新生児期における看護師の役割 2.. 新生児の生理	教科書を読んでくる * 1 P298～295	専任教師
第8回		講義	教室	新生児の看護 3. 新生児のアセスメント	教科書を読んでくる * 1 P308～314	専任教師
第9回		演習	実習室	新生児の看護 4. 新生児期のケア	教科書を読んでくる * 1 P314～322	専任教師
第10回		演習	実習室	新生児と家族への看護 ・沐浴 ・アウトバス ・おむつ交換	教科書を読んでくる * 2 P213～224	専任教師 病棟助産師
第11回		講義	教室	新生児の看護 ・正期産新生児の健康状態のアセスメント		専任教師
第12回		講義	教室	新生児の看護 ・育児技術獲得の看護 ・退院時の看護		専任教師
第13回		講義	教室	新生児期の異常 ハイリスク新生児の特徴 新生児にみられる呼吸・循環・体温・消化器の適応不全 新生児期における消化器の異常、代謝の適応障害	教科書を読んでくる * 1 P324～337	専任教師
第14回		講義	教室	産褥期にある女性の事例を用いて、情報収集・アセスメントを行う		専任教師
第15回		講義	教室	周産期医療システム、災害時の支援	教科書を読んでくる * 1 P362～369	専任教師

【必須文献・参考文献】

必須文献: 小林康江(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 看護の実践 * 1

参考文献: 荒木奈緒(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 * 2

【評価の方法】

筆記試験、レポート、参加点の合計100点

【受講生へのメッセージ】

分娩から退院後までの産褥期の看護を学びます。積極的に学んでいきましょう。

【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】病院で助産師としての実務経験あり

授業科目	母性看護学実習	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第3学年

【科目のねらい】
 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、健康維持・増進、疾病予防を含む対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。

実習内容	担当者																																																																																																																				
<p>【実習目標】</p> <p>I 妊婦の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査により、正常と異常の妊娠経過を理解できる。 妊婦が適切なセルフケアを行うための保健指導の重要性を理解できる。 <p>II 産婦の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 産婦の身体的・精神的特徴を理解し、分娩進行に応じた観察・援助について理解できる。 帝王切開術を受けた産婦の看護について理解できる。 異常分娩や産科処置を受けた産婦の看護について理解できる。 <p>III 褥婦の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 産褥経過について理解し、褥婦の状態に合わせた援助や保健指導が実施できる。 母乳育児を支える看護について理解できる。 母親になる事を支える看護について理解できる。 <p>IV 新生児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 母親および家族の健康状態と関連するリスクを把握する。 出生直後から24時間以内の看護の実際を理解する。 出生後24時間以降の観察ができ、アセスメントできる。 <p>【実習期間】 令和7年5月～10月 の期間に12日間実施する。</p> <p>【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院・3階西病棟・産婦人科外来</p> <p>【実習方法・スケジュール】 <スケジュール例></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td colspan="5">病棟・外来実習</td> <td colspan="5">病棟・外来実習</td> <td colspan="2">学内実習</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td rowspan="8"> 妊婦期の観察 「お母さん教室」 資料作成 実習のまとめ 記録作成 職種別実習 </td> <td rowspan="8"></td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> <td>褥婦担当</td> <td>切迫担当</td> <td>新生児担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>褥婦担当</td> <td>新生児担当</td> <td>切迫担当</td> <td>外来</td> <td>外来</td> <td colspan="5">看護過程の展開</td> </tr> </tbody> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		病棟・外来実習					病棟・外来実習					学内実習		学生	看護過程の展開					切迫担当	外来	外来	褥婦担当	新生児担当	妊婦期の観察 「お母さん教室」 資料作成 実習のまとめ 記録作成 職種別実習		学生	看護過程の展開					褥婦担当	切迫担当	新生児担当	外来	外来	学生	褥婦担当	外来	外来	新生児担当	切迫担当	看護過程の展開					学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開					学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開					学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開					学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開					学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開					専任教師
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																									
	病棟・外来実習					病棟・外来実習					学内実習																																																																																																										
学生	看護過程の展開					切迫担当	外来	外来	褥婦担当	新生児担当	妊婦期の観察 「お母さん教室」 資料作成 実習のまとめ 記録作成 職種別実習																																																																																																										
学生	看護過程の展開					褥婦担当	切迫担当	新生児担当	外来	外来																																																																																																											
学生	褥婦担当	外来	外来	新生児担当	切迫担当	看護過程の展開																																																																																																															
学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開																																																																																																															
学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開																																																																																																															
学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開																																																																																																															
学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開																																																																																																															
学生	褥婦担当	新生児担当	切迫担当	外来	外来	看護過程の展開																																																																																																															
<p>【実習記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受持ち患者記録、毎日の記録 看護技術経験チェック表 <p><詳細について「石巻赤十字看護専門学校臨地実習要綱」を参照すること></p>																																																																																																																					
<p>【必須文献・参考文献】</p> <p>必須文献:岡庭 豊(2021)株式会社メディックメディア 病気がみえる vol.10 産科 第4版 参考文献:中込さと子(2024) ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 必須文献:小林康江(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 看護の実際 参考文献:荒木奈緒(2024年)ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術</p>																																																																																																																					
<p>【評価の方法】</p> <p>母性看護学実習 評価表に基づいて、記録・レポート・出席率・参加度 100点</p>																																																																																																																					
<p>【受講生へのメッセージ】</p> <p>積極的に妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護の実際を見学・実践し、学びを深めていきましょう。</p>																																																																																																																					

授業科目	精神看護概論		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第1学年 後期		
【科目のねらい】 専門職業人として、精神の健康の状態やその変化に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	精神障害についての基本的な考え方 * 障害も生活を構成する因子の一つであることを理解し、人間の健康を身体的・心理的・社会的な視点から捉える。 * 精神障害は悩みや葛藤の延長線上にあり、人生のプロセスと切り離せないものであることを学ぶ。	事前課題:プリント配布 教科書①P.14~P.28熟読	専任教師
第2回		講義	教室	人間のこころと行動(1) * 人間のこころをみる視点 * こころの動きやストレスの影響	教科書①P.30~P.41 教科書②P.20~P.23 熟読	専任教師
第3回		講義	教室	人間のこころと行動(2) * コーピングやこころの防衛機制 * 心の危機と危機介入 * リカバリーとその支援	教科書①P.40~P.51 教科書②P.153 熟読	専任教師
第4回		講義	教室	人格の発達と情緒体験 * 母子関係における相互交流的なコミュニケーションと情緒体験のプロセスについて学ぶ。 * 他者との出会いやその関係性が、人格の形成に与える影響を学ぶ	教科書P.54~P.63熟読	専任教師
第5回		演習	教室・図書室・IT室	<グループワーク> 以下のテーマに沿って文献学習を行い、発表・質疑応答を行う * 各ライフステージにおけるメンタルヘルスの特徴について * 人間の成長発達やライフイベントに伴うストレスを理解し、それらがメンタルヘルスに及ぼす影響について	教科書P.66~P.95熟読	専任教師
第6回		演習				専任教師
第7回		講義	教室	第5回:オリエンテーション・グループワーク 第6回:グループワーク 第7回:発表・まとめ		専任教師
第8回		試験	教室	試験		専任教師
					以上	
【必須文献・参考文献】 ナースング・グラフィカ 情緒発達と看護の基本 精神看護学① メディカ出版 ナースング・グラフィカ 精神障害と看護の実践 精神看護学② メディカ出版 その他参考資料(講義時配布)						
【評価の方法】 筆記試験・レポート・グループワーク・出席時間数・受講態度等(100点)						
【受講生へのメッセージ】 こころを病むことの意味を疾患の枠組みからだけでなく、精神保健としてもっと広く、誰にでも起こりうる出来事として捉えられるよう学んでいきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	精神看護援助論 I		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第2学年 前期		
【科目のねらい】 多様な場で生活する人々の、精神の健康の保持・増進・疾病の予防および回復に関わる看護を行うための基礎的能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	現代社会とこころ * 現代社会の特徴とこころのありよう * 現代社会における家族のありよう	事前課題: 精神看護概論のレジュメの振り返り 教科書①P.79～P.95熟読	専任教師
第2回		講義	教室	心身症 嗜癖と依存	事前課題: 教科書①P.97～P.102、P.123～P.131 教科書②P.89～P.96熟読 教科書①P.127メディアAR視聴	専任教師
第3回		講義	教室	精神医療の歴史と看護 * 欧米の精神医療の変遷について	事前課題: 教科書①P.147～P.161熟読	専任教師
第4回		講義	教室	精神医療の歴史と看護 * 日本の精神医療の変遷について * 日本の精神医療の現状と問題点	事前課題: 教科書①P.147～P.176熟読 教科書①P.163メディアAR視聴	専任教師
第5回		講義	教室	精神保健医療福祉をめぐる法律(1) * 精神科医療に関する法の変遷について * 法の改正に伴う患者の処遇の変化	事前課題: 教科書①P.169～P.188、 教科書②P.232～P.234熟読 教科書①P.164メディアAR視聴	専任教師
第6回		講義	教室	精神保健医療福祉をめぐる法律(2) * 精神科医療に関する法の変遷について * 法の改正に伴う患者の処遇の変化		専任教師
第7回		講義	教室	家族とその支援	事前課題: 教科書①P.103～P.122熟読 教科書②P.283～P.284熟読	専任教師
第8回		講義	教室	「地域で暮らす」を支える(1) * 精神医療におけるリハビリテーションの意味 * 入院医療から地域社会での生活に向けた流れ	事前課題: 教科書②P.231～P.245熟読	専任教師
第9回		講義	教室	「地域で暮らす」を支える(2) * 地域生活を支える社会資源について	事前課題: 教科書②P.246～P.285熟読 教科書②メディアAR P.248、P.251、 P.252、P.259、P.261、P.266、P.272 視聴	専任教師
第10回		講義	教室	「地域で暮らす」を支える(3) * 地域生活を支える社会資源について		専任教師
第11回		グループ ワーク	教室 図書 室 IT室	グループワーク: ストレングスモデルの考え方 ねらい: ストレングスモデルの実際を、グループワークを 通して理解する <第1回>オリエンテーション・GW <第2回>GW <第3回>発表・まとめ	事前課題: 配布資料を熟読する 事後課題: レポートA4 1枚程度	専任教師
第12回						
第13回						
第14回		講義	教室	災害と精神看護 * 災害時の支援 * 災害と精神障害者 * 病院が被災したとき	事前課題: 教科書②P.220、P.285～P.290熟読 「精神科病院で働く看護師のための災害時ケ アハンドブック」(一般社団法人 日本精神保 健看護学会作成)を一読する	専任教師
第15回		講義	教室	看護の倫理と人権擁護 ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割	事前課題: 教科書①P.134～P.143、 P.190～P.233熟読 教科書①メディアAR P.143、P.199 視聴	専任教師
【必須文献・参考文献】 ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 その他参考資料(講義時配布)						
【評価の方法】 筆記試験・レポート、グループワーク等受講態度 100点						
【受講生へのメッセージ】 心を病む人々に対する看護の役割は、疾病によって生じる生活のしづらさ、困難さを調整し、支えることにあります。 精神医療と看護の歴史および法律の変遷、精神保健福祉法の基本的な考え方という苦手意識が先に立つと思われそうですが、一緒に学んでいきましょう。						
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	精神看護援助論Ⅱ	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(15時間)	講義時期	第2学年 前期

【科目のねらい】

精神疾患や障害をもつ対象を理解し、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	受講準備	担当者
第1回		講義	教室	精神疾患総論 統合失調症スペクトラム障害および他の 精神病的障害群	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.19～P.29、P.39～P.44、P.137～P.141 熟読	非常勤講師
第2回		講義	教室	抑うつ障害と双極性障害 精神療法	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.45～P.53、P.141～144、P.150～P.155 熟読	非常勤講師
第3回		講義	教室	不安障害、強迫性障害、ストレス因関連障 害、解離性障害、身体症状症および関連 症群	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.54～P.76、P.145～147熟読	非常勤講師
第4回		講義	教室	物質関連障害および嗜癖性障害群 家族療法、集団精神療法	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.89～P.96、P.148、P.154～P.155熟読	非常勤講師
第5回		講義	教室	神経発達症:成人期の自閉スペクトラム症 (ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、限局性 学習症(SLD) 社会療法	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.29～P.39、P.118～P.119、P.124～ P.130、P.148～P.149、P.156～158熟読 メディカAR P.158 視聴	非常勤講師
第6回		講義	教室	摂食障害、パーソナリティ障害	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.77～P.81、P.105～P.107熟読	非常勤講師
第7回		講義	教室	睡眠—覚醒障害、神経認知障害	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.82～P.89、P.96～P.104、P.144～P.146 熟読	非常勤講師
第8回		講義	教室	身体疾患と精神症状 電気けいれん療法	ナーシング・グラフィカ精神看護学② P.108～P.113、P.159～P.162熟読	非常勤講師
						以上

【必須文献・参考文献】

ナーシング・グラフィカ精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版
その他参考資料(講義時配布)

【評価の方法】

(筆記試験、レポート、出席時間数) 100点

【受講生へのメッセージ】

日本では複雑な社会情勢や時代の変化を反映して、精神障害の分類やとらえかた、疾患の種類も徐々に変化しています。治療のあり方も模索され続けてきました。薬物療法、精神療法、行動療法など多くの種類の治療方法があることも精神医療の特徴の一つです。さまざまな治療法を組み合わせる個別の治療が行われている事や精神看護の専門性、役割について考えていきましょう。

【担当教員の実務経験】 病院で精神科医としての実務経験あり

授業科目	精神看護援助論Ⅲ	担当者	非常勤講師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第2学年 後期

【科目のねらい】

精神疾患や障害をもつ対象の特徴を理解し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	受講準備	担当者
第1回		講義	教室	精神科看護における対象の理解 * 対象を全人的に把握するために必要な 系統的情報の内容を理解する。 * 精神的に障害をもつことによって引き起こされる日常生活行動のレベルについて理解し、その意味について考える。 * 対象関係の中で生じてくる葛藤や問題を、個々人の生育歴と照らし合わせながら理解する。	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.164～P.175熟読	精神医療センター看護師
第2回		講義 演習	教室	精神科看護におけるケアの方法① * 精神科における援助の特徴と意義を理解し、その具体的な方法を考えることができる。	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.177～P.209熟読 メディカAR P.183視聴	精神医療センター看護師
第3回		講義 演習	教室	精神科看護におけるケアの方法② * 生活を通して学習する患者にとっては、援助者自身が治療的環境の一部であることを理解する。		精神医療センター看護師
第4回		講義	教室	精神科看護におけるコミュニケーション技術① 「プロセスレコード」の目的・方法について学ぶ	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.175、P.183～P.184、P.352～P.357 熟読	精神医療センター看護師
第5回		講義	教室	精神科看護におけるコミュニケーション技術② 事例を取り上げ「プロセスレコード」を行う。		精神医療センター看護師
第6回		講義	教室	入院環境と治療的アプローチ① * 精神科病棟の特徴と入院する精神障害者のもつ問題を理解し、基本的援助について学習する。	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.211～P.229熟読 メディカAR P.213視聴	精神医療センター看護師
第7回		講義	教室	入院環境と治療的アプローチ② * 精神科病棟に入院するという意味について * 治療的環境について		精神医療センター看護師
第8回		講義	教室	救急医療現場における患者支援と精神的関わり * 救急医療現場での精神科的対応と看護の留意点 ・自殺未遂者 ・急性薬物中毒 等	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.291～P.300熟読	精神医療センター看護師
第9回		講義	教室	精神科における治療の特徴 * 精神科における治療がどのように行われているか * 治療におけるリスクマネジメントについて	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.132～P.137熟読 メディカAR P.132視聴	精神医療センター看護師
第10回		講義	教室	精神障害と看護の実践(1) * 統合失調症(急性期・慢性期)・パーソナリティ障害・うつ病・パニック障害・摂食障害・被虐待児症候群といった疾患名がついている患者の特徴を考えながらそれぞれのケースについて学ぶ。 ・統合失調症(急性期)のケース ・統合失調症(慢性期)のケース	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.39～P.44熟読 P.302～P.310熟読	精神医療センター看護師
第11回		講義	教室	精神障害と看護の実践(2) ・パーソナリティ障害患者のケース ・うつ病患者のケース	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.45～P.53、P.105～P.107熟読 P.311～P.320熟読	精神医療センター看護師
第12回		講義	教室	精神障害と看護の実践(3) ・パニック障害患者のケース ・摂食障害患者のケース ・被虐待児症候群、解離性障害患者のケース	精神看護学②精神障害と看護の実践 P.54～P.58、P.77～P.81、P.63～P.72 熟読 P.320～P.337熟読	精神医療センター看護師
第13回		講義	教室	精神障害を抱える人のリカバリーについて * 映画視聴を通し、精神疾患を持つ患者のリカバリーを促すための関わりについて検討する。	【事前課題】 これまでの精神看護学の学びの復習 【事後課題】 レポート提出	精神医療センター看護師
第14回		演習	実習室	シミュレーション「統合失調症患者への対応」 * 既習の知識をもとに(模擬)患者さんの状態をアセスメントし、コミュニケーションをとることができる * 自分の思いや考えを指導者に伝える事ができる。	【事前課題】 * 統合失調症の病態・症状 * コミュニケーション技術 【事後課題】 レポート提出	精神医療センター看護師 専任教師
第15回		演習	実習室			

【必須文献・参考文献】

ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本
ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践
その他参考資料(講義時配布)

【評価の方法】

筆記試験・レポート・出席時間数・受講態度等

【受講生へのメッセージ】

こころを病んだ人を目の前にしてその人を理解する過程そのものが看護であるといえます。身体的なケアの場はもちろん、作業やプログラム活動、レクリエーションなど日常生活のあらゆる場が「治療の場、学習の場」になることを理解していきましょう。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	精神看護学実習	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第3学年 後期
【科目のねらい】 精神科病棟および地域で生活する精神を障害された人々とその家族を理解する。また、精神科病棟および地域の施設で保健医療福祉チームの活動に参加し、精神に障害のある対象の看護に必要な基礎的能力を養う。			
実習内容			担当者
<p>【実習目標】 I. 入院治療を必要としている精神を障害された人々とその家族の看護を理解する。 II. 保健治療福祉チームにおける各職種の役割を理解するとともに、チーム内における看護師の役割について理解する。 III. 地域で生活している精神に障害のある人々が活用できるサービスの実際を理解するとともに、施設を利用している人々にふれることで病院と社会との中間施設の意義を学び、看護の役割を理解する。</p> <p>【実習期間】 令和7年9月から令和7年10月の期間に12日間実施する。12日間のうち2日間は地域施設実習、1日は学内演習とする。</p> <p>【実習施設・病棟】 病院実習 ・宮城県立精神医療センター 施設実習 ・東まつしま地域活動支援センター「カノン」 ・障害者日中活動支援施設「ぎんの星」 ・石巻メンテナンスセンター ・就労支援センター「AKARI」</p> <p>【実習方法・スケジュール】 宮城県立精神医療センター ・学生1名につき「統合失調症患者1名」を受け持ち看護過程を展開する。 ・詳細については「精神看護学実習要綱」を参照する。 1)精神医療センター見学実習(5時間) 病院の概要・施設設備の見学・入院患者との交流 2)精神医療センター実習(9日間:67.5時間) 患者を受け持ち、看護過程を展開する。看護場面を再構成し、その後の看護に活かす。 1～3日目:病棟・受け持ち患者オリエンテーション、受け持ち患者との対話 □看護場面の再構成」場面選出 4～6日目:再構成カンファレンス、病棟カンファレンス、(4～5日目)中間評価面接、具体策の立案 7～8日目:具体策の実施及び評価 8～9日目:最終評価面接、(実習最終日)反省会、(9日目～9:00)記録提出 3)学内演習(1日:4.5時間) 実習10日目:病院実習での学びの共有と、施設実習での目標を確認する。 実習時間:9:45～15:00 4)地域施設実習(2日間:13時間) 実習11～12日目:受け持ちは定めず、多くの利用者の方々と活動を共にしながら学習する。 実習時間:9:00～16:30</p> <p>【実習記録】 受け持ち患者記録、毎日の記録、看護上の出来事の再構成、地域施設実習記録、看護技術経験チェック表</p>			専任教師
<p>【必須文献・参考文献】 ナーシング・グラフィック 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィック 精神障害と看護の実践 精神看護学② メディカ出版 その他必要な文献は随時提示します。</p>			
<p>【評価の方法】 精神看護学実習評価表に基づいて、実習内容、実習態度、実習記録、出席状況等により総合評価 100点</p>			
<p>【受講生へのメッセージ】 患者さんが生活する場での看護体験を通じ、患者さんの障害されている部分だけでなく、健康な部分にも目を向けて下さい。また、自己洞察を通して、看護ケアそのものに加え、自己の傾向を知ることで今後の看護にぜひ役立てましょう。環境の変化で体調を崩さないように、健康管理にも気をつけて臨んでください。</p>			

授業科目	看護マネジメント		担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院 看護副部長	
単位数(時間)	1単位(15時間)		講義時期	第3学年 前期	
【科目のねらい】 質の高い継続した看護を提供するために、対象を取り巻くあらゆる資源を有効に活用するためのしくみや、マネジメントを理解するとともに、他職種との連携・協働について学ぶ。					
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	看護におけるマネジメント	看護副部長
第2回		講義	教室	看護ケアのマネジメント	看護副部長
第3回		講義	教室	看護職としてのセルフマネジメント	看護副部長
第4回		講義	教室	看護サービスのマネジメント	看護副部長
第5回		講義	教室	看護ケアのマネジメント	看護副部長
第6回		講義	教室	看護を取り巻く諸制度	看護副部長
第7回		講義	教室	看護サービスのマネジメント	看護副部長
第8回		講義	教室	マネジメントに必要な知識と技術	看護副部長
【必須文献・参考文献】 看護管理(医学書院)					
【評価の方法】 筆記試験・参加度 100点					
【受講生へのメッセージ】					
【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり					
【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり					

授業科目	医療安全		担当者	専任教師		
単位数(時間)	1単位(30時間)		講義時期	第3学年 前期・後期		
【科目のねらい】 人間を尊重し、生命の安全を守る看護者としての責任を果たすための基礎的能力を養う。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義	教室	医療安全とヒューマンエラー	教科書読んでくる P10～51	専任教師
第2回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 薬剤投与(注射・内服)	教科書読んでくる P64～82	専任教師
第3回		演習	実習室	診療の補助業務に関する医療安全 薬剤投与(注射・内服)	第2回の講義内容を復習して くること	専任教師
第4回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 輸血	教科書読んでくる P83～88	専任教師
第5回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 医薬品毒性ばく露と血管外漏出 規定医薬品(麻薬・向精神薬・毒薬・劇薬)	教科書読んでくる P89～97	専任教師
第6回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 輸液ポンプ・シリンジポンプ(使用時の管理) チューブ類の管理	教科書読んでくる P98～107	専任教師
第7回		演習	実習室	診療の補助業務に関する医療安全 輸液ポンプ・シリンジポンプ(使用時の管理)	第6回の講義内容を復習をし てくること	専任教師
第8回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 酸素ポンベの取り扱い	教科書読んでくる P114～119	専任教師
第9回		演習	実習室	診療の補助業務に関する医療安全 酸素ポンベの取り扱い	第8回の講義内容を復習をし てくること	専任教師
第10回		講義	教室	診療の補助業務に関する医療安全 検査・放射線被ばくと放射線関連の安全管理	教科書読んでくる P120～137	専任教師
第11回		講義	教室	療養上の世話に関する医療安全 転倒・転落、身体抑制	教科書読んでくる P140～153	専任教師
第12回		演習	実習室	療養上の世話に関する医療安全 転倒・転落、身体抑制 (KYT)	第11回の講義内容を復習し てくること	専任教師
第13回		講義	教室	療養上の世話に関する医療安全 熱傷などの皮膚障害 誤嚥・窒息・異食・誤飲	教科書読んでくる P154～167	専任教師
第14回		演習 GW	実習室	急変時の対応 急変デモンストレーション	教科書読んでくる P170～177	専任教師 院内講師
第15回		講義	教室	感染管理 災害時の救護活動における医療安全	教科書読んでくる P180～197	専任教師
【必須文献・参考文献】 これからの医療安全学 ピラールプレス 医療安全ワークブック 医学書院						
【評価の方法】 筆記試験、授業態度、参加度の合計100点						
【受講生へのメッセージ】 すべての看護技術が安全を確認して行う行為だということを認識しましょう。 演習やグループワークを通して医療安全について学び、身につけていきましょう。						
【担当教員の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり 【担当教員以外の実務経験】病院で看護師としての実務経験あり						

授業科目	災害看護学	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第3学年 後期

【科目のねらい】

災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を学ぶ。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	担当者
第1回		講義	教室	第2章災害看護学 災害看護の歩み 災害と情報 災害看護と法律	専任教師
第2回		講義	教室	災害看護とこころのケア 災害がもたらす精神的影響 こころのケアの基本 グリーフケア 被災支援者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア	外部講師
第3回		講義	教室	災害看護の基礎知識 災害看護の定義と役割 災害看護の対象 災害看護の特徴 災害看護における倫理課題 災害看護活動に必要な情報 アセスメント	専任教師
第4回		講義	教室	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 避難所とは 急性期・亜急性期 救護所および巡回診療における被災者への対応	専任教師
第5回		講義	教室	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 避難生活における健康と生活支援 慢性期・復興期 被災住民の生活と看護師の役割 静穏期	専任教師
第6回		講義	教室	被災者特性に応じた災害看護の展開 子ども 妊産婦 高齢者 障害者 精神 慢性疾患	専任教師
第7回		講義	教室	地震災害看護の展開 救護所について 発災直後から救護班として出動までの看護 急性期の救護班における看護 亜急性期の救護班における看護	専任教師
第8回		講義	教室	慢性期・復興期に看護ケア班における看護	専任教師
第9回		演習GW	教室	避難所設営机上演習① 急性期・亜急性期時の避難所の設営について	専任教師
第10回		演習GW	教室	避難所設営机上演習② 亜急性期・慢性期の避難所での支援について	専任教師
第11回	演習GW	演習GW	教室 その他	避難所演習 ・避難所での被災者支援について学ぶ。 ・これまでの講義や演習での学びを活かし、実践することができることを期待する。	救護服を着用して演習します。軍手、飲み物を各自準備してください。 ※終了後、救護服はクリーニングに出します。
第12回					
第13回					
第14回					
第15回		演習GW	学外	大規模災害訓練参加(予定) 参加後課題あり	専任教師

【必須文献・参考文献】

系統看護学講座専門 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院 2024年第5版

いのちとこころを救う災害看護 2008年初版

【評価の方法】

出席状況・授業参加状況・GW演習課題、レポート、試験等総合的に評価する。100点

筆記試験(50点)・演習GW(20点)・事後課題(15点)・参加点(15点)

【受講生へのメッセージ】

日本では、阪神淡路大震災から高まった災害への関心。この震災以後、国内外で多くの自然・人為災害が発生しています。特に2011年の東日本大震災は、日本はもとより、世界中の人々が胸を痛めました。このような中、看護は勿論、災害時の医療活動への期待も大きくなっています。看護者を目指す者として、災害時に何ができるのかを考え、赤十字に課せられた使命を今一度確認してみたいと思います。皆さんには、ニュース・新聞などの情報に目を通し、日々起こる災害へ関心を寄せていただきたいと思います。

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で臨床心理士としての実務経験あり

授業科目	看護技術統合演習	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(30時間)	講義時期	第3学年 後期

【科目のねらい】

既習の知識・技術、態度を統合し、臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、複数課題での総合的な判断・対応を学び臨床実践能力を養う。また、演習を通して、3年間の学習で習得した看護技術の総合的な評価を行う。

講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題(受講準備)	担当者
第1回		講義 演習	教室 図書室 IT	オリエンテーション 臨床判断能力 事例患者のアセスメント 情報収集の仕方 1日の看護師の業務	【事前】シラバス内容を確認し演習オリエンテーションに参加してください	専任教師
第2回		演習	教室 図書室 IT	4つの事例について課題となるケア計画を立案する ・患者の現状把握とケア時の留意点など	【事前】4つの事例を読み、不明点を調べて参加してください	専任教師
第3回		演習	教室 図書室 IT	個人課題で作成した4つの事例の看護計画をグループメンバーと共有する ・患者の現状把握とケア時の留意点など	【事前】4つの事例それぞれについて課題となるケアのケア計画を立案し参加してください	専任教師
第4回		演習	教室 図書室 IT	グループメンバーで共有したことをもとに、看護計画に追加・修正を行う	【事前】看護計画の追加・修正に必要な資料を用意し参加してください	専任教師
第5回		演習	実習室 1	4つの事例それぞれに指定されたケアについて看護計画をもとに実施練習を行う * 技術の手順だけでなく、患者の個別性にあった方法や声掛けを意識して練習を行う * 各専任教師にアドバイスをもらう	【事後】実施練習後、4つの事例の看護計画を修正・追加し、より個別性のある計画にしていきましょう	専任教師
第6回	各 専任教師					
第7回		個人 技術 試験	実習室1	個人技術試験		各 専任教師
第8回						
第9回		演習	教室 図書室 IT	机上シミュレーションオリエンテーション グループごとに業務遂行表を作成する①	【事前】前半の演習を振り返りましょう 事例や看護計画を読み直してください	専任教師
第10回		演習	教室 図書室 IT	グループごとに業務遂行表を作成する② * 演習終了時にグループの業務遂行表を提出する	【事前】優先順位の考え方を復習してきましょう	専任教師
第11回		演習	教室 図書室 IT	各専任教師から、業務遂行表へのアドバイスをもらい修正を行う	【事後】机上シミュレーション要項と業務遂行表によく目を通し、イメージを持ってシミュレーションに参加しましょう	各 専任教師
第12回		シミュ レー ション	実習室 1、2	業務遂行表の実施と多重課題への対応を机上シミュレーションで学ぶ		専任教師 院内講師
第13回						
第14回		演習		グループごとの振り返り		専任教師
第15回		演習	教室 IT	シミュレーション学習や助言をもとに実施内容の振り返りを行い、レポート課題に取り組む		専任教師

【必須文献・参考文献】

事例の理解に必要な教科書を持参してください。
系統看護学講座 専門 看護管理 看護の統合と実践1 2024年第11版 医学書院

【評価の方法】

個人技術試験50点、個人課題20点、参加点15点、事後レポート15点 計100点

【受講生へのメッセージ】

これまでの講義や実習で培った力をもとに、患者の状態を統合的にアセスメントする力、突発的な状況に対応する力など看護師らしい考え方ができる臨床判断能力を養っていきます。看護統合実習に活かされますので、しっかり課題に取り組んで

【担当教員の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

【担当教員以外の実務経験】 病院で看護師としての実務経験あり

授業科目	看護統合実習 I	担当者	専任教師
単位数(時間)	1単位(45時間)	講義時期	第2学年 全期
【科目のねらい】 看護におけるチームの協力の実際、チームメンバー・チームリーダーの役割について学ぶ。 また、看護を行う上で必要な多職種連携について学ぶ。			
実習内容			担当者
【実習目標】 1. チームナーシングシステムにおけるリーダー・メンバーの役割が理解できる 2. 多職種との連携・協働が理解できる			専任教師
【実習期間】 令和7年8月～令和8年3月の期間 6日間実習する。			
【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院 3階東病棟、4階西病棟、4階東病棟、5階西病棟、5階東病棟 6階東病棟 6階西病棟、北棟3階病棟			
【実習方法・スケジュール】 1日目 病棟オリエンテーション 2日目 担当看護師(メンバーやリーダー)のシャドーイング・他職種連携の見学 3日目 4日目 5日目 ↓*テーマカンファレンス「多職種連携・協働時の看護師の責任と役割」 6日目 反省会、評価面談、小テストなど			
【実習記録】 ・看護統合実習 I 記録 ・事前課題レポート オリエンテーション時に提示します ・事後課題レポート「多職種連携・協働における看護師の役割」			
【必須文献・参考文献】 系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 その他必要時提示します。			
【評価の方法】 看護統合実習 I 評価表に基づいて、実習内容、実習態度、実習記録、出席状況等により総合評価 100点			
【受験生へのメッセージ】 看護を行うために必要なチームの一員としての役割や多職種連携・協働を学ぶ実習です。どちらも、今後実習を行う上で必要な視点になってきます。興味関心を持って積極的に学びましょう。			

授業科目	看護統合実習Ⅱ	担当者	専任教師
単位数(時間)	2単位(90時間)	講義時期	第3学年 後期
【科目のねらい】 看護チームの一員としての体験、看護マネジメント、夜間実習、複数患者の受け持ちをとおして、知識、技術、態度を統合し、看護実践能力を身につける。			
実習内容			担当者
【実習目標】 1. 病棟管理の実際や他部門との調整などの見学を通して看護マネジメントについて理解する 2. 複数の患者を受持ち、患者の状況のアセスメントやケアの優先順位の判断、時間管理することで適切な看護の提供を考えることができる 3. チーム医療における看護師の役割を意識した行動をとることができる。 4. 夜間実習の体験を通し、患者の理解を深めることができる			専任教師
【実習期間】 令和7年12月に12日間実習する。			
【実習施設・病棟】 石巻赤十字病院 3階東病棟、4階西病棟、4階東病棟、5階西病棟、5階東病棟 6階西病棟、6階東病棟、北棟3階病棟			
【実習方法・スケジュール】 1日目 病棟オリエンテーション 2日目 看護マネジメントについて説明を受ける 3日目 業務遂行表立案し、担当看護師のシャドーイング 4日目 学生チーム看護実践日(業務遂行表作成、看護実践) 5日目 業務遂行表立案し、担当看護師のシャドーイング 6日目 ↓ 7日目 8日目 学生チーム看護実践日(業務遂行表作成、看護実践) 9日目 夜間実習(夜間の患者の様子、看護の見学) 10日目 業務遂行表立案し、担当看護師のシャドーイング 11日目 ↓ 12日目 反省会			
【実習記録】 ・統合実習記録 ・毎日の記録 ・事前課題レポート「看護サービスのマネジメント」その他実習オリエンテーション時に提示する ・事後課題レポート「チームの一員としての役割」			
【必須文献・参考文献】 系統看護学講座 専門 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院 その他必要な文献は随時提示します。			
【評価の方法】 看護統合実習Ⅱ評価表に基づいて、実習内容、実習記録、実習態度、出席状況等により総合評価 100点			
【受験生へのメッセージ】 学生最後の総仕上げの実習です。健康に留意し、自ら目標を持って積極的に実習に臨んでください。			

授業科目	特別講義(歯科・口腔疾患)	担当者	非常勤講師 石巻赤十字病院医師			
単位数(時間)	4時間	講義時期	第3学年 前期			
【科目のねらい】 歯科、口腔疾患領域の代表する疾患の原因、病態、検査、治療について学び、看護に役立てる。						
講義回数	実施日	形態	場所	主な授業内容	事前・事後課題	担当者
第1回		講義	教室	歯・口腔の構造と機能 症状とその病態生理 検査と治療・処置		歯科医師
第2回		講義	教室	疾患の理解 歯の異常と疾患 歯周組織の疾患 う蝕に継続する疾患 口腔粘膜の疾患 口腔領域の嚢胞 その他		歯科医師
【必須文献・参考文献】 講師資料						
【評価の方法】 試験はありません						
【受講生へのメッセージ】						
【担当教員の実務経験】 【担当教員以外の実務経験】						